ISSN 1348－902X

自治医科大学看護学部年報（第15号）
Annual Report Jichi Medical University School of Nursing

自治医科大学大学院看護学研究科年報（第11号）
Annual Report Jichi Medical University Graduate School of Nursing

2016

目　　次

○　**看護学部委員会等報告**

1. 人事委員会　春山　早苗 …… 5
2. 教務委員会　成田　　伸 …… 6
3. 学生委員会　大塚公一郎 …… 8
4. FD評価実施委員会　本田　芳香 …… 10
5. 研究推進委員会　小原　　泉 …… 11
6. 広報委員会　半澤　節子 …… 12
7. 編集委員会　村上　礼子 …… 14
8. 国家試験対策委員会　野々山未希子 …… 15
9. 臨地実習指導研修委員会　中村　美鈴 …… 17
10. 入試実施委員会　横山　由美 …… 19

○　**大学院看護学研究科委員会等報告**

1. 研究科委員会　春山　早苗 …… 23
2. 研究科委員会幹事会　永井　優子 …… 25

○　**教育研究分野別報告**

1. 看護基礎科学　大塚公一郎 …… 29
2. 基礎看護学　本田　芳香 …… 32
3. 地域看護学　春山　早苗 …… 35
4. 精神看護学　永井　優子 …… 38
5. 母性看護学　成田　　伸 …… 40
6. 小児看護学　横山　由美 …… 43
7. 成人看護学　中村　美鈴 …… 45
8. 老年看護学　宮林　幸江 …… 48

○　**大学院看護学研究科　教育の概要**

博士前期課程

実践看護学分野

1. 小児看護学　横山　由美 …… 53
2. 母性看護学　成田　　伸 …… 54
3. クリティカルケア看護学　中村　美鈴 …… 55
4. 精神看護学　半澤　節子 …… 57
5. がん看護学　本田　芳香 …… 58

地域看護管理学分野
6. 老年看護管理学　宮林　幸江 …… 61
7. 地域看護管理学　春山　早苗 …… 62
8. 看護技術開発学　村上　礼子 …… 63
9. 共通科目　永井　優子 …… 65
博士後期課程
1. 広域実践看護学分野　春山　早苗 …… 67

○　**研究業績録**

1. 看護基礎科学 …… 71
2. 基礎看護学 …… 73
3. 地域看護学 …… 75
4. 精神看護学 …… 79
5. 母性看護学 …… 81
6. 小児看護学 …… 82
7. 成人看護学 …… 83
8. 老年看護学 …… 87
9. 看護技術開発学 …… 89

○　**資料**

1. 2016年度（平成28年度）看護学部学年暦 …… 93
2. 自治医科大学看護学部の概況 …… 94
3. 看護学部教職員名簿 …… 95
4. 2016年度（平成28年度）大学院看護学研究科学年暦 …… 96
5. 大学院看護学研究科の概況 …… 96
6. 大学院看護学研究科教職員名簿 …… 97
7. 編集後記 …… 98

看護学部委員会等報告

人事委員会

委員長　春山　早苗

１．所管事項

⑴自治医科大学看護学部教員の選考に関する事項
⑵非常勤講師の選考に関する事項
⑶その他学部長が必要と認めた事項

２．委員会の構成

⑴「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に規定する者
（4名以上7名以内）

表1　構成員と役割

氏　　名	役　割
春山学部長	委員長
成田教務委員長	委　員
大塚学生委員長	委　員
本田ＦＤ委員長	委　員
被選考教員の関連領域の教授等	委　員
学部長が必要と認めた者（２名以内）	委　員

３．活動内容

⑴「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」第2条の規定により，表2のとおり人事委員会を開催した。

表2　2016年度の審議事項

回	開 催 日	審議事項
1	4月26日（火）	・平成28年度看護学部臨地教授等の付与について（資格審査）
2	6月21日（火）	・平成28年度非常勤講師の任用について
3	9月20日（火）	・平成28年度非常勤講師の任用について
4	10月25日（火）	・英語教育担当教員（講師）の候補者選考について ・保健学担当教員（講師）の候補者選考について ・平成29年度非常勤講師の任用について
5	11月22日（火）	・平成29年度非常勤講師の任用について ・学内教員の昇任申請について
6	12月20日（火）	・平成29年度非常勤講師の任用について ・精神看護学助教候補者の選考について（公募人数1名　応募者2名） ・地域看護学助教候補者の選考について（公募人数1名　応募者1名）
7	1月26日（火）	・平成29年度非常勤講師の任用について ・学内教員の昇任選考について
8	2月14日（火）	・小児看護学教員（助教）候補者の選考について（公募人数2名　応募者1名） ・学内教員の昇任選考について ・平成29年度非常勤講師の任用について
9	2月24日（金）	・成人看護学教員（講師）候補者選考について
10	3月21日（火）	・平成29年度非常勤講師の任用について

教務委員会

委員長　成田　　伸

1．所管事項

本委員会は，授業及び試験，単位及び課程の修了，学生の入学，退学，休学及び卒業等，学生の修学指導，授業関係の予算，その他学部長が必要と認めた事項を検討するために設置され，10名の委員と2名のオブザーバーで構成されている。

平成28年度は，前年度から取り掛かっていた平成29年度からの新しいカリキュラムの検討作業を継続し，申請，平成29年度からの新カリキュラム立ち上げを行った。また，長期的な展望をもった備品購入計画の立案，助産師国家試験受験資格に関わる学生選考，ポートフォリオの活用状況調査とその報告会の開催，看護学生の電子カルテ用パソコンの整備等を含め，多様な議題について審議し，課題解決に努めた。

2．委員会の構成

構成員と役割を表1に示した。

表1　構成員と役割

氏　　名	役　　割
成田　伸　　教授	委員長，夏季へき地研修（主）
永井　優子　教授	副委員長，カリキュラム運用（主）
大塚　公一郎　教授	時間割（主）
小原　泉　教授	実習調整（副）
中村　美鈴　教授	カリキュラム運用（副）
野々山　未希子　教授	助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考（主）
半澤　節子　教授	既修得単位認定（主）
本田　芳香　教授	共通物品管理（主）
宮林　幸江　教授	授業関係予算（主）
横山　由美　教授	実習調整（主）
渡邉　亮一　教授（オブザーバー）	既修得単位認定（副），時間割（副）
塚本　友栄　准教授（オブザーバー）	時間割（副）

3．活動内容

11回の委員会を開催した。委員会に先立って，各担当を中心として十分に事前検討し資料を作成し，委員会の実効性を高めた。

表2　平成28年度の審議事項

回	開催日	議　　題
1	平成28年4月14日	教務委員会年間計画，下部組織の年間計画，助産師国家試験受験資格に関わる学生選考，平成28年度単位未修得学生の履修計画，平成28年度教育支援者追加申請，看護実習における事故マニュアル，平成28年度版学生対応ルート，実践助産学Ⅰについて，平成28年度3年次前学期実習の担当教員（案）等
2	平成28年5月12日	前学期履修状況，3年次4月開講科目の単位認定状況，助産師国家試験受験資格に関わる学生選考，ポートフォリオ活用状況調査（対象は3年次前学期および後学期実習）および報告会（企画），平成27年度臨地教授等の講義・演習・実習への協力（結果）等
3	平成28年6月9日	助産師国家試験受験資格に関わる学生選考，平成28年度対象の理解実習の学生配置・担当教員（案），平成29年度以降教育用機器備品購入計画，平成28年度実習教育説明会の評価，ポートフォリオ活用状況調査，免疫の抗体がついていない学生の対応，助産学生の選考人数等
4	平成28年7月14日	助産師国家試験受験資格に関わる学生選考の面接試験評価票，平成29年度以降教育用機器備品購入計画（案），実習物品の管理，附属病院における学生の感染管理，前学期定期試験（1，2，4学年）日程，再試験，前学期履修状況（履修確定），カリキュラム運用担当報告，シミュレーション教育の実態調査，平成29年度授業関係予算，教室整備に係る予算（案），平成29年度各実習科目履修予定人数（案），平成29年度附属病院における看護学実習病棟及び控室に関する希望調査，年間実習配置案，平成28年度2年次後学期実習の実習ローテーション表・学生配置・担当教員（案），平成28年度3年次後学期実習学生配置表・担当教員（案），平成29年度教育支援者委嘱計画，夏季へき地研修の実施計画，看護実習における事故対応マニュアルの検討，電子カルテの疑義照会等
5	平成28年9月8日	前学期再試験の日程と試験評価締切，平成29年度版カリキュラム，平成29年度学年暦（案），平成29年度モデル時間割，平成29年度授業関係予算，教室整備に係る予算（決定），平成29年度以降教育用機器備品購入計画，平成29年度教育支援者委嘱計画，平成29年度科目等履修生開講授業科目・募集定員等，平成29年度附属病院における看護学実習病棟及び控室に関する希望調査，年間実習配置案，シミュレーション教育の実態調査結果，平成29年度各実習科目履修予定人数，平成29年度科目責任者，ＤＶＤの学内LANサーバーへのアップ，前学期定期試

		験の答案用紙持ち帰り，定期試験結果のフィードバックの徹底等
6	平成28年10月13日	前学期単位取得状況，総合実習の評価，平成29年度シラバスの依頼，平成29年度科目等履修生開講授業科目・募集定員等（確定），平成29年度モデル時間割，指定規則改正に伴う教育課程の変更承認申請書類（新カリキュラム申請）等
7	平成28年11月10日	後学期履修状況，シミュレーション教育（調査結果），平成29年度教育要項・学生便覧の仕様，平成29年度時間割，総合実習の評価（報告），GPAの計算方法，平成28年度学部長・学生懇談会の要望対応案，助産学専攻履修人数等
8	平成28年12月18日	後学期履修状況について（履修確定），平成29年度学年暦，オリエンテーション計画，平成29年度実習教育説明会の企画，平成29年度附属病院における看護学部実習病棟に関する調整結果，平成28年度予算（機器備品）の執行状況，平成29年度助産師国家試験受験資格関連科目受講生の選考，看護総合セミナー・総合実習要項，看護学実習における事故対応マニュアル，カリキュラム報告会・新カリキュラム説明会の実施計画，新カリキュラムにおけるへき地の生活と看護，試験成績表等
9	平成29年1月12日	後学期定期試験，平成29年度オリエンテーション計画，JUMP説明会，平成29年度看護基礎セミナーシラバス等の検討，平成29年度看護トピックスシラバス等の検討，平成29年度研究セミナーシラバスの検討，へき地の生活と看護要項（案），看護総合セミナー・看護総合実習要項および看護総合セミナーシラバスについて（案），ポートフォリオ検討会の実施計画（案），カリキュラム報告会・新カリキュラム説明会の実施計画（案），平成29年度実習教育説明会の企画，平成29年度3年次前学期実習ローテーション，平成28年度附属病院における看護学実習結果（報告），平成29年度附属病院における看護学部実習病棟に関する調整結果，平成29年度附属病院における看護学実習控室に関する希望調査，看護実習における事故対応マニュアル，平成29年度教育支援者の追加申請，新カリキュラム履修条件，平成30年度以降助産師国家試験受験資格関連科目受講学生の選考人数，成績表のＧＰＡ，平成29年度臨地教授等及び臨地教授等以外の臨地スタッフの講義・演習への協力依頼，実習の安全・安心が脅かされる出来事　総括報告書の提出依頼等
10	平成29年2月9日	4学年後学期取得単位卒業認定，平成29年度前学期（3年次）実習学生配置（案），平成29年度後学期（3年次）実習ローテーション（案），看護基礎セミナーの評価，文献講読セミナーの評価と次年度シラバス，平成29年度教育用予算内示，平成29年度オリエンテーション計画（決定），看護トピックスの評価，看護総合セミナー・看護総合実習要項，ポートフォリオ検討会の実施計画，平成29年度実習教育説明会の企画，平成29年度附属病院における看護学実習控室，看護学実習における事故対応マニュアル，新カリキュラム履修条件，平成29年度教育要項「看護学分野の教育内容」，臨地教授等への協力依頼（年度当初の予定），成績評価に関する学習成果のフィードバック実態調査結果，インフルエンザの取り扱い，試験監督マニュアル，答案用紙の持ち帰り等
11	平成29年3月9日	休学・退学・復学，平成28年度単位取得状況，平成29年度助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査，平成30・31年度助産師国家試験受験資格関連科目の受講学生選考審査（案），新カリキュラム説明会・カリキュラム検討会（結果），ポートフォリオ報告会（結果），平成29年度3年次前学期実習学生配置，平成28年度教務委員会下部組織活動報告，平成29年度看護総合セミナー・看護総合実習，平成29年度臨地教授等および臨地教授等以外の看護スタッフへの講義・演習・実習への協力依頼一覧の提出，平成29年度学生便覧，平成29年度科目責任者，平成29年度「へき地の生活と看護」要項，健康診断の未受診学生への対応，電子カルテ用ノートパソコン等

学生委員会

委員長　大塚公一郎

１．所管事項

⑴学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
⑵学生の健康管理及び学生相談に関する事項
⑶学生のキャリア支援に関する事項
⑷学長賞等の選考に関する事項
⑸看護学部学生寮の管理運営に関する事項
⑹奨学生の採用及び貸与に関する事項
⑺その他学部長が必要と認めた事項

２．委員会の構成

学生委員会の機能を果たすために，奨学生選考担当，キャリア支援担当，学友会幹事がおかれた。役割担当（委員会外教員も含む）は，表1の通りである。

表１　構成員と役割

氏　　名	役　　割
大塚公一郎　教　授	委員長
本田芳香　　教　授	副委員長 奨学生選考担当
北田志郎　　准教授	委員 学友会幹事
里光やよい　准教授	キャリア支援担当
鈴木久美子　准教授	奨学生選考担当
角川志穂　　准教授	キャリア支援担当
中野真理子　講　師	キャリア支援担当
長谷川直人　講　師	キャリア支援担当

表2　下部組織

氏　　名	役　　割
江角伸吾　　助教	キャリア支援担当
宗像修　　助教	キャリア支援担当

３．活動内容

学生委員会は，「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援すること」を第一の目的とする委員会である。

上記目標に即して，平成28年度も，学生委員会は，学業（課外活動も含む）の奨励・支援，学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援，学生の健康問題解決への支援，学生への経済的支援，学生への進路指導であるキャリア支援を行った。

学部の学生は学生自治会を，また寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し，自主的に運営している。この二つの自治会の運営の支援も本委員会が担当した。これらの活動は，本学部の看護学務課，看護総務課との緊密な相談・連携のもと行われた。

学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援は，各学生委員の学生との直接相談，学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談，カウンセリングルーム活用の奨励などを通して行った。学生の健康問題解決への支援は，学生健康管理チームが中心となって行い，また大学保健室の行う検診への受診の奨励，個々の学生の健康相談などを行った。

学生への経済的支援は，主に奨学金の選考・推薦を通して行われた。自治医科大学看護学部奨学金，日本学生支援機構奨学金の選考・推薦を行った。

学生の将来の進路決定の支援は，キャリア支援担当が中心となって行った。28年6月6日に行われた附属病院による就職説明会とは別に，29年2月21日には3年生対象に，看護部，看護学部同窓会の協力を得て進路支援ガイダンスの目的として「将来のキャリアを考える会」を実施した。

学生自治会，寮自治会の運営の支援は，学生委員会委員と両自治会役員との懇談を通して行われた。寮生活そのもの支援として，入寮案内，寮生活オリエンテーション，防災訓練，寮規則違反者などへの指導などが行われた。

部活動，クラブ活動，サークル活動などの課外活動を，学友会（本学部では，学生委員会が所掌）を通して奨励した。薬師祭（学園祭）の開催を支援した。

学業（課外活動も含む）の奨励・支援の一環として，看護学部校舎における防災訓練を行った。４学年卒業予定者のなかより，学長賞候補者を選考し３名推薦した。

本学部生のうち奨学生となるものの自覚を促すために，28年度学生便覧の奨学金関係の項目の改訂，補充を行った。

学生委員会は，8月を除いて毎月定例開催され，合計11回開催された。

表３　平成28年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2016年4月7日	⑴年間予定 ⑵役割分担
2	2016年5月18日	⑴女子学生寮防災訓練 ⑵奨学金貸与申請 ⑶学生役割分担 ⑷キャリア支援関係
3	2016年6月2日	⑴女子学生寮防災訓練 ⑵学生支援機構奨学金 ⑶看護学部校舎防災訓練日程
4	2016年7月7日	⑴学部校舎防災訓練 ⑵学生寮防災訓練報告 ⑶キャリア支援関係 ⑷就職の学内推薦
5	2016年9月1日	⑴学部校舎防災訓練 ⑵駐車場申請許可 ⑶キャリア支援関係
6	2016年10月6日	⑴キャリアガイダンス ⑵進路決定届提出状況
7	2016年11月10日	⑴校舎防災訓練報報告 ⑵学生支援機構奨学金 ⑶キャリアガイダンス
8	2016年12月1日	⑴学長賞選考委員検討 ⑵キャリアガイダンス
9	2017年1月5日	⑴卒業式送辞担当学生 ⑵「将来のキャリアを考える会」計画 ⑶学部および学生支援機構奨学金説明会報告
10	2016年2月2日	⑴学長賞選考 ⑵卒業式総代など担当学生について ⑶日本私立看護系大学協会会長賞推薦について ⑷将来のキャリアを考える会プログラム ⑸学生便覧奨学金項目変更
11	2016年3月2日	⑴平成29年度女子学生寮防災訓練日程 ⑵学部および学生支援機構奨学金 ⑶平成29年度キャリア支援プログラム実施計画案およびキャリアを考える会報告 ⑷平成29年度新入生懇談会日程 ⑸看護学部駐車場許可

FD評価実施委員会

委員長　本田　芳香

1．所轄事項

本委員会の所管事項は，以下の6点である。

1．授業内容及び方法の評価に関する事項
2．教員の資質開発に関する事項
3．教員研修会の企画・実施に関する事項
4．教育内容等の改善のための組織的取り組むに関する事項
5．編集に関する事項
6．その他学部長が必要と認めた事項

2．委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表１に示すとおりである。

表１　構成員と役割

氏　　名	役　　割
本田芳香教授	委員長　FD報告書担当
中村美鈴教授	副委員長　FD研究会担当
塚本友栄准教授	FD評価票担当，授業評価実施施マニュアル担当
浜端賢次准教授	FD評価票担当，FD研究会担当
田村敦子講師	FD研究会担当，FD報告書担当
平尾温司講師	FD評価票担当

3．活動内容

本委員会は，今年度は表2に示すとおり10回の委員会を開催した。平成28年度FD研究会（2回），FDマップ活用によるFD自己評価，授業評価マニュアル，FD報告書作成について検討をおこなった。

表２　委員会開催

回	開催日	審議事項
1	2016年4月14日	年間運営方針，年間計画，役割分担
2	2016年5月19日	FD研究会，FDマップ，授業評価マニュアル
3	2016年6月16日	第1回FD研究会，FDマップ活用に関するアンケート調査，授業評価マニュアル
4	2016年7月14日	FDマップ活用に関するアンケート調査
5	2016年9月1日	第2回FD研究会
6	2016年10月6日	第1回FD研究会評価，FDマップ活用に関する改善案，前学期における学生による授業科目評価
7	2016年11月17日	第2回FD研究会，科目責任者による授業評価
8	2016年12月12日	臨地実習科目の授業評価に関するアンケート結果
9	2017年2月2日	平成29年度FD研究会，平成28年度FD研究会報告書，平成28年度第2回FD研究会
10	2017年3月13日	平成28年度WG評価 第2回FD研究会アンケート結果

4．活動評価

FD研究会は，2回開催した。1回目は教育の質保証及び教育力向上のための組織的活動の仕組みづくりを教示いただいた。2回目は，教育の質保証の一環としてティーチングポートフォリオの実際について教示いただいた。ポートフォリオ活用の実際を通して教育力質向上に寄与したと評価する。FD評価票に関する事項では，教育力・研究力向上に向けたFDマップ活用上の課題に関するアンケート調査を実施したが，概ね有効に活用されていたと評価できる。授業評価マニュアルに関する事項では，「科目責任者による総合評価報告書」の一部見直しを行い，次年度はその評価を行う予定である。FD研究会報告書は年度内刊行を行った。

研究推進委員会

委員長　小原　　泉

1．所轄事項

本委員会の所管事項は，①看護職等との共同研究費に関する事項，②研究活動評価に関する事項，③研究活動の充実・活性化に関する事項，である。

2．委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。

表1　構成員と役割

氏　　名	役　　割
小原　泉　　教授	委員長，教育・研究関連施設からの研究支援依頼および競争的研究費獲得支援の担当者のサポート
野々山典子　教授	副委員長，間接経費応募とりまとめ，看護学部共同研究費担当者のサポート
鈴木久美子　准教授	看護学部共同研究費担当
川上　勝　　准教授	教育・研究関連施設からの研究支援依頼担当，間接経費応募に関するとりまとめ担当者のサポート
清水みどり　講師	競争的研究費獲得支援担当
長谷川直人　講師	競争的研究費獲得支援担当

3．活動内容

本年度の委員会開催と審議事項を表2に示す。

看護学部共同研究費は最終的に計11件に配当し，残額で医学翻訳ソフトとグラフ作成ソフト等と当該ソフトをインストールするノートパソコン1台購入した。

教育・研究関連施設への研究支援は，芳賀赤十字病院新規研究9件，さいたま医療センター新規研究4件および継続研究4件，附属病院の研究指導担当者グループへの支援を行った。

競争的研究費獲得支援としては，9月8日（木）に看護学部教員研究ミーティングを開催し，24名（約50％）が参加した。看護学部半澤節子教授，福田順子講師および石井慎一郎助教より研究活動の紹介があり好評であった。競争的研究費の公募情報を看護総務課ホームページに集約化し，研究活動を推進した。文部科研費申請件数は9件（前年度比－2件）であった。

平成29年度競争的資金間接経費への応募については，看護学部教員の研究活動の機能向上を目的に，研究支援者雇用に関する人件費を要望し，採択された。

表2　2016年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2016年 4月14日	1．平成28年度委員会の開催日程・役割分担 2．教育・研究関連施設からの研究支援依頼 3．平成28年度看護学部教員共同研究費の申請 4．平成28年度科学研究費助成事業の交付状況 5．平成28年度競争的資金の間接経費への応募
2	5月12日	1．教育・研究関連施設からの研究支援依頼 2．平成28年度看護学部共同研究費 3．平成28年度競争的研究費獲得支援
3	6月9日	1．平成28年度競争的研究費獲得支援 2．共同研究費残額の使途
4	7月14日	1．教育・研究関連施設からの研究支援依頼 2．平成28年度競争的研究費獲得支援 3．競争的資金間接経費での購入備品の保守契約
5	9月2日～ 9月9日	教育・研究関連施設からの研究支援依頼について（メール審議）
6	10月13日	平成28年度競争的研究費獲得事業看護学部教員研究ミーティングの評価
7	12月8日	平成29年度競争的資金間接経費への応募
8	2017年 2月9日	1．平成29年度競争的資金間接経費への応募 2．教育・研究施設への研究支援状況 3．平成29年度研究推進委員会の日程案

広報委員会

委員長　半澤　節子

1．所管事項

本委員会の所管事項は，①広報誌，パンフレットなどの作成および発行に関する事項，②ホームページの作成および管理に関する事項，③オープンキャンパスの実施に関する事項，④その他学部長が必要と認めた事項として，進学説明会や模擬授業，体験学習（南河内第二中学校），進路担当教諭のための看護学部進学説明会などへの対応があった。

2．委員会の構成

本委員会の構成員は6名であり，表1に示す役割を分担した。なお，オープンキャンパスはすべての委員により表2に示す役割を分担した。

表1　構成員と役割

氏　　名	役　　割
半澤　節子　教授	委員長
横山　由美　教授	副委員長
佐藤　幹代　准教授	パンフレット担当
里光やよい　准教授	パンフレット担当
関山　友子　講師	広報誌担当 中学校体験学習
平尾　温司　講師	広報誌担当

表2　下部組織（オープンキャンパスの役割分担）

担当者氏名	役　　割
半澤　節子　教授	統括
横山　由美　教授	副統括
佐藤　幹代　准教授	学生寮見学
里光やよい　准教授	模擬授業，学生広場
関山　友子　講師	学部施設見学
平尾　温司　講師	バス乗車誘導

3．活動内容

広報誌「ビタミンN」，パンフレット「Campus Guide 2018」の作成・発行については，例年同様に予定通り発行した。広報誌「ビタミンN」は学生や保護者のニーズに合った情報を提供できるよう，写真などを多く掲載した。また，パンフレット「Campus Guide 2018」は，受験生や保護者，高校の進学担当教諭にとって読みやすいものとなるようページ立てを見直すとともに，平成29年度に開始される新カリキュラムに対応した内容に入れ替えを行った。

ホームページについては，大規模な改訂が大学全体で平成30年度予定されているため，必要な部分のみの変更を行った。

オープンキャンパスについては，すべての委員とその他の教職員，学生アルバイトの協力によって，5月，7月，8月の計3回実施することができた。来校者の人数は，157名（5月），736名（7月），554名（8月）と合計1,447名の来校者に達し，前年度に比べて60人程増加がみられた。

進学相談会・進学説明会・模擬授業への対応については，平尾講師，浜端准教授，北田准教授，横山教授，永井教授といった教員，看護学務課の職員の協力により実施することができた。

体験学習（南河内第二中学校）は6月と7月の2日間の日程で行われ，関山委員のリーダーシップのもと，地域看護学の教員により，看護学部4年次生101名の協力を得ながら，117名の中学生と10名の引率教諭の体験学習も対応することができた。

進路担当教諭のための看護学部進学説明会は，5月のオープンキャンパスの午前に行われ，例年同様に推薦指定校を含む23校の教諭24名の参加が得られた。

表3　平成28年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月14日	①平成28年度広報委員会の活動内容 ②役割分担と担当業務 ③年間の委員会開催日程 ④オープンキャンパス実施計画 ⑤進路担当教諭のための看護学部説明会の実施計画 ⑥体験学習（南河内第二中学校）の実施計画
2	5月12日	①第1回オープンキャンパス実施計画の確認 ②進路担当教諭のための看護学部説明会の実施計画 ③第2回，第3回オープンキャンパスの実施計画 ④パンフレット「Campus Guide2018」の企画
3	6月9日	①進路担当教員のための看護学部説明会の実施結果と評価 ②第1回オープンキャンパス実施結果と評価 ③第2回オープンキャンパスの実施計画 ④パンフレット「Campus Guide2018」の企画
4	7月14日	①第2回および第3回オープンキャンパス実施計画の確認 ②パンフレット「Campus Guide 2018」の構成

		③日本看護系大学協議会「ザ・データベースオブJANPU」について ④次年度の予算案
5	9月8日	①第2回および第3回オープンキャンパス実施結果と評価 ②パンフレット「Campus Guide 2018」の構成 ③広報誌「ビタミンN」編集方針
6	11月10日	①広報誌「ビタミンN」のページ立て ②パンフレット「Campus Guide 2018」の構成 ③次年度オープンキャンパスの日程
7	12月8日	次年度のオープンキャンパス企画概要（ホームページ掲載分）
8	2月9日	①次年度の体験学習（南河内第二中学校）の日程調整と概要 ②次年度の第1回オープンキャンパスの企画概要 ③次年度進路担当教諭のための看護学部説明会 ④新入生対象の本学志望動機に関するアンケート実施

編集委員会

委員長　村上　礼子

１．所轄事項

本委員会の所管事項は，自治医科大学看護学ジャーナルおよび自治医科大学看護学部年報，自治医科大学大学院看護学研究科年報の刊行に関する事項，その他学部長が必要と認めた事項である。

２．委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表１に示す通りである。

表1　構成員と役割

役　割	氏　名
委員長	村上礼子教授
副委員長	宮林幸江教授
年報の編集・刊行担当	宮林幸江教授 飯塚秀樹講師（7月末退職）
看護学ジャーナル担当	村上礼子教授 小原　泉教授 塚本友栄准教授 平尾温司講師

３．活動内容

本委員会は，今年度は表2に示す通り5回の委員会を開催し，看護学ジャーナル投稿規定の一部改定，投稿論文チェックリストの改定，平成28年度年報の編集内容の検討などについて検討をおこなった。

表2　委員会開催

回	開催日	審議事項
1	2016年 4月15日	年間方針，年間計画，役割分担 投稿規定，投稿チェックロストの検討 年報の規定，編集内容の検討 看護学ジャーナル第14巻掲載論文の一部取り下げ 著作権管理団体への複製利用許諾の検討
2	5月11日	投稿規定の一部変更検討
3	8月8日	看護学ジャーナル第14巻投稿論文の一部採否と原稿種類の決定
4	10月21日	看護学ジャーナル投稿論文審査規程の運用
5	2017年 2月16日	看護学ジャーナル第14巻掲載論文の一部取り下げ，看護学ジャーナル第14巻投稿論文の採否と原稿種類の決定 次号年報の目次検討

自治医科大学看護学部年報（第14号）は，自治医科大学大学院看護学研究科年報（第10号）とあわせて発行した。

自治医科大学看護学ジャーナル（第14巻）は，特別寄稿1編ならびに論文2編にて刊行した。投稿論文は計6編あり，1編につき1名の担当編集委員を選定，2名の査読者が論文内容の査読にあたった。

さらにより質の高い看護学ジャーナルの投稿を目指し，看護学ジャーナル投稿規程の一部見直し，ならびに投稿チェックリストの改訂をおこなった。

なお，自治医科大学看護学部年報（第14号）および自治医科大学大学院看護学研究科年報（第10号）は，国立国会図書館をはじめ，政府関係機関，学外の実習関連施設，全国の看護系大学，栃木県関係，県内の看護系学校，総合病院などへ送付した。

国家試験対策委員会

委員長　野々山未希子

1．所管事項

本委員会の所管事項は，保健師・助産師・看護師国家試験を受験する本学部の在学生や卒業生が国家試験に合格するように，学習環境を整え，学習相談などの支援を行うことである。

2．委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。また，本委員会の下部組織として設置されたワーキンググループの構成員を表2に示す。委員会活動は，委員会の委員とワーキンググループの委員とが協力して行った。

表1　委員会の構成員と役割

氏　名	役　割
野々山　未希子　教　授	委員長
渡　邉　亮　一　教　授	副委員長
北　田　志　郎　准教授	委　員
浜　端　賢　次　准教授	委　員
佐々木　雅　史　講　師	委　員
島　田　裕　子　講　師	委　員

表2　ワーキンググループの構成員

氏　名	役　割
青　木　さぎ里　助　教	委　員
石　井　慎一郎　助　教	委　員
古　島　幸　江　助　教	委　員
宗　像　　修　助　教 （4月1日～9月30日）	委　員
八　木　街　子　講　師 （10月1日～3月31日）	委　員
湯　山　美　杉　助　教	委　員

3．活動内容

本年度は，計11回の委員会を開催した（表3）。

委員会活動としては，国家試験受験に向けてのガイダンスを4年生に2回，3年生に1回実施した。次に，国家試験対策のための模擬試験を，保健師は2回，助産師は2回，看護師は3回実施した。これらの模擬試験の成績を踏まえて，学生の個別面接・指導およびグループ指導を実施した。学生指導は，学生を5グループに分け，それぞれのグループを委員1名とワーキンググループの構成員1名がペアを組んで担当し，学習方法や学習上の悩みなどの学習相談を行った。また，国家試験出題科目を担当する各領域で，2016年9月および2016年11月から2017年1月にかけて国家試験対策ゼミを開講した。

学習環境の整備としては，学生サロンに設けられた国家試験対策コーナーに受験参考書や問題集，業者が実施する国家試験対策模擬試験・国家試験対策講義（講習）のパンフレットを置き，学生が自由に閲覧できるようにした。

2016年度の国家試験の結果は表4に示すとおりである。本学部の合格率は3資格ともに全国平均を上回り，助産師の合格率は100％であった。次年度以降も高い合格率を維持できるように，引き続き国家試験対策に力を注いでいく必要がある。

表3　2016年度の審議・報告事項

回	開催日	審議事項
1	平成28年 4月14日	⑴新委員の紹介 ⑵年間スケジュール ⑶4年生に対する国家試験対策ガイダンスの報告 ⑷模擬試験日程および担当者案 ⑸国家試験対策ゼミ ⑹低学年対象専門基礎科目実力確認テストの結果 ⑺担当学生個別面接の実施 ⑻国家試験対策模擬試験マニュアル案
2	5月12日	⑴ 模擬試験日程および担当者の決定 ⑵国家試験対策模擬試験マニュアルの決定 ⑶保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書について ⑷担当学生の個別面接の結果報告
3	6月9日	⑴第1回看護師国試験模擬試験実施結果 ⑵第2回・3回看護師国家試験模試の担当者 ⑶担当学生の個別面接の結果報告
4	7月14日	⑴第1回看護師国試験模擬試験実施・全体結果 ⑵第1回看護師国家試験模試低成績者・面接状況 ⑶9月国家試験対策ゼミ ⑷担当学生の状況
5	9月8日	⑴看護必修模擬試験・第1回保健師国家試験模擬試験の監督者 ⑵第2回看護師国家試験模擬試験の監督者 ⑶本年度国家試験日程 ⑷本年度国家試験合格発表日・3月会議日程 ⑸状況設定問題における単問の導入について ⑹看護系国家試験対策ゼミ日程調整担当者の決定 ⑺国家試験対策委員の第5グループ教員の決定 ⑻第1回看護師国家試験模試面接結果・担当学生の状況

6	10月13日	⑴ワーキング教員の変更 ⑵看護師必修模試・第2回看護師国試験模擬試験受験状況 ⑶国家試験出願手続き説明会 ⑷担当学生の状況
7	11月10日	⑴第1回保健師模擬試験の受験状況の報告 ⑵看護師必修模試・第2回看護師国試験模擬試験結果の報告 ⑶3年生に対する国家試験ガイダンス ⑷4年生国家試験受験説明会配布資料 ⑸国家試験対策ゼミ ⑹学部長・学生懇談会の要望対応案 ⑺担当学生の近況報告
8	12月8日	⑴第1回助産師模試＆第1回保健師模擬試験結果の報告 ⑵12月・1月模試予定 ⑶国試対策ゼミ実施状況 ⑷国家試験受験説明会開催 ⑸学部長懇談会意見に関する学部長からの指示 ⑹担当学生の近況報告
9	平成29年1月12日	⑴第3回看護師模試，第2回助産師模試，第2回保健師模擬試験実施状況の報告 ⑵3年生模試の試験監督者 ⑶国試対策ゼミ実施状況 ⑷担当学生の近況報告
10	2月9日	⑴第3回看護師模試，第2回助産師模試，第2回保健師模擬試験実施結果の報告 ⑵国家試験受験説明会 ⑶担当学生の近況報告
11	3月27日	⑴国家試験の合格発表におよび不合格者への対応 ⑵低学年対象専門基礎科目模擬試験実施結果の報告 ⑶4年生に対する国家試験対策オリエンテーション

表4　2016年度保健師助産師看護師国家試験の結果

区分	資格	受験者数（人）	合格者数（人）	合格率（全国）（%）
本学	看護師	104	101	97.1（88.5）
	保健師	102	93	91.2（90.8）
	助産師	8	8	100.0（93.0）

臨地実習指導研修委員会

委員長　中村　美鈴

1．所管事項

1．臨地実習指導研修会の開催に関する事項
2．臨地実習指導研修会のプログラムに関する事項
3．その他学部長が必要と認めた事項

2．委員会の構成

構成委員は6名で，表1に示す通りである。

表1　構成員と役割

氏　名		役　割
中村　美鈴	教　授	委員長
宮林　幸江	教　授	副委員長
永井　優子	教　授	委　員
里光やよい	准教授	委　員
清水みどり	講　師	委　員
福田　順子	講　師	委　員
安島　幸子	課　長	事務局
野口　大輔	主　事	事務局
中村　里子	嘱　託	事務局

3．活動内容

平成28年度は，これまでの臨地実習指導研修会の開催に加え，臨地教員の実習教育の質的向上を目指して，新規企画として臨地教員の研修会の開催を行った。具体的活動内容を次に記す。

＜臨地実習指導研修会の開催＞

【目的】

自治医科大学における看護学部教育の理念に基づいて，臨地の場における看護学実習をより効果的に行うことを目的とする。

【目標】

1）本看護学部の教育理念に基づいた看護学実習の目的および目標を理解する。
2）臨地実習指導の基本を理解する。
3）看護実践の場における教育支援方法の実際を学ぶ。

【日程】

第1日目　平成28年9月6日（火）9：00－16：00
第2日目　平成28年9月7日（水）9：00－16：00

【参加者数】50名

【会場】学習室

【前年度実施からの変更事項と次年度に向けての課題】

・受講対象者は，クリニカルラダーⅢ修了生以上と変更となったため，受講対象者の状況を踏まえ，研修会の事例を改定した。アンケートの結果から肯定的な意見が多く，研修会は好評だった。次年度に向けての課題として，教員と臨床指導者の立場からの登壇後，討議内容が深まるよう，次年度は交流集会を設ける。また，ワールドカフェの説明を工夫するなど，方法を検討する運びとなった。

＜新規企画　臨地教員の研修会の開催＞

【目的】

看護学部臨地教員の本看護学部における実習教育上の現状と課題を把握し，看護実践教育力の向上を図るための今後のあり方を検討する

【目標】

1）本看護学部実習教育における看護実践教育力について理解を深める。
2）臨地教員の実践教育に関する現状と課題を知る。
3）臨地教員の実践教育力の向上を図るための具体策を検討する。

【日程】平成29年2月27日

【参加者数】34名

【会場】大教室Ⅰ

【次年度に向けての課題】

・講師を教務副委員長の永井教授に「本看護学部実習教育における看護実践教育力とは」というテーマで，講義を依頼した。アンケートの結果より，研修会全体やグループワークならびに講義についての回答では「とてもそう思う」，「そう思う」が90%以上を占めていた。ごく一部において，看護学部臨地教員の称号付与の認識に差がある回答を認めた。また，グループワークでは，実習環境をよくしていきたいという前向きな意見のほか，実習指導者としての評価をフィードバックしてほしいというニーズが複数あった。当日は，遅刻者・欠席者，研修中のPHSの対応など，看護学部臨地教員として出席態度を改めるような状況も見受けられた。こういった状況を踏まえて，次年度は，看護学部臨地教員の称号付与の意味や看護実践教育力とは，その向上に向けて，全臨地教員が統一した認識をもてるように，企画を検討することが課題となった。

表2　平成28年度広報委員会日程および審議事項

会議日程	検討事項	備考
4月14日（木曜日） 15：00（教務委員会終了後）－16：00 第1回委員会	1．所轄事項および開催日程 2．研修会の役割分担 司会進行，担当講師との調整，事例調整，ブループワーク担当，アンケート作成と集計，設営，役割分担 3．新規研修会方向性の検討 1）受講対象者 2）プログラムの概要 3）適宜，講師の検討	日時のみは，早目に看護部へ周知
5月19日（木曜日） 15：00－16：00 第2回委員会	1．定例研修会の具体的検討 1）プログラムの確認 2）マニュアルの検討・確認 3．新規研修会の具体的検討・決定	
6月	1．研修会の周知 2．講師の依頼	6月　師長会へ周知　HP掲載開始　案内文書発送
7月21日（木曜日） 15：00－16：00 第3回委員会	1．研修会配布資料の準備 2．研修会申し込み状況確認 4．プログラム確認 5．当日役割分担確認 6．参加申し込み状況報告 7．テキスト校正作業の報告	8月初旬　資料提出の締切 8月中旬　原稿入稿 8月下旬テキスト納入 演習グループ決定 配布資料等確認 PDFファイル提出確認 8月26日（金曜日） 申込み締切
9月5日（月曜日） 15：00－17：00	研修会準備	会場設営，試写，演習使用物品の確認，配布資料の準備など）
9月6日（火）・7日（水）	**研修会当日**	
10月20日（木曜日） 15：00－16：00 第4回委員会	1．参加人数 2．アンケート集計結果報告 3．担当者のふりかえり	
12月15日（木曜日） 16：30－17：30 第6回委員会	1．プログラムの修正 2．マニュアルの修正 3．講師選定案の検討	

入試実施委員会

委員長　横山　由美

1．所管事項

入学試験実施に関する事項であり，具体的には入試実施日の役割分担・実施手順に関すること，入試実施説明会に関することである。

2．委員会の構成

表1　構成員と役割

氏　　名	役　割
横山　由美　教　授	委員長
渡邉　亮一　教　授	副委員長
川上　勝　　准教授	委　員
佐藤　幹代　准教授	委　員
飯塚由美子　講　師	委　員
島田　裕子　講　師	委　員
安島　幸子　課　長	事務局
三上　博史　参　事	事務局

3．活動内容

本年度は，3回の委員会を開催した。

第1回の委員会では，構成員および所管事項，入学試験の日程，入学試験における変更点の確認を行った。

第2回の委員会では，推薦入学試験の入試実施マニュアルの点検を行い，各委員から出された疑義・修正意見について審議・検討を行い，改訂・作成した。また感染の疑いがある受験者に対する対応については感染症の発生・流行の動向を見ながら，必要な場合に配布使用していくこととした。

作成したマニュアルを用いて2015年11月10日（木）に入試実施説明会を開催し，推薦入学試験を11月19日（土）に実施した。

第3回の委員会では，一般入学試験の入試実施マニュアルの点検を行い，各委員から出された疑義・修正意見について審議・検討を行い，改訂・作成した。2016年1月20日（木）に策したマニュアルを用いて入試実施説明会を開催し，一般入学試験（一次試験）を1月28日（土）に，一般入学試験（二次試験）を2月11日（土）に実施した。

推薦入学試験，一般入学試験とも，支障なく実施できた。

表２　2016年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2016年4月22日	1．入試実施委員会の委員等の構成について 2．入試実施委員会の所管事項について 3．平成29年度看護学部入学試験関係の日程について
2	2016年10月19日	1．平成29年度推薦入学試験実施マニュアルについて
3	2017年1月6日	1．平成29年度一般選抜入学試験実施マニュアルについて

大学院看護学研究科委員会等報告

大学院看護学研究科委員会

委員長　春山　早苗

1．所管事項

⑴学則の制定及び改廃に関する事項
⑵研究科の教育課程に関する事項
⑶入学，休学，退学，転学，転入学，除籍及び賞罰に関する事項
⑷試験に関する事項
⑸学位論文審査に関する事項
⑹その他研究科の学事に関する重要事項

2．委員会の構成

⑴「自治医科大学大学院学則」第41条第2項に規定する者（研究科長，専攻分野主任教授，研究科長が指名する教授）

表1　構成員と役割

氏　名	役　割
春山　早苗	委員長（研究科長）※
永井　優子	委　員（幹事長）
大塚　公一郎	委　員
小原　泉	委　員
中村　美鈴	委　員
成田　伸	委　員
半澤　節子	委　員
野々山未希子	委　員
本田　芳香	委　員　※※
宮林　幸江	委　員
横山　由美	委　員　※※※
渡邉　亮一	委　員
村上　礼子	委　員

※地域看護管理学分野主任兼ねる
※※広域実践看護学分野主任兼ねる
※※※実践看護学分野主任兼ねる

3．活動内容

⑴「自治医科大学大学院学則」第41条第1項の規定により，看護学研究科の学事に関する重要事項について審議を行うため，表2のとおり看護学研究科委員会を開催した。

表2　2016年度の審議事項

回	開催日	審議事項
①	4月20日	・平成28年度大学院看護学研究科長期履修制度申請について
2	5月12日	・平成28年度看護学研究科履修科目（博士前期・後期課程）の決定について ・博士前期課程入学制の既修得単位の認定について ・平成29年度看護学研究科博士課程出願資格認定試験ならびに入学試験の学生募集要項について ・平成28年度追加募集及び29年度看護学研究科科目等履修生の募集要項について ・平成28年度看護学研究科非常勤講師任用審査について ・平成28年自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程研究費の審査について ・博士後期課程のティーチング・アシスタントおよびリサーチ・アシスタントの任用手続きについて ・平成28年度大学院看護学研究科説明会について
3	7月7日	・平成29年度看護学研究科出願資格認定試験，入学試験の実施要領（案）及び役割分担について ・平成29年度看護学研究科予算要求案について ・平成28年度大学院カリキュラム検討会について
4	9月1日	・平成29年度看護学研究科博士前期課程出願資格認定試験合否判定について ・平成29年度看護学研究科博士前期課程入学試験実施マニュアルについて ・平成28年自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程研究費の審査について ・平成28年度科目等履修生（後期開講科目）の履修取消について ・平成28年度ティーチング・アシスタントの任用申請について
5	9月29日	・休学願について ・平成29年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験合否判定について ・平成28年度看護学研究科科目等履修生単位取得(博士前期・後期課程）認定について ・平成28年度看護学研究科第3回合同研究セミナーについて ・平成29年度看護学研究科（博士前期・後期課程）時間割について ・平成28年度看護学研究科（博士後期課程）入学生の副研究指導教員について ・課題研究等に関する平成29年度大学院要綱修正（案）について ・大学院情報公開（ホームページ）について ・在校生のアンケート調査について ・研究計画審査について
6	12月1日	・平成28年度看護学研究科論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）実施方法について ・平成28年度看護学研究科（前期・後期課程）論文審査実施要領について

		・平成29年度看護学研究科（博士前期課程2次募集および博士後期課程）入学試験実施マニュアルについて
7	12月19日	・平成28年度看護学研究科論文審査（口頭試問）及び最終試験（発表会）について ・平成29年度科目等履修生開講科目について
8	1月5日	・平成28年度博士後期課程論文審査（口頭試問）の結果について ・平成29年度看護学研究科学年暦について ・平成29年度看護学研究科看護学研究計画審査会(博士後期課程）日程について ・平成29年度看護学研究科研究計画支援委員会（博士前期課程）日程について ・平成29年度看護学研究科非常勤講師の任用について
9	2月2日	・平成28年度大学院看護学研究科(博士前期・後期課程）論文審査（口頭試問）の結果について ・平成28年度学位論文発表会（最終試験）スケジュールについて ・平成29年度科目等履修生（博士前期課程）の決定について ・平成30年度看護学研究科入学試験日程について ・平成30年度看護学研究科科目等履修生の入学試験日程について ・平成29年度看護学研究科時間割について ・平成28年度大学院看護学研究科FD研究会について ・学位論文審査期間について ・平成28年度大学院看護学研究科研究計画審査会(博士後期課程）の担当者の決定と変更について
10	2月13日	・平成28年度看護学研究科修士(看護学）学位論文審査最終試験の判定について
11	2月16日	・平成29年度看護学研究科（博士後期課程）入学試験合否判定について ・平成28・29年度大学院看護学研究科非常勤講師任用審査について
12	3月1日	・平成28年度看護学研究科（博士前期・後期課程）修得単位の認定について ・平成28年度看護学研究科（博士前期）修了判定について ・平成28年度看護学研究科科目等履修生の単位修得（後期履修）について ・平成29年度看護学研究科入学生の研究指導教員（博士前期・博士後期課程）の決定について ・平成29年度看護学研究科ティーチング・アシスタントの決定について ・平成29年度看護学研究科修士・博士（看護学）学位申請日程について ・平成29年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーションについて ・平成29年度看護学研究科運営組織について ・平成29年度看護学研究科委員会議事日程について ・平成29年度科目等履修生（博士後期課程）決定について ・科目責任者の追加について ・平成29年度大学院看護学研究科研究生の受入について ・課題研究の研究計画について
13	3月23日	・平成28年度看護学研究科（博士後期課程）修得単位の認定について ・大学院看護学研究科教員任用審査について ・平成29年度非常勤講師任用について ・博士後期課程のティーチング・アシスタント任用について

（回数表示の〇囲みは持回り審議）

研究科委員会幹事会

幹事長　永井　優子

1．所管事項

研究会委員会幹事会の所管事項は，自治医科大学大学院看護学研究科委員会幹事会運営内規に基づき，以下の内容を審議することを定めている。

⑴自治医科大学大学院看護学研究科委員会（以下「研究科委員会」という）に付議する事項に関する事前審議

⑵自治医科大学大学院看護学研究科に係る企画立案

⑶その他大学院看護学研究科の運営に係る日常業務の処理

2．委員会の構成

委員会の構成員と各委員の役割について，表1に示した。

表1　構成員と役割

氏　　名	役　　割
春山　早苗　教授	研究科長，地域看護管理学分野主任
永井　優子　教授	幹事長
横山　由美　教授	実践看護学分野主任， FD評価実施委員長
本田　芳香　教授	広域実践看護学分野主任， カリキュラム委員長
半澤　節子　教授	入試実施委員長
成田　　伸　教授	広報委員長
看護学務課　渡辺	事務局担当

3．活動内容

平成28年度は計11回の研究科委員会幹事会を開催した。平成28年度の審議事項の概要を表2に示した。

研究科委員会幹事会の所管事項が適時審議されるよう，幹事会の定例会における議題を年度当初に設定し，必要な検討事項について各委員会において審議を行い，幹事会ではその内容に基づいて委員長より報告がされ，審議した。

表2　平成28年度審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月26日	1．平成28年度看護学研究科履修科目（博士前期・後期課程）の決定 2．博士前期課程入学生の既修得単位の認定 3．平成29年度看護学研究科博士課程出願資格認定試験ならびに入学試験の学生募集要項 4．平成28年度追加募集および平成29年度看護学研究科科目等履修生の募集要項 5．平成29年度看護学研究科博士後期課程出願資格認定試験ならびに入学試験の学生募集要項，科目等履修生の募集要項のホームページ掲載 6．平成28年度看護学研究科非常勤講師任用審査 7．平成28年度自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程研究費の審査 8．博士後期課程のティーチングアシスタントおよびリサーチ・アシスタントの任用手続き 9．平成28年度看護学研究科委員会幹事会の開催予定 10．平成28年度看護学研究科オリエンテーションの評価 11．平成28年度看護学研究科博士課程説明会
2	5月24日	1．大学院カリキュラム委員会関連 1）大学院修了時の看護実践能力に関する自己評価 2）課外授業および特別授業 3）大学院カリキュラム検討会 2．アドミッションポリシー（AP），カリキュラムポリシー（CP），ディプロマポリシー（DP）とガイドラインとの照合結果と課題の検討 3．学位の信頼確保に向けた取り組み 4．ティーチングアシスタントの科目の追加
3	6月21日	1．平成29年度看護学研究科出願資格認定試験ならびに入学試験の実施要領（案） 2．大学院カリキュラム委員会関連 1）大学院カリキュラム検討会 2）課外授業 3）特別授業 3．平成29年度看護学研究科予算要求 4．アドミッションポリシー（AP），カリキュラムポリシー（CP），ディプロマポリシー（DP）とガイドラインとの照合結果と課題の検討 5．学位の信頼確保に向けた取り組み

4	7月26日	1．平成29年度大学院看護学研究科予算（案） 2．学位審査会報告書フォーマット（案）の作成 3．平成28年度国際学会参加に伴う補助金交付者の選考 4．平成29年度看護学研究科入学試験の実施要領（案）に 5．ティーチングアシスタント任用申請 6．平成28年度自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程研究費 7．平成28年度看護学研究科博士課程説明会の評価
5	9月20日	1．休学 2．平成28年度大学院看護学研究科科目等履修生の単位修得（前期課程・後期課程）認定 3．平成28年度第3回合同研究セミナー 4．平成29年度看護学研究科（博士前期・後期課程）時間割 5．課題研究棟に関する平成29年度大学院要綱の修正案 6．大学院情報公開（ホームページ） 7．平成30年度大学院パンフレット 8．在学生アンケート調査
6	10月25日	1．平成29年度大学院看護学研究科博士前期課程入学試験2次募集の実施 2．平成30年度博士前期課程地域看護管理学分野看護技術開発学領域の募集 3．平成30年度大学院広報パンフレットの構成案 4．平成28年度特別講義 5．在学生対象のアンケート 6．平成29年度共通科目
7	11月22日	1．平成28年度論文審査（口頭試問）および最終試験（発表会）実施方法 2．平成28年度看護学研究科（前期・後期）論文審査実施要領 3．平成29年度看護学研究科（博士前期課程二次募集および博士後期課程）入学試験の実施マニュアルについて 4．平成28年度大学院課外授業について 5．平成28年度大学院看護学研究科FD研究会の実施について
8	12月20日	1．平成29年度看護学研究科学年暦（案） 2．平成29年度看護学研究科看護学研究計画審査会（博士後期課程）日程（案） 3．平成29年度看護学研究科研究計画支援委員会（博士前期課程）日程（案） 4．平成30年度看護学研究科入学試験日程（案） 5．平成30年度看護学研究科科目等履修生の入学試験日程（案） 6．平成29年度大学院看護学研究科科目責任者（博士前期・博士後期）（案） 7．平成29年度大学院要綱 8．平成29年度看護学研究科非常勤講師の任用
9	平成29年1月24日	1．平成29年度看護学研究科非常勤講師の任用 2．平成29年度看護学研究科入学試験日程 3．平成29年度看護学研究科科目等履修生の募集日程 4．平成29年度看護学研究科時間割 5．平成28年度大学院看護学研究科FD研究会 6．学位論文審査の期間
10	1月24日	1．平成29年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーション 2．平成29年度看護学研究科ティーチングアシスタントの任用 3．平成29年度看護学研究科学位申請および審査 4．平成29年度看護学研究科非常勤講師の任用審査 5．平成29年度大学院要綱 6．平成28年度大学院看護学研究科FD研究会アンケート 7．課題研究の研究計画 8．大学院看護学研究科課外授業・特別講義
11	3月21日	1．平成28年度博士後期課程「広域実践看護学特別研究」 2．平成29年度大学院要綱（博士前期課程特別研究・課題研究シラバス） 3．平成29年度副研究指導教員の任用 4．平成29年度看護学研究科非常勤講師の任用審査 5．平成29年度博士後期課程のティーチングアシスタント任用 6．平成28年度合同研究セミナーの評価および平成29年度合同研究セミナー（案） 7．平成28年度課外授業の評価 8．平成28年度特別授業の評価 9．平成27年度修了生の看護実践能力に関する自己評価（修了1年後）の調査結果 10．平成28年度修了予定者の看護実践能力に関する自己評価（終了時）の調査結果 11．平成29年度幹事会審議事項

教育研究分野別報告

看護基礎科学

教授　大塚　公一郎

1．スタッフの紹介

教　授　大塚公一郎
教　授　渡邉　亮一（2017年3月31日退職）
准教授　北田　志郎
講　師　飯塚　秀樹（2016年8月31日退職）
講　師　平尾　温司

2．教育の概要

1）看護基礎科学に関する教育概要

⑴心理学（2年次前学期2単位：必修）
科目責任者である大塚が30時間を担当して講義を行った。

⑵人間関係論（1・2年次前学期1単位：選択）
科目責任者である大塚が5時間，髙村寿子非常勤講師（自治医科大学名誉教授）が10時間を担当して講義ならびに演習を行った。

⑶文化人類学入門（1・4年次後学期2単位：選択）
科目分担者である青木啓将非常勤講師（早稲田大学教員）が12時間，山越英嗣非常勤講師（早稲田大学教員）が12時間，科目責任者である大塚が6時間を担当して講義を行った。

⑷情報学（1年次後学期2単位：必修）
科目責任者である渡邉が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

⑸統計学（2年次前学期1単位：必修）
科目責任者である渡邉が15時間を担当して講義を行った。

⑹統計学演習（2年次後学期1単位：必修）
科目責任者である渡邉が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

⑺疫学（4年次前学期2単位：必修）
科目責任者である渡邉が30時間を担当して講義を行った。

⑻病態学概論（1年次後学期2単位：必修）
科目責任者である北田が30時間を担当して講義を行った。

⑼病態学各論（2年次前学期2単位：必修）
科目責任者である北田が30時間を担当して講義を行った。

⑽臨床検査学（2年次後学期1単位：必修）
科目責任者である北田が7時間，紺野　啓非常勤講師（本学医学部准教授）が4時間，松浦克彦非常勤講師（本学さいたま医療センター）が2時間，出井　充非常勤講師（本学RIセンター管理主任）が2時間を担当して講義を行った。

⑾基礎英語（1・2年次前学期1単位：選択）
科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

⑿医療英語（2・4年次前学期1単位：選択）
科目責任者である飯塚が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

⒀人体の構造と機能Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）平尾が28時間，野田泰子非常勤講師（本学医学部教授）が2時間を担当して講義を行った。加藤一夫非常勤講師（筑波技術大学教授）が4時間を担当して講義を行った。

⒁人体の構造と機能Ⅱ（1年次後学期2単位：必修）平尾が28時間，野田泰子非常勤講師（本学医学部教授）が4時間を担当して実習を行った。加藤一夫非常勤講師（筑波技術大学教授）が4時間を担当して講義および実習を行った。

⒂免疫学（1年次後学期2単位：必修）滝龍雄非常勤講師（北里大学准教授）が18時間，平尾が12時間を担当し講義を行った。

⒃看護トピックス（4年次前学期2単位：必修）を平尾が担当し宇都宮大学農学部附属農場で6時間の実習を行った。

2）看護基礎科学以外の担当教育概要

⑴看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：選択）
大塚，渡邉，北田は，それぞれ30時間の演習を担当した。

⑵文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）
渡邉，飯塚はそれぞれ2時間の講義を，飯塚，平尾はそれぞれ10時間の演習を担当した。

⑶研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）
渡邉は，2時間の講義を担当した。

⑷へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：選択）
北田は，2時間の講義と6時間の実習を担当した。

⑸対象の理解実習（1年次後学期2単位：必修）
大塚，北田，飯塚，平尾は，それぞれ8時間の実習を担当した。

⑹公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修）
大塚，北田は，それぞれ6時間の実習を担当した。渡邉，平尾は，それぞれ12時間の実習を担当

した。
⑺大塚は，本学医学部3年生を対象に，2時間の社会精神医学の系統講義を行った。
⑻大塚は，本学医学部4年生を対象に，精神科臨床実習クルズス「サイコネフロロジー」の講義を計16時間行った。
⑼飯塚は，本学医学部1年生を対象に，12時間の「医療英語コミュニケーション」の講義を行った。
⑽平尾は，本学医学部2年生を対象に，96時間の解剖学実習を担当した。
⑾平尾は，本学医学部2年生を対象に，12時間の神経解剖学実習を担当した。

３．研究の概要

⑴統合失調症の精神病理学的研究
大塚は，統合失調症患者にみられるうわさ話などの言語行為と罪責妄想との関係について精神病理学的研究を行った。
⑵覚醒夢の精神病理学的研究
大塚は，医学部総合教育部門武内大教授とともに，覚醒夢の精神病理学的研究を行った。
⑶日系ブラジル人児童のメンタルヘルス支援
大塚は，日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））による研究課題「レジリエントなコミュニテイ形成をめざして－在日ブラジル人の震災経験を踏まえた支援の検討－」（研究代表者：野﨑章子　千葉大学）に研究分担者として参加し，同研究を実施した。
⑷日系ラテンアメリカ人の多文化間精神医学的研究
大塚は，本学附属病院精神科において，日系ブラジル人を中心とした外国人患者の診療にあたるとともに，多文化間精神医学的研究を行った。
⑸上級医療情報技師の育成に関する研究
渡邉は，一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会が認定する資格である「医療情報技師」および「上級医療情報技師」の育成にかかわっているが，そのなかで「上級医療情報技師」の育成制度や資格制度に関連した研究を行った。
⑹在日コリアンに対する差別がメンタルヘルスに与える影響についての社会学的研究および疫学研究
在日コリアンに対する差別がメンタルヘルスに与える影響についての社会学的研究および疫学研究
北田は，「在日コリアンに対する差別がメンタルヘルスに与える影響についての社会学的研究および疫学研究」を代表者として実施した。研究分担者は京都大学松本卓也，一橋大学梁英聖，鄭康烈であった。
⑺大学生の対人関係と健康の研究
北田は，「大学生の対人関係と健康の研究」（研究代表者：東北大学相田潤）の研究分担者として参加し，同研究を実施した。
⑻ブタ腹骨盤腔内臓を用いたプラストミック標本の作製と特定行為研修への応用に関する研究平尾は看護学部共同研究費「ブタ腹骨盤腔内臓を用いたプラストミック標本の作製と特定行為研修への応用に関する研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は本学部教員川上，田村，福田，連携研究者は本学医学部教員黒川真輔，附属病院田口深雪であった。
⑼尾腺における主要組織適合抗原複合体分子の発現の研究
平尾は「尾腺における主要組織適合抗原複合体分子の発現」の研究を代表者として実施した。

４．その他

⑴大塚は，平成21年1月より多文化間精神医学会評議員，同年9月より同学会機関誌「こころと文化」編集委員を務めている。
⑵大塚は，平成22年10月より日本精神病理・精神療法学会評議員を務めている。
⑶大塚は，平成26年10月より日本精神医学史学会評議員を務めている。
⑷大塚は，非常勤講師として，栃木県立衛生福祉大学校看護学科専科で2時間の精神医学の講義を行った。
⑸渡邉は，日本医療福祉設備学会副会長，理事ならびに総務委員会委員長，日本診療情報管理学会評議員などを務めた。
⑹渡邉は，日本医療情報学会学会誌「医療情報学」の査読委員，「日本診療情報管理学会学会誌」の査読委員，日本ルーラルナーシング学会学会誌「ルーラルナーシング」の査読委員を務めた。
⑺渡邉は，第36回医療情報学連合大会（第17回日本医療情報学会学術大会）のプログラム委員，第42回日本診療情報管理学会学術大会の査読委員を務めた。
⑻渡邉は，第36回医療情報学連合大会（第17回日本医療情報学会学術大会）において，一般演題の

座長を務めた。
⑼渡邉は，第42回日本診療情報管理学会学術大会において，一般演題の座長を務めた。
⑽渡邉は，非常勤講師として，女子栄養大学栄養学部保健栄養学科の「情報科学概論」の講義（30時間）を，一般社団法人南埼玉郡市医師会久喜看護専門学校の「看護学概論Ⅲ（看護研究）」の講義および演習（30時間）を担当した。
⑾北田は，平成22年9月より日本中医学会評議員を務めている。
⑿北田は，平成24年度より介護支援専門員実務研修受講試験委員を務めている。
⒀北田は，第18回日本在宅医学会の一般演題抄録の査読を行った。また，シンポジウム「在宅緩和ケアにおける統合医療」を企画し，座長を務めた。
⒁北田は，第6回日本中医学会の一般演題抄録の査読を行った。また，一般演題の座長を務めた。
⒂北田は，栃木県立栃木女子高等学校の出張講義を2時間担当した。
⒃平尾は宇都宮大学大学院農学研究科（修士課程）の外部アドバイザーを務めた。
⒄平尾は栃木県立鹿沼高等学校の模擬授業を1時間担当した。

基礎看護学

教授　本田　芳香

１．スタッフの紹介

教　授　本田　芳香
教　授　小原　　泉
准教授　里光やよい
講　師　福田　順子
　　飯塚由美子
助　教　湯山　美杉
　　岡野　朋子

２．教育の概要

基礎看護学科目群では，発達段階に合わせたすべての人を意識し，4年間で学ぶべく看護学の基礎を，また看護実践していくための基本的な論理思考の構築を目指し教育を進めた。

１）基礎看護学に関する教育概要

⑴看護学概論（１年次前学期2単位：必修）
担当：本田芳香：人間・健康・環境・看護の主な概念，看護理論，歴史的変遷，法律・倫理及び看護活動の場と保健医療福祉チームにおける看護の役割・機能など，今後看護が目指す概要を教授する。

⑵実践看護学概論Ⅰ（１年次前学期1単位：必修）担当：本田芳香：看護過程の基本として論理的思考及び対人関係スキルの概要を教授する。特にインタビュー技術及び観察技術をグループワークを導入しながら学生自身の日常生活と関連させながら教授した。

⑶看護技術論Ⅰ・看護技術演習Ⅰ（１年次前学期1単位・1単位必修）担当：里光やよい，他基礎看護学教員全員：看護技術の導入としての環境や健康におけるバイタルサイン，基本的大意に関し講義と演習を進めた。

⑷看護技術論Ⅱ・看護技術演習Ⅱ（1年次後学期1単位・1単位必修）担当：福田順子，他基礎看護学教員全員：日常生活援助に関し，食事，排泄，清潔等の講義と演習を進めた。

⑸看護技術論Ⅲ・看護技術演習Ⅲ（2年次前学期1単位・1単位必修）担当：小原　泉，他基礎看護学教員全員：診療の補助業務に関し，滅菌操作，採血等の検査，与薬に関連する点滴，筋注，皮下注等の講義演習を行った。

⑹看護技術演習Ⅳ（２年次前学期1単位必修）担当：小原泉，他基礎看護学教員全員，フィジカルアセスメント，看護過程の展開を教授し，学生にはグループに分け基礎看護学の教員全員で個別に指導した。

⑺対象の理解実習（1年次前学期1単位必修）
担当：里光やよい，他基礎看護学教員全員：附属病院の病棟・外来に来訪する対象の理解を人間・健康・環境・看護の視点から実習を通して学ぶ。

⑻日常生活援助実習（2年次後学期2単位必修）：
担当：本田芳香，他基礎看護学教員全員，附属病院で入院している患者を初めて受け持ち，日常生活に関わる援助を実習を通して学ぶ。

⑼その他：「がん看護学」は，小原が担当。「看護トピックス」は里光，「看護基礎セミナー」は，基礎看護学教員全員が担当した。「看護研究セミナー」は，教授（本田，小原）を中心に，准教授，講師，助教全員（里光，福田，飯塚，湯山，岡野）が担当した。「総合実習・総合セミナー」は，教授（本田，小原）を中心に，准教授，講師，助教全員（里光，福田，飯塚，湯山，岡野）が担当した。

３．研究の概要

１）研究プロジェクトの参加（研究代表者）

①本田は，文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）による研究課題「地域文化を基盤とする終末期がん患者の在宅看取りケアに関する多職種コーディネート機能」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は本学部教員福田，飯塚，湯山，浜端，本学医学部教員の藤井博文，高崎健康福祉大学の棚橋さつきであった。

②本田は，在宅医療助成，勇美記念財団研究費による研究課題「市民の集い開催への助成」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。

③小原は，文部科学省化学研究費補助金（基盤研究（C））による研究課題「臨床研究コーディネーターの熟達化を促進する現任教育」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，千葉大学大学院 野崎章子，京都大学大学院 笠井宏委，国立病院機構大阪医療センター 森下紀子であった。

④飯塚は，平成28年度自治医科大学看護学部共同研究費による研究課題「婦人科がんで治療をうける患者とその家族の意思決定支援スキルアッププログラムの標準化の検討」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本田，

小原，岡野，附属病院　渡辺芳江，竹野井さとみ，渡辺道子，樋口一江，小室るみ，中山章子，田村恵理子であった。
⑤湯山は，平成28年度自治医科大学看護学部共同研究費による研究課題「模擬患者を活用した看護的な観察視点の育成にもたらす教育効果の検討」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，本田，小原，里光，福田，飯塚，岡野，附属病院　野沢博子，亀田美智子，高久美子であった。

２）研究プロジェクトの参加（分担研究者）
①本田は，厚生労働省科学研究費補助金　地域医療基盤開発推進研究事業「診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」（研究代表者：春山早苗）に分担研究者として参加し，同研究を実施した。
②本田は，文部科学省　私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発事業」テーマ１「地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究」（研究代表者：春山早苗）の分担研究者として参加し，同研究を実施した。
③福田は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題，「地域文化を基盤とする終末期がん患者の看取りケアに関する多職種コーディネート機能」（研究代表者：本田芳香）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。
④飯塚は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題，「地域文化を基盤とする終末期がん患者の看取りケアに関する多職種コーディネート機能」（研究代表者：本田芳香）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。
⑤湯山は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題，「地域文化を基盤とする終末期がん患者の看取りケアに関する多職種コーディネート機能」（研究代表者：本田芳香）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。

３）研究業績録
⑴論文
①佐藤香奈，本田芳香，小原　泉：終末期の若年性がん患者に対する緩和ケア病棟看護師のケアリング，日本がん看護学会誌，30（3）；40-46，2016.
⑵著書
①本田芳香：マインドマップを活用した看護過程演習の展開方法，看護人材育成6.7号，pp41－47，2016
②小原　泉：臨床試験・治験の動向と臨床看護師に求められる役割－十分な被験者ケアと試験データの質の担保－，看護管理，6（5）402-406，2016.
③小原　泉：臨床研究専門職に対する教育の現状と課題，薬理と臨床，44（4）501-504，2016.
④小原　泉（翻訳）：臨床研究看護：新しい実践領域，NIH臨床研究の基本 原書3版（井村裕夫監修），丸善出版，2016年10月，pp719-733.
⑤古橋洋子，今野葉月，里光やよい：看護診断を導く情報収集・アセスメント第5版；62－103，162－172，2016.
⑶学会発表
①横山由美，村上礼子，川上　勝，里光やよい，福田順子，本田芳香，春山早苗：へき地を含む地域で働く看護師のための地域ケアスキル・トレーニングプログラムの評価，日本地域看護学会，栃木，2016年8月26日.（日本地域看護学会第19回学術集会講演集；86，2016）
②村上礼子，川上　勝，里光やよい，福田順子，横山由美，本田芳香，春山早苗：へき地を含む地域で働く看護師のための地域ケアスキル・トレーニングプログラムの検討，日本地域看護学会，栃木，2016年8月26日.（日本地域看護学会第19回学術集会講演集；85，2016）
③弘田智香，福田順子，浜端賢次，大澤弘子，塩﨑純子，亀田美智子，中山鈴子，渡辺道子，大海佳子，小谷妙子：10か月間で3病棟をローテーションする新人看護師への効果的な支援の在り方，日本看護学会－看護管理－，石川，2016年9月27日.（第47回日本看護学会－看護管理－学術集会抄録集；178，2016）
④里光やよい：模擬患者を用いた看護技術習得に関する研究．第81回民族衛生学会，東京．2016年11月26日，27日.（学会民族衛生（Vol.82）；152-153，（2016））
⑤里光やよい，本田芳香，浜端賢次，清水みどり，湯山美杉，岡野朋子，大澤弘子：模擬患者を用いたアセスメント演習に参加した地域で活動する看護師の自己評価．日本ルーラルナーシング学会第11回学術集会，山梨．2016年9月3日.（日本ルーラルナーシング学会第11回学術集会抄録集；34，

2016）
⑥飯塚由美子，岩永麻衣子，樋山伸子，小室るみ，境野博子，渡辺芳江，竹野井さとみ，中塚麻美，小原　泉，本田芳香：終末期がん患者とその家族の意思決定支援に関するスキルアッププログラムの検討，第30回日本がん看護学会学術集会，千葉，2016年2月21日.（第30回日本がん看護学会学術集会抄録集；277，2016）
⑦小島好子，本田芳香：実践アプローチから捉えたMSWの「行動規範」の検証－身体・精神合併疾患を抱えた診察・治療拒否の事例－．日本医療社会福祉学会学術集会，京都，2016年9月4日.（第26回日本医療社会福祉学会大会学術集会抄録集；26；48～49，2016.）
⑷その他
①小原　泉：CRCが試験実施計画書の作成や審査に関わる意義とその実際．シンポジウム「実施だけではない，CRCができるクオリティへの貢献」，CRCと臨床試験のあり方を考える会議 in 大宮（2016年9月19日）.（第16回CRCと臨腫試験のあり方を考える会議2016 in 大宮 プログラム・抄録集　75，2016）
②湯山美杉，本田芳香，小原　泉，里光やよい，福田順子，飯塚由美子，中塚麻美，浜端賢次，野沢博子，亀田美智子，高久美子，安藤　恵：対人関係スキル習得ための模擬患者導入による学習の有効性に関する研究，自治医科大学看護学ジャーナル，14巻；p44，2016.
③成田　伸，大塚公一郎，中村美鈴，横山由美，里光やよい，鈴木久美子，角川志穂，塚本友栄，浜端賢次，田村敦子，長谷川直人，平尾温司，福田順子：学生の学習状況・学習環境状況調査，自治医科大学看護学ジャーナル，13巻；p34，2016.
④春山早苗，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀崎豊実，波多野浩道，本多正幸，本田芳香，村上礼子：就労継続支援型の看護師の特定行為研修の実施にあたっての手引き，平成27年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」，2016.
⑤春山早苗，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀崎豊実，波多野浩道，本多正幸，本田芳香，村上礼子：特定行為研修のICTを活用した教育例集，平成27年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」，2016.

地域看護学

教授　春山　早苗

１．スタッフの紹介

教　授　春山　早苗
准教授　鈴木久美子
准教授　塚本　友栄
講　師　島田　裕子
講　師　関山　友子
助　教　青木さぎ里
助　教　江角　伸吾

２．教育の概要

１）地域看護学に関する教育概要

公衆衛生の理念を追求する看護の目的と活動方法の基本を理解し，公衆衛生看護活動の展開に必要となる基本的な知識と技術を学生が修得できることを目指して，主に行政に所属する保健師の活動を素材にして，教育にあたっている。担当科目は，実践基礎看護学概論Ⅲ（2年次前学期2単位：必修），健康生活支援技術Ⅰ（3年次前学期1単位：必修），健康生活支援技術Ⅱ（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護活動論（3年次後学期2単位：必修），公衆衛生看護方法論（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修），行政看護管理論（4年次前学期1単位：必修），地域健康危機管理論（4年次前学期1単位：必修）であり，本学科目教員全員で担当した。

２）地域看護学以外の担当教育概要

①「保健医療福祉システム論」（1年次後学期2単位：必修）：関山が科目責任者，春山・鈴木・塚本・島田・江角も担当。②「看護基礎セミナー」（１年次前学期：必修）：鈴木・塚本・青木・江角が担当。③「へき地の生活と看護」（1～4年次後学期1単位：選択）：鈴木が科目責任者，青木も担当。④「文献講読セミナー」（2年次前学期：必修）：島田・関山が担当。⑤「研究セミナー」（3年次後学期1単位：必修）：塚本が科目責任者，塚本は講義・演習，春山は講義担当。⑥「国際看護論」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者，塚本・江角も担当。⑦老年在宅看護実習（3年次後学期2単位：必修）：本学科目教員全員が１クール担当。⑧「看護政策学」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者。⑨「総合実習」（4年次後学期：必修）：本学科目教員全員で18名を担当。実習場所は下野市5名，群馬県吾妻郡中之条町六合地域5名，日光市足尾地域4名，県内訪問看護ステーション4名。⑩「看護総合セミナー」（4年次後学期：必修）：本学科目教員全員で学生18名を担当。春山2名，鈴木3名，塚本3名，島田3名，関山3名，青木2名，江角2名の学生を指導。学生は，核家族で第一子を育てる母親の育児不安や困難，成長発達面に課題のある幼児の母親の悩み事と支え，食生活改善推進員のやりがいと市町村保健師による支援，無関心期の男性労働者への行動変容を促す保健指導，訪問看護の導入及び利用開始期における看護，認知症高齢者の家族介護者の拠り所，山間地域におけるデイケアの効果，中山間地域の後期高齢者の口腔ケアの実態と影響要因，中山間地域で後期高齢者が暮らし続けるための支援方法等に関する看護研究に取り組んだ。⑪「看護トピックス」（4年次後学期：必修）：本学科目では，関山が責任教員となり，精神看護学科目の教員と合同で2つのテーマを実施。1つは前学期に「認知症の人とその家族が安心して暮らせるために必要な看護職の役割」で，鈴木，島田，青木，江角が10名の学生を担当。もう1つは後学期に「退院支援・地域移行支援と多職種連携」で，春山，塚本，関山が15名の学生を担当。⑫その他：鈴木・青木は「へき地の生活と看護」担当者とともに，履修者32名，夏季へき地体験研修者3名，計35名の研修を12カ所の施設において企画・実施した。

３．研究の概要

１）本学部共同研究費「小規模町村新任期保健師の看護実践能力の向上につながる経験」：青木が研究代表者となり，本学科目教員全員で栃木県保健師とともに実施。

2）科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「健康格差を縮小しソーシャルキャピタルの醸成を促進する市町村保健師の地区管理」：春山が研究代表者，鈴木・塚本・島田・関山・青木・江角は研究分担者。

３）科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「県外に避難した者を対象とした避難所活動のための自治体保健師の活動指針の作成」：島田が研究代表者，鈴木・塚本・関山は研究分担者，春山は連携研究者。

４）科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成

金）（若手研究（B））「離島町村で働く新任期保健師の看護実践能力の向上につながる経験」：青木が研究代表者。
５）厚生労働行政推進調査事業（厚生労働科学特別研究事業）「看護師の特定行為研修の修了者の活動状況に関する研究」（研究代表者：自治医科大学　学長　永井良三）：春山が研究分担者，関山・江角は研究協力者。
６）科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「島しょ看護学の学習指導書作成に関する研究」（研究代表者：沖縄県立看護大学　名誉教授　野口美和子）：春山が研究分担者。
７）厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「看護師の特定行為に係る研修制度の普及等に関する研究」（研究代表者：全日本病院協会　副会長　神野正博）：春山が研究分担者。
８）科学研究費助成事業補助金（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「「保健活動の評価指標」の「政策統計の報告事項」への適用可能性の検討」（研究代表者：長崎県立大学　教授　平野かよ子）：春山が研究分担者。
９）厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「災害対策における地域保健活動推進のための管理体制運用マニュアル実用化研究」（研究代表者：千葉大学大学院　教授　宮﨑美砂子）：春山が研究分担者。
10）科学研究費助成事業補助金（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「精神障害者による他害行為の予防に対する精神保健医療福祉体制の整備に関する研究」（研究代表者：国際医療福祉大学　講師　小池純子）：関山が研究分担者。
11）厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「へき地医療において提供される医療サービスの向上とへき地医療に従事する医師の労働環境改善に係る研究」（研究代表者：自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門　教授　梶井英治）：春山が研究協力者。

４．その他

１）日本地域看護学会第19回学術集会（2016.8.26-27，参加者798名）：春山は学術集会長，塚本は事務局長，鈴木・島田・関山・青木・江角は事務局員。
２）JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）「モンゴル国　思春期からの健康なライフスタイル構築のための持続可能な仕組みづくりプロジェクト～性感染症と不適切な妊娠を予防し，豊かな自己実現をめざして～」：江角，春山が本邦研修対応（2016.8.12～8.19，研修生2名），江角が現地活動（2016.9.14～9.25，2016.3.9～3.23，ウランバートル），春山が現地活動（2016.6.3～6.8，ウランバートル）
３）栃木県地域保健中堅職員研修（企画評価編）（2016.6.17，12.13，参加者3名，宇都宮市）：春山は講師，青木は助言者。
４）日本地域看護学会第19回学術集会ワークショップ「地域看護職の災害に関わるマネジメント力及びコーディネート力を高める教育方法」（2016.8.27，参加者28名，下野市）：春山，島田は企画者。
５）安足健康福祉センター管内看護職員等研修会「災害時にも慌てない平常時からの保健活動について～避難所運営ゲームHUGの演習を用いて～」（2017.1.30，参加者27名，足利市）：春山，島田は講師。
６）下野市避難者交流会「ふくしまあじさい会」への健康支援活動（2016.7.14，2017.2.9，参加者は各約50名，下野市）：島田・関山。
７）鈴木・江角は芳賀赤十字病院看護師9名の研究支援（研究課題9件）。
８）春山は日本ルーラルナーシング学会理事，編集委員，関山・江角は編集委員。
９）春山は日本地域看護学会副理事長及び災害支援のあり方検討委員会委員長，島田は災害支援のあり方検討委員会委員。
10）栃木市健康増進計画推進部会及び庁内ワーキング合同会議：春山・関山・江角はアドバイザー。
11）春山：①JICA/NIPH研修「保健衛生管理」の講師「Nursing Education in Jichi Medical University」（2016.6.1，参加者14名，下野市）②茨城県特定健康診査・特定保健指導実践者育成研修の講師「行動変容と保健指導」（2016.6.10，参加者112名，水戸市）③第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会特別企画・運営「看護師特定行為研修の実際と地域医療における研修修了者への期待」（2016.11，東京）④下野市　健康推進員養成講座（2016.7.4，参加者28名；8.18，参加者43名；9.28，参加者57名）⑤日本地域看護学会第19回学

術集会長講演「地域特性に応じた看護のマネジメントとリーダーシップ」（2016.8.26，下野市）⑥同学術集会特別講演「これからの地域保健医療とデータの活用～地域看護職がリーダーシップを発揮していくために～」（自治医科大学　学長　永井良三）の座長⑦同学術集会ワークショップ「保健師による保健活動の評価～標準化した評価指標を用いて～」の企画（2016.8.26，下野市）⑧岐阜県特定健康診査・特定保健事業実践者研修の講師「自己効力感（セルフエフィカシー）を高める主体的な行動変容」（2016.9.16，参加者81名，岐阜市）⑨厚生労働省実施主体の市町村保健師管理者能力育成研修事業の講師「根拠に基づく事業・施策の展開」（2016.11.15，参加者30名，さいたま市）⑩日本看護協会主催の保健指導支援事業保健指導ミーティングの講師「新任期保健師に求められるスキル及びその指導に求められるスキルについて」（2016.12.10，参加者35名，下野市）⑪第5回日本公衆衛生看護学会学術集会ワークショップ「公衆衛生看護学体系の構築　学術実践開発委員会からの提案」（2017.1.21，仙台市）⑫同学術集会一般演題（示説）「グループ支援・住民組織活動」の座長⑬日本学術振興会　科学研究費委員会専門委員（2016.12.1～）⑭厚生労働省　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業　事前評価委員⑮日本医療研究開発機構　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業　課題評価委員会委員（事前）⑯厚生労働省医道審議会臨時委員（保健師助産師看護師分科会員）⑰厚生労働省医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会委員⑱厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会」構成員⑲栃木県保健師現任教育のあり方検討会委員⑳下野市健康づくり推進協議会会長㉑下野市健康しもつけ21プラン策定委員会委員長㉒日本ルーラルナーシング学会誌査読委員㉓千葉看護学会会誌査読者㉔日本公衆衛生看護学会評議員及び学術実践開発委員，査読委員㉕日本地域看護学会誌査読委員㉖日本看護科学学会代議員及び第36回学術集会実行委員㉗Public Health Nursing（Wiley online library）査読者

12）鈴木：①栃木県県南健康福祉センター管内地域保健職員新任研修会「新任期職員が獲得すべき能力とは～キャリアラダーを見据えて～」の講師（2017.2.10，参加者27名，小山市）②下野市介護認定審査会委員③小山市地域包括支援センター運営協議会委員④小山市生活支援体制整備事業協議体委員⑤芳賀赤十字病院の研究指導者

13）塚本：①栃木県看護協会主催の実習指導者講習会の講師「実習指導の評価（6時間）」（2016.8.30,9.1，各受講者45名，宇都宮市）。②栃木県看護協会主催の一般教育研修「入院時から始める退院支援・退院調整」（2016.8.10,9.2，各受講者200名，宇都宮市）。③栃木県補助事業「在宅医療地域連携体制構築委員会」による退院支援に関わる看護師の指導者研修（2016.7.4,9.5,12.21，各受講者50名，宇都宮市），同研修27年度修了者フォロアップ研修会（2017.1.27，受講者22名，宇都宮市）。④栃木県看護協会　在宅医療地域連携体制構築委員会　退院支援検討部会　部会長⑤自治医科大学看護学ジャーナル査読者

14）島田：下野市介護認定審査会委員

15）関山：①栃木県地域保健福祉職員研修（調査研究支援研修）の講師②結城市介護認定審査会委員③自治医科大学看護学ジャーナル査読者

16）青木：①日本地域看護学会第19回学術集会自由集会「へき地の保健師の集い～へき地の保健師が「保健師として成長している」と実感できるようにするには～」の企画・運営（2016.8.26，参加者16名，下野市）②第81回臨床実践の現象学研究会「離島新任期保健師の成長につながる経験」（2016.7.9，参加者約20名，大阪）③東京都島しょ町村保健活動サポーター。

17）江角：①栃木県思春期ピアカウンセラー養成講座講師（2016.8.14-18，受講者53名，下野市）②栃木県地域保健福祉職員研修（調査研究支援研修）の講師③芳賀赤十字病院の研究指導者④日本思春期学会評議員及び査読委員

精神看護学

教授　永井　優子

１．スタッフの紹介

教　授　永井　優子
教　授　半澤　節子
助　教　石井慎一郎
助　教　路川達阿起（平成28年4月1日着任）
取得資格：看護師，保健師
学歴：学士（看護学, 自治医科大学看護学部）
職歴：茨城県立中央病院，茨城県立こころの医療センター（看護師）

２．教育の概要

１）精神看護学に関する教育概要

当学科目では，あらゆる健康水準の個人および集団を対象に，対象者の人権を尊重するとともに，その人の希望を踏まえた精神看護実践の基礎的知識と技術の修得を学士レベルの教育目標としている。精神の健康を増進し，精神の健康障害からの回復を促進する看護の提供体制は，精神科医療を提供する精神科病棟だけでなく，多様な場と支援者のネットワークにより精神障害者とその家族が生活者として健康の回復と社会生活の向上を図ることができるための看護を展開できる能力を育成することを 目標としている。

担当科目は,「実践基礎看護学概論Ⅱ」(2年次前学期1単位；必修）は永井15時間,「精神看護方法」(3年次後学期2単位；必修）は，半澤12時間，永井14時間，石井2時間,「地域精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）は，永井10時間，半澤4時間，土屋徹非常勤講師（夢風舎代表）2時間，精神看護学教員全員で12時間の演習を担当した。「精神保健看護実習」(3年次後学期2単位；必修）は，下野市，小山市，野木町，佐野市の4市町にある精神科デイケア3施設と精神障害者通所型の社会福祉法人とNPO法人の計3法人において，全教員で90時間を担当した。また，総合実習（4年次前学期2単位；必修）と看護総合セミナー（4年次後学期4単位；必修）では，学生10名に対して120時間を担当した。さらに,「看護トピックス」(4年次後学期1 単位；必修）では，学科目別授業6回を半澤が責任教員となり,「認知症の人とその家族が安心して暮らせるために必要な看護職の役割」を地域看護学教員（鈴木准教授,島田講師，青木助教，江角助教）とともに全教員で担当し，また，半澤は「多職種連携」をテーマとする地域看護学の学科目別授業において2時間の講義とグループワークの指導を担当した。さらに永井は，看護基礎科学学科目の北田准教授とともに全体講義2時間を担当した。

前学期の「実践基礎看護学概論Ⅱ」および後学期の「精神看護方法」「地域精神看護方法」「精神保健看護実習」ではMoodleを用いて，学生の学習支援を試み。アクティブラーニングの手法を用いた教育方法の改善および質の向上に取り組んでいる。

２）精神看護学以外の教育概要

1年次前学期必修科目として，半澤は「援助関係論」(2単位）を30時間担当し,「生涯発達看護論」(2単位）では，永井が18時間担当した。また，永井，半澤，石井は「看護基礎セミナー」(2単位）を28時間担当した。

３．研究の概要

永井は，文部科学省科学研究費助成事業の基盤研究（C)「早産児の脳神経の発達促進を支える家族への睡眠教育プログラムの開発」(代表者：樋貝繁香，平成26年4月-平成29年3月）の研究分担者として，睡眠教育プログラムの介入群（早産児）と対照群（正期産児）の子どもと家族の睡眠表による睡眠・覚醒リズムおよび時間の調査への考察に協力した。また，日本遠隔医療学会の運営委員として，分科会「e-health 研究会」の活動に協力した。

半澤は，文部科学省科学研究費助成事業の基盤研究（C)「精神科臨床現場に形成されたモラルと行動制限に対する臨床判断に関する研究」の研究代表者（平成26年4月-平成30年3月）として永井，石井らと共に活動している。平成27年度に作成した調査票のプレテストを実施して再検討し，最終版を作成した。また，基盤研究（C)「触法精神障害者の地域生活のおける現状と地域支援体制の確立に向けた基礎的研究」(代表者：宮城純子，平成26年4月-平成30年3月）の分担研究者として活動しており，調査票の作成を行った。さらに，基盤研究（C)「精神障害者による他害行為の予防に対する精神保健医療福祉体制の整備に関する研究」（代表者：小池純子，平成24年4月）の研究分担者として石井らとともに活動し，他害行為により

強制入院がなされた患者210名に対し，診療録等をリソースとした実態調査を行った。

石井は，「精神科看護師の臨床判断と情動指数の検討」を研究テーマとして日本感情心理学会，日本保健福祉学会，日本看護評価学会，日本社会精神医学会，日本精神科看護協会などの学術集会で精力的に発表している。また，文部科学省科学研究費助成事業の基盤研究（C）「看護職のリフレクションおよび継続学習を促進する他者とのかかわりの様相」（平成28年4月 - 平成31年3月）の研究代表者として活動を開始した。また，「看護学生の情動知能と他者とのかかわりに関する銃弾研究」が平成28年度本看護学部教員共同研究費として採択された。さらに，平成27年度に日本精神保健看護学会研究助成を受けた「精神科看護師の他者とのかかわりとエンパワメントに関する研究」について，第26回日本精神保健看護学会学術集会で発表した。

なお，文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された研究プロジェクト「日本型地域ケア実践開発研究事業」において，特定行為区分「精神および神経症状にかかる薬剤投与関連」について，「精神科薬物療法と看護Ⅰ・Ⅱ」の科目担当者として，永井は指導補助者，石井はサポート教員として活動した。特定行為以外の「高齢者看護3（認知症）」については，科目担当者として半澤と路川が活動した。さらに，訪問調査にも全員が協力した。

その他各教員が，国内外の学会での発表，学内外の学術雑誌への論文掲載および査読などを担当している。また，発足11年目を迎えた「北関東精神保健看護研究会」は，永井を中心に年2回の研究会を継続しており，栃木県のみならず北関東の精神科看護職者の情報交換，実践における問題解決の知恵を共有する貴重な機会となっている。

４．その他

永井は，栃木県，糖尿病認定看護養成課程2施設（日本看護協会看護研修学校および日本赤十字看護大学）等が主催する各種研修会の講師として，また，四日市医療看護大学大学院の「コンサルテーション論」の非常勤講師として看護職の継続教育に協力した。また，日本精神保健看護学会代議員・副理事長・査読委員，精神保健従事者懇談会代表，日本ルーラルナーシング学会評議員・理事（渉外担当）・事務局長，日本看護科学学会，千葉看護学会，日本看護学教育学会の評議員，文化看護学会の監事，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本家族看護学会の査読委員，日本病院・地域精神医学会編集委員を務めている。さらに，介護福祉士国家試験委員（幹事）を務めた。

半澤は，日本精神障害者リハビリテーション学会の常任理事（学会誌編集担当），同学会誌編集委員，査読委員，日本社会精神医学会理事，同学会編集委員，査読委員，日本精神保健・予防学会の評議員，日本精神衛生学会理事および学会誌査読委員，日本精神神経学会 英文誌 Psychiatry and Clinical Neurosciences, Psychiatry Research, International Journal of Culture and Mental HealthおよびAsian Federation of Psychiatric Associations, Asian Journal of Psychiatry,のReviewer，日本精神保健看護学会，日本ルーラルナーシング学会，日本看護科学学会和文誌の専任査読委員，日本精神保健福祉学会機関誌の編集委員を務めた。

石井は，日本ルーラルナーシング学会および北関東精神保健看護研究会の事務局員を務めている。

路川は，北関東精神保健看護研究会の事務局員を務めている。

母性看護学

教授　成田　　伸

１．スタッフの紹介

教　授　成田　　伸
教　授　野々山未希子
准教授　角川　志穂
（平成28年4月1日より平成29年3月31日まで産前産後休暇及び育児休暇取得）
助　教　望月明見
助　教　近藤まゆみ（2016年10月31日退任）

２．教育の概要

１）母性看護学に関する教育概要

⑴生涯発達看護学概論Ⅰ（妊産褥婦）（1年次後学期2単位：必修）

成田が担当し，助教，臨時教員の協力を得て実施した。母性看護学の基本概念，母親になっていくプロセス，生殖医療と倫理・法的な問題などを講義した。

⑵周産期実践看護学Ⅰ（妊産褥婦）（2年次後学期1単位：必修）

成田が科目責任として総括し，望月と臨時教員の浜野が協力し実施した。子育ての実際に関する学生のイメージ化を図るため乳児と母親に教育支援者として協力してもらい，学生と交流することで効果的な学習ができた。

⑶周産期実践看護学Ⅱ（胎児・新生児期）（2年次後学期1単位：必修）

成田が科目責任として総括し，望月と臨時教員の浜野が協力し実施した。妊産褥婦及び新生児のアセスメントについては，臨床助教や地域助産師も加わり指導した。周産期看護実習につながる看護過程については，望月が中心となって実習時の展開を意識した書式の修正と褥婦・新生児の事例を作成したうえで，講義，アセスメントや看護技術の演習，事例展開の演習が連動するように関連させて展開した。

⑷生涯発達看護学概論Ⅵ（4年次前学期1単位：必修）

野々山が科目責任者として担当した。リプロダクティブヘルス・ライツの概念，思春期・性成熟期・更年期各期の健康問題と看護，避妊・性感染症予防，不妊の看護などを講義した。

⑸周産期看護実習（3年次前学期2単位：必修）

成田が科目責任者となり，望月と臨時教員の浜野，寺尾，戸崎が分担して担当した。自治医科大学附属病院，さいたま医療センターそれぞれの産科病棟・産科外来等で実習すると共に，栃木県助産師会が下野市で実施している地域育児支援の活動に参加し，効果的な実習を展開できた。

２）助産学に関する教育概要

⑴助産学概論（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として全体を総括した。助産師の概念，助産師活動の概要，助産師の国際活動，海外の母子保健，性と生殖の健康と人権，助産に係る生命倫理などを教授した。人権や生命倫理に関しては，事例に基づき意見交換を行うことで，学生が支援方法を考えることができた。

⑵基礎助産学Ⅰ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。助産の基礎となる妊娠・分娩期の生理と病態，胎児の成長と発育，附属物の構造と機能，妊娠・分娩期の正常からの逸脱などについて教授した。

⑶基礎助産学Ⅱ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。助産の基礎となる産褥期・新生児期の生理と病態，正常からの逸脱，ハイリスク新生児などについて教授した。

⑷基礎助産学Ⅲ（3年次後学期1単位：選択）

受講希望の学生は受講可能である。野々山が科目責任者として担当した。母子と家族の健康に影響を与える要因，母性・父性の発達と家族役割周産期の母子と家族の心理的側面，妊娠・出産に関わる社会文化的側面について教授した。母子と家族の健康と生活，心理・社会的側面に影響を与える要因については，事例をもとにグループワーク及び意見交換をすることで，多角的な視点からのアセスメントについて学ぶことができた。

⑸実践助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生8人に開講し，成田が科目責任者として総括し主に講義を担当し，演習については望月が主に展開した。

⑹実践助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生8人に開講し，成田が科目責任者として総括し主に講義を担当し，演習については望月が主に展開した。分娩介助の演

習については，学生が実習予定の施設の臨床指導者に来学いただき，具体的な指導を展開してもらった。

⑺実践助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生8人に開講し，成田が科目責任者として総括し主に講義を担当し，演習については望月が主に展開した。

⑻実践地域助産学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生8人に開講し，野々山が科目責任者として総括し，地域における助産師の母子保健活動，産褥期の健康教育・保健指導について教授した。地域で活動する助産師講義も入れることで，様々な場での助産師活動について学ぶことができた。

⑼助産管理学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生8人に開講し，野々山が科目責任者として担当し，助産師の活動に関わる管理の概念と活動，災害時の役割，助産業務と医療事故などについて教授した。

⑽助産学実習（4年次後学期8単位：選択）

助産学生8名が受講した。成田が科目責任者として総括し，母性看護学教員が分担した。自治医科大学附属さいたま医療センターを新たな実習場所として追加し，さいたまは学生2名で成田と近藤が，自治医科大学附属病院は学生4名で野々山と臨時教員の浜野が，済生会は学生2名で望月と臨時教員の鈴木が担当した。分娩期の対象者を受持ち，ケアを展開し，必要な分娩介助件数を達成し，継続ケースのケアを展開した。

３）母性看護学・助産学以外の担当教育概要

⑴基礎看護セミナー（1年次前学期1単位：必修）

野々山，望月が分担者としてそれぞれのグループを担当し，レポート作成を指導した。

⑵総合実習（4年次前学期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

成田，野々山，近藤，望月で母性看護学領域に配置された学生10名を担当し，総合実習でテーマとした内容についてレポートを作成した。フィールドとして，附属病院産科病棟およびNICU，附属さいたま医療センター産科病棟，大野医院，和田マタニティクリニックを使用し，栃木県助産師会の協力を得た。

⑶看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

成田が全体調整を担当し，母性看護学教員，TA，臨床助教の協力を得て実施した。日本版新生児蘇生法Bコースの公認コースなどを開催し，最新知識を教授した。

⑷看護管理学（4年次前学期2単位：必修）

成田が科目責任者として担当し，福田講師，非常勤講師の協力を得て実施した。特に非常勤講師は，附属病院看護部長，医療情報部担当の看護副部長，キャリア支援センター担当師長，シミュレーションセンター長等，看護・病院管理の最前線で活躍する方々であり，充実した内容となった。

⑸ジェンダー論（1，4年次後学期2単位：選択）

成田が科目責任者として担当し，非常勤講師の協力も得て，ジェンダーにかかわる多様な社会問題を課題として取り上げ展開した。

３．研究の概要

１）成田は，文部科学省科学研究補助金（挑戦的萌芽研究）による研究課題「妊娠糖尿病女性への妊娠糖尿病認定助産師による産後継続支援に関する多施設共同研究」の研究代表者として，最終年度にあたる同研究を実施した。研究分担者は，聖マリア学院大学松原まなみ，川口弥恵子，広島大学大平光子，富山大学笹野京子，松井弘美，兵庫医療大学工藤里香，大阪府立大学山田加奈子であった。

２）成田は，文部科学省科学研究費補助金（基礎研究（C））による研究課題，「母体・胎児集中ケアのための研修プログラム開発に関する研究」（研究代表者：大月恵理（埼玉県立大学））に連携研究者として参加し，同研究を実施した。連携研究者は，千葉大学坂上明子，淑徳大学菅林直美，順天堂大学高島えり子，東北大学中村康香，千葉県立保健医療大学林ひろみ，札幌医科大学林佳子，山形県立保健医療大学平石皆子，聖マリア学院大学松原まなみ，埼玉県立大学森田亜希子，齋藤明香であった。

３）野々山は，厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究（H27-新興行政-一般-001）」（研究代表者：荒川創一（神戸大学大学院）），分担研究「感染予防行動，早期受診促進のための性感染症啓発スライドについて」に研究協力者として参加し，同研究を実施した。分担研究者は前神戸市保健所・

大阪市大公衆衛生学白井千香，研究協力者はヘルスプロモーション推進センター〔オフィス〕岩室岩室紳也，女性クリニックＷｅ富山種部恭子，自治医科大学看護学部野々山未希子，東京医療保健大学医療保健学部渡曾睦子であった。

4）野々山は，平成28年度厚生労働省母子保健課成育事業調査研究，子ども・子育て支援推進調査研究事業「健やか親子21（第2次）を推進するための思春期母性保健の向上を目的とした効果的な保健指導の在り方についての調査研究」（研究代表者；永光信一郎（久留米大学））に研究協力者として参加し，同研究を実施した。研究協力者は21名であった。

5）野々山は，「保護者が希望する性教育の内容と家庭での会話」の研究を実施した。

4．その他

1）成田は，群馬大学大学院において「ハイリスク状態にある女性への援助とケアシステム－糖尿病を合併した女性と家族への援助－」について教授した。

2）成田は，聖マリア学院大学専攻科助産学専攻において「周産期医療における質の保証と看護」について教授した。

3）野々山は，母子保健研修センター助産師学校1年課程において，助産診断・技術学「性感染症」について教授した。

4）野々山は，上尾看護専門学校において，成人看護援助論Ⅱ「HIV感染症／AIDSの看護」「STIとその予防」について教授した。

5）成田は，日本母性看護学会戦略的プロジェクト担当理事として，日本母性看護学会が主催する周産期・育児期の糖代謝異常に強い看護職育成セミナーを企画・運営し，講師も担当した。

6）成田は，第18回日本母性看護学会学術集会において，ランチョンセミナー2として「妊娠糖尿病既往女性への産後支援のエビデンス」を主催，講師を務めた。

7）成田は，第57回日本母性衛生学会学術集会において，内潟安子氏の教育講演「ウィメンズヘルスは小児期から」の座長を務めた。

8）成田は，第57回日本母性衛生学会学術集会において，横手直美氏が企画・講師を務めたランチョンセミナー「帝王切開の胃心と体のケア」の座長を務めた。

9）野々山は，日本性感染症学会第29回学術大会において，日本性感染症学会　卒後・生涯教育プログラム　シンポジウム1「母子の健康と性感染症予防教育」で「クラミジア感染症と母子の健康」について講演した。

10）野々山は，日本性感染症学会誌の査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。

11）成田は，栃木県母性衛生学会学会誌「とちぼ」査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。

12）望月は，栃木県母性衛生学会学会誌「とちぼ」査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。

13）野々山は，第36回日本看護科学学会学術集会査読委員を務め，学会抄録の査読を行った。

14）野々山は，性の健康医学財団賞選考委員を務め，財団賞の決定を行った。

15）成田は，日本学術振興会の科学研究費委員会専門委員として，第一段審査に係る「研究計画調書」の審査を行った。

小児看護学

教授　横山　由美

1．スタッフの紹介

教　授　横山　由美
講　師　田村　敦子
助　教　宗像　修（2016年4月1日着任，8月31日退職）
取得資格：看護師
学歴：岩手県立大学看護学部，自治医科大学大学院看護学研究科博士前期課程
職歴：自治医科大学とちぎ子ども医療センター

2．教育の概要

1）小児看護学に関する教育概要

⑴生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）（1年次後学期2単位：必修）（新カリ科目）

横山が科目責任者として総括し，田村が分担して実施した。小児看護学の基本概念，成長・発達，倫理，制度などを学習する。

⑵小児実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）（新カリ科目）子どもの健康状態の維持・増進するための援助および日常生活的な健康問題に対しての援助を学習する。

横山が科目責任者として担当し，田村が分担して実施した。また，臨床教授の朝野が2時間講義を担当した。

⑶小児実践看護学Ⅱ（2年次後学期2単位必修）（新カリ科目）

小児期看護実習につながる小児特有の疾患やその看護ケアについて学習する。

田村が科目責任者として総括し，講義は横山が分担して実施した。演習は，田村，横山，堀田（臨時教員），石田（臨時教員），柳（臨時教員）およびTAで実施した。非常勤講師として精神医学阿部，医学部小児科学小高が2時間ずつ講義を担当した。

⑷小児実践看護学Ⅲ（3年次前学期2単位：必修）

小児期看護実習につながる小児期特有の疾患とその看護ケアおよび継続看護，看護過程の展開などを学習する。

田村が科目責任として総括し，講義は横山が分担して実施した。演習は，横山，田村，宗像，堀田（臨時教員），石田（臨時教員）で実施した。非常勤講師として，医学部小児外科学小野，小児科学長嶋が2時間ずつ，移植外科学水田が1時間の講義を担当した。

⑸小児期看護実習（3年次前学期2単位：必修）健康課題をもつ子どもと親・家族を理解し，看護の展開を学ぶ。

横山が科目責任者として総括した。田村，宗像，堀田（臨時教員），石田（臨時教員）が担当した。

3）小児看護学以外の担当教育概要

⑴看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

横山，宗像が分担者としてグループを担当し，レポート作成を指導した。

⑵文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

田村が分担者としてグループを担当し，文献講読およびレポート作成を指導した。

⑶看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

横山，田村で小児看護学領域に配置された学生8名を指導した。

⑷総合実習（4年次前学期2単位：必修）

横山，田村，堀田（臨時教員）で小児看護学領域に配置された学生8名を指導した。フィールドとして，自治医科大学とちぎ子ども医療センター2A病棟，3A病棟，4A病棟，PICU，小児外来を使用した。

⑸看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

田村が担当し，学生13名を指導した。

3．研究の概要

田村，横山は，自治医科大学病院看護部長朝野，副看護部長兼子ども医療センター副センター長大海，副看護部長兼看護支援室室長小谷，NICU師長大畑，子ども医療センター外来主任小児専門看護師黒田，移植・再生医療センター移植コーディネーター尾沼，移植外科教授水田とともに，「子ども医療センターおよび移植外科の思春期から青年期の外来通院患者をフォローアップするためのシステム構築」をテーマに研究を実施した。

4．その他

1）横山は，東京都保健医療公社　多摩南部地域病院看護部研修で，看護研究の講師を務めた。

2）横山は，博士前期課程の辻本，飯島，小西とともに小山市立網戸小学校および日光市立日

新中学校，日光市立小林中学校，足利市立久野小学校の学校保健委員会で児童，生徒を対象に健康教育を行った。

3）横山，田村，宗像は自治医科大学周産期総合医療センターNICUで，退院後の育児相談や親同士の交流を目的に月1回行っている「すくすくクラブ」の会誌の原稿執筆を行った。

4）横山は，日本ルーラルナーシング学会副事務局長を務めた。

5）横山は，栃木県看護協会研修会一般教育「家族看護」の講師を務めた。

6）横山は，栃木県看護協会実習指導者講習会の講師を務めた。

7）横山は，日本小児看護学会誌専任査読者を務めた。

8）横山は，日本小児看護学会第26回学術集会において座長を務めた。

9）田村は，とちぎ小児看護研究会にて，教育講演「成人移行期にある患者の支援のあり方－思春期の子どもとのかかわり－」を行った。

成人看護学

教授　中村　美鈴

１．スタッフの紹介

教　授　中村　美鈴
准教授　佐藤　幹代
講　師　長谷川直人
講　師　佐々木雅史（2017年3月31日退任）
講　師　中野真理子
助　教　佐々木彩加
助　教　古島　幸江（2016年4月1日就任）
取得資格：看護師　保健師
学歴：博士（看護学）2017年3月取得
東京女子医科大学看護学研究科
職歴：帝京大学医学部附属市原病院（看護師）
榊原記念病院（看護師/主任看護師）
埼玉東部循環器病院（看護師）

２．教育の概要

成人看護学の教育目標は，健康危機あるいは長期的な療養を要するさまざまな健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培うことである。

１）成人看護学に関する教育概要

⑴生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）（1年次後学期2単位：必修）

中村が12時間，佐藤が10時間，長谷川，佐々木（雅），中野が各2時間の講義を担当した。

⑵成人実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

中村が12時間，佐藤が6時間，佐々木（雅）が4時間，中野が6時間の講義を担当した。

⑶成人実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

講義は，中村が4時間，佐々木（雅）が6時間，古島が2時間を担当した。演習16時間は，中村が全体を統括し，成人看護学全教員が担当した（企画主担当：中村（看護過程6時間），佐藤（看護過程2時間），佐々木（雅）（循環機能障害2時間，生命の危機2時間），中野（呼吸機能障害2時間），古島・中村（手術療法2時間））。

⑷成人実践看護学Ⅲ（2年次後学期1単位：必修）

講義は，佐藤が4時間，中野が6時間，長谷川が2時間を担当した。演習2時間は，中村が全体を統括し，成人看護学全教員が担当した（企画主担当：長谷川（内部環境調節機能障害2時間）

⑸成人実践看護学Ⅳ（3年次前学期1単位：必修）

講義は，長谷川が10時間，佐々木（彩）が4時間を担当した。演習14時間は，中村・佐藤が全体を統括し，成人看護学全教員が担当した（企画主担当：中村（看護過程2時間）佐藤（看護過程8時間），佐々木（彩）（感覚機能障害2時間），古島（運動機能障害2時間）。

⑹成人期健康危機看護実習（3年次前学期2単位：必修）

中野が全体を統括し，中野が5クール，長谷川，古島が各3クール，佐々木（雅），佐々木（彩）が各2クールを担当した。

⑺成人期長期療養看護実習（3年次前学期2単位：必修）

佐藤が全体を統括し，佐藤が5クール，佐々木（雅），佐々木（彩）が各3クール，長谷川，古島が各2クールを担当した。

⑻成人期継続療養看護実習（2年次後学期2単位：必修）

中村は全体統括しながら，2病棟同時にTAと共に1クール，1病棟を1クール1病棟他成人看護学全教員ならびに寺内非常勤教員が1クールを担当した。

２）成人看護学以外の担当教育概要

⑴看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

佐々木（彩），古島はグループ別セミナーを担当した。

⑵文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

中村は科目責任者で全体を統括し，4時間の講義とグループ別学習を10時間担当した。佐藤，長谷川が2時間の講義とグループ別学習を各10時間担当した。佐々木（雅），中野はグループ別学習を各10時間担当した。

⑶看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

中村が全体を統括し，成人看護学全教員が計21名の学生を指導した。

⑷総合実習（4年次前学期2単位：必修）

中村が全体を統括し，成人看護学全教員が学生21名を指導した。

⑸看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

佐々木（雅）が全体を統括し，企画運営を担当した。佐藤が2時間の講義を担当した。他，成人看護学教員全員が学生を指導した。

⑹チーム医療論（4年次前学期および2年次後学期1単位：必修）

中村は科目責任者で全体を統括し，2時間の講義を担当した。佐藤，長谷川，佐々木（雅），中野が各2時間，細田満和子非常勤講師（星槎大学副学長，共生科学部教授）が4時間の講義を担当した。

⑺へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：選択）

長谷川はグループ別研修指導を担当した。

⑻自治医科大学看護師特定行為研修

長谷川は血糖コントロールに係る薬剤投与関連の研修指導補助者を務め，14時間の講義を担当した。佐々木（彩）は同科目の運営補助を務めた。

３．研究の概要

１）中村は，文部科学省科学研究助成金（挑戦的萌芽研究）による「急性・重症患者のレジリエンスを支える看護モデル開発に向けた挑戦的取り組み」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。分担研究者は，名古屋市立大学　明石恵子教授，聖路加国際大学の宇都宮明美准教授であった。

２）中村は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究（C））による研究課題「身体抑制に関する教育実践モデルの構築」（研究代表者：中野真理子）に分担研究者として参加し，同研究を実施した。

３）中村は，分担研究者として，「開心術を受ける患者のアドヒアランス行動を測定するための尺度開発」で文部科学省科学補助金（基盤C）を申請し，採択された。研究代表者は，聖路加国際大学　宇都宮明美准教授であった。

４）中村は，自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「学内看護演習における臨床指導者の関わりによる教育的効果の検討」（研究代表者：中野真理子）の共同研究者として参加し，同研究を実施した。

５）佐藤は，文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（B）による「慢性の痛み語りデータベース構築と生活の再構築に関する研究」の研究代表者として，同研究を下記研究者らと共同し，慢性の痛みをもつ人とその家族の語りのインタビューを全国で実施した。研究分担者は，札幌医科大学保健医療学部看護学科　城丸瑞恵教授，聖路加国際大学　高橋奈津子助教，慶応義塾大学文学部非常勤講師　濱雄亮講師であった。研究協力者は，NPO法人 健康と病いの語りディペックス・ジャパン 佐藤（佐久間）りか，射場典子，別府宏圀　らであった。

６）佐藤は，文部科学省科学研究費補助金　挑戦的萌芽研究による「慢性の痛みの語り」の映像を用いた慢性痛患者への看護支援モデル構築と評価」の研究代表者として，同研究を下記研究者らと共同し推進した。研究分担者は，聖路加国際大学　高橋奈津子助教，慶応義塾大学文学部非常勤講師　濱雄亮講師であった。研究協力者は，NPO法人 健康と病いの語りディペックス・ジャパン－ 佐藤（佐久間）りか，射場典子　らであった。

７）佐藤は，文部科学省：科学研究費補助金（基盤C）による，「患者・医療者・研究者共同による乳がん患者の手術後退院支援モデルの構築」（研究代表者：札幌医科大学保健医療学部看護学科　城丸瑞恵教授）に，分担研究者として共同研究を実施した。

８）佐藤は，文部科学省：科学研究費補助金（基盤C）による，「乳がん患者の語りにみる手術後の苦痛の経時的変化と対処方法に関する研究」（研究代表者：札幌医科大学保健医療学部看護学科　城丸瑞恵教授）に，分担研究者として共同研究を実施した。

９）佐藤は，文部科学省：科学研究費補助金（基盤C）による，「乳がん・子宮がん患者を対象にした「書く」ことでのケア：臨床応用をめぐる　縦断的研究」（研究代表者：日本女子大学　研究員　門林道子）に，分担研究者として共同研究を実施した。

10）佐藤は，文部科学省：科学研究費補助金（基盤C）による，「患者参画による患者の病い体験を尊重できる医療者育成のためのウエブサイト　構築と評価」（研究代表者：東京工科大学保健医療学部看護学科　森田夏実教授）に，研究協力者として参加し，共同研究を実施した。

11）佐藤は，自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「学内看護演習における臨床指導者の関わりによる教育的効果の検討」（研究代表者：中野真理子）の共同研究者と

して参加し，同研究を実施した。

12）長谷川は，自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「学内看護演習における臨床指導者の関わりによる教育的効果の検討」（研究代表者：中野真理子）の共同研究者として参加し，同研究を実施した。

13）中野は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究（C））による研究課題「身体抑制に関する教育実践モデルの構築」の研究代表者として参加し同研究を実施した。研究分担者は本学看護学部教員の中村美鈴教授であった。

14）中野は，自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「学内看護演習における臨床指導者の関わりによる教育的効果の検討」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。共同研究者は本学部教員中村，佐藤，長谷川，佐々木，古島，本学附属病院看護部の宮田直美，相賀美幸，小畑美加子，渡辺道子であった。

15）古島は，自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「学内看護演習における臨床指導者の関わりによる教育的効果の検討」（研究代表者：中野真理子）の共同研究者として参加し，同研究を実施した。

16）佐々木は，自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「学内看護演習における臨床指導者の関わりによる教育的効果の検討」の共同研究代表者として同研究を実施した。

17）長谷川は，「働く2型糖尿病患者の社会生活を促進するための自己調整尺度の開発」の研究を代表者として実施した。共同研究者は，東邦大学看護学部村岡宏子であった。

４．その他

１）中村は，日本ルーラルナーシング学会の専任査読員を務めた。

２）中村は，2009年度から日本看護教育学学会学会誌の専任査読委員を務めた。

３）中村は，2008年度より日本クリティカケア学会学会誌編集委員会の編集委員と専任査読委員を務めた。

４）中村は，2006年9月より日本救急看護学会の専任査読委員を務めた。

５）中村は,日本看護科学会誌 Japan Journal of Nursing Scienceの編集委員を務めた。

６）中村は，2015年より，日本手術看護学会の専任査読委員を務めた。

７）中村は，CRSTの活動として，静岡総合病院救急部の医師を対象に，研究課題「高齢者の延命治療に対する代理意思決定」について，研究指導を1件実施し，論文掲載に至った。

８）長谷川は，東京医科大学八王子医療センター消化器外科病棟の看護師を対象に，研究課題「手指衛生の実施率と看護師の行動パターン」について，研究指導を行った。

９）長谷川は，東京医科大学八王子医療センター消化器外科病棟の看護師を対象に，研究課題「消化器疾患による入院加療中に接触感染予防が必要となった患者の個室管理に対する思い」について，研究指導を行った。

10）長谷川は，東京医科大学八王子医療センター整形外科病棟の看護師を対象に，研究課題「FIMを用いた整形外科術後患者の「できるADL」と「しているADL」の差が生じる要因の検討」について，研究指導を行った。

老年看護学

教授　宮林　幸江

１．スタッフの紹介

教　授　宮林　幸江
准教授　浜端　賢次
准教授　川上　　勝
講　師　清水みどり

２．教育の概要

老年看護学では，様々な生活の場・療養の場で，あらゆる健康レベルの高齢者とそれを取り巻く環境を対象として，看護を実践するために必要な専門的能力を養うことを教育目標としている。

１）老年看護学に関する教育概要

⑴生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）
（1年次後学期2単位：必修）
老年看護学の概念及び対象と老年看護学の役割を学ぶことを目的とした。高齢者疑似体験や回想法に関する学びを取り入れた。臨床の場における看護の実際が理解できるよう，鮎澤みどり非常勤講師，船田淳子非常勤講師による講義を組み込んだ。

⑵老年実践看護学Ⅰ
（2年次前学期1単位：必修）
高齢者の健康特性及び健康評価に基づき，セルフケアやヘルスプロモーションの考え方を中心に，高齢者の保健・医療・福祉の連携など，高齢者の健康増進と健康の維持向上をめざしたアプローチについて講義した。なお，鮎沢みどり非常勤講師による講義を組込んだ。

⑶老年実践看護学Ⅱ
（2年次後学期2単位：必修）
加齢により生じる様々な健康段階の理解や高齢者のエンパワメントを生み出す看護援助方法について学ぶことを目的とした。高齢者の紙上事例を用いた看護過程や倫理的課題の演習等を取り入れた。また，臨床の場の看護の実際が理解できるよう，太田信子臨床講師，簗瀬順子臨床講師，栗原日登美臨床講師，安西典子臨床講師による講義を組込んだ。

⑷老年実践看護学Ⅲ
（3年次前学期1単位：必修）
老年看護学の理論や知識を踏まえた看護技術の習得を目的とし，臨床実習での実践につながる摂食嚥下障害，皮膚障害，排泄・移動障害に対する看護について講義・演習を展開した。また，認知症高齢者や終末期にある高齢者への援助技術について講義した。

⑸老年臨床看護実習
（3年次前学期2単位：必修）
清水は科目責任者として全体を統括した。附属病院および特別養護老人ホーム，認知症グループホームにおいて，疾病や障害をもつ高齢者を対象に看護を展開した。

⑹老年在宅看護実習
（3年次後学期3単位：必修）
浜端は科目責任者として全体を統括した。老年看護学では，訪問看護ステーション及び通所リハビリテーション施設での学生指導を担当した。

２）老年看護学以外の担当教育概要

⑴看護基礎セミナー
（1年次前学期1単位：必修）
宮林は青木助教と7名の学生を，浜端は望月助教と8名の学生を，川上は飯塚講師と8名の学生を担当した。

⑵文献講読セミナー
（2年次前期1単位：必修）
清水は9名の学生を担当した。

⑶看護総合セミナー
（4年次後学期4単位：必修）
11名の学生を対象に，看護実践課題に沿った先行研究の文献検討，総合実習に向けた計画書の作成および実践に基づくレポート作成に向けた指導を行った。各教員2～3名の学生を担当した。

⑷総合実習
（4年次前学期2単位：必修）
11名の学生のテーマに合わせて実習場およ

び対象者を選択し，実践内容が目的に沿うよう随時指導した。（担当：全教員）

⑸看護トピックス
（4年次後学期1単位：必修）
12名の学生を対象に，看護活動の場（病院・施設・在宅）でグループとなり，高齢社会や多死社会，認知症高齢者の視点からその対応と予防策について検討し，共有した。（担当：全教員）

3．研究の概要

1）川上は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究（C））による研究課題「部位別体動の検知に基づく認知症高齢者の起上り予測法の確立と次世代見守り装置の開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は宇都宮大学　尾崎功一であった。
2）川上は，文部科学省科学研究助成金（基盤研究（B））による研究課題「ヘルスケア・デリバリーシステムの構築とマネジメント」（研究代表者：神奈川大学　高野倉雅人）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。
3）川上は，平成28年度自治医科大学看護系教員共同研究による研究課題「ラピッドプロトタイピングによる口腔ケア用器具の開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。共同研究者は，清水講師，岡野助教，附属病院看護師　戸田浩司，塚本浩章，同歯科衛生士　若林宣江であった。
4）清水は，「特別養護老人ホーム入所者の経口摂取支援のための看護役割行動指標の開発」の研究を代表者として実施した。研究分担者は千葉大学大学院看護学研究科　吉本照子，同上　杉田由加里であった。

4．その他

1）宮林は，5月及び6月に「フィジルアセスメントの正しい知識と実践テクニック」の講義・実技（6時間）を実施した。
2）宮林は，9月に市町村職員，救急職員らを対象に，「遺族（自死）の直面する現状と遺族支援の必要性について　－自殺とグリーフケア－」（福島県精神保健センター主催）および，訪問看護師や一般市民らを対象に“「グリーフケア」ってなぁに？　愛する人・大切な人を亡くした時の悲しみにどう向き合いますか？”（須賀川クリニック・健康未来24主催）について，講演した。
3）宮林は，「日本がん看護学会」の査読委員を務め査読を行った。
4）浜端は，第19回日本地域看護学会学術集会において，市民公開講座の座長を務めた。
5）浜端は，自治医科大学看護学ジャーナル編集委員会の査読者を務めた。
6）浜端は，第36回日本看護科学学会学術集会の査読委員を務め，査読を行った。
7）浜端は，6月に看護管理者研修「看護管理職に求められていること」（医療法人亀田病院主催）において，講義を4時間担当した。
8）浜端は，9月に認定看護管理者セカンレベル教育研修会「保健・医療・福祉サービス提供組織のしくみ」（栃木県看護協会主催）において，講義・演習を6時間担当した。
9）浜端は，10月～11月に「実習指導者講習会特定分野：在宅」（栃木県看護協会主催）において，演習（実習指導の実際）を24時間担当した。
10）浜端は，12月に介護施設等看護師キャリアアップ研修「高齢者の心身及び疾患の特徴とフィジカルアセスメント」（栃木県看護協会主催）において，講義・演習を4時間担当した。
11）浜端は，8月にリーダーシップ研修（栃木県看護協会主催）において，講義・演習を12時間担当した。
12）浜端は，認知症サポーターフォローアップ研修（下野市）において，講義を3時間担当した。
13）浜端は，市民公開講座（下野市地域包括支援センター）「超高齢未来社会と在宅医療を担う人材の育て方」において，2時間の講義を担当した。
14）川上は，JAかみつが厚生連 上都賀総合病院看護部職員を対象に看護研究全般について指導を行った。
15）川上は，8月に実習指導者養成講習会「実習指導の原理」（栃木県看護協会主催）において，講義を6時間担当した。
16）川上は，11月に終章学「高齢社会に立ち向か

う先輩の姿」（宇都宮大学とちぎ終章学センター主催）の講義を担当した。

17）清水は，「自治医科大学看護学ジャーナル」編集委員会の査読委員を務め，査読を行った。

18）清水は，第20回栃木看護学会学術集会の企画委員を務め，学会発表抄録集の査読を行った。

大学院看護学研究科　教育の概要

実践看護学分野「小児看護学」

教授　横山　由美

１．スタッフ紹介

教　授　横山　由美

２．大学院教育の概要

小児看護学は，さまざまな健康状態にある子どもがよりよく育つことを目的に，子どもとその家族への看護の現状と将来的な展望を踏まえ，専門的な知識や研究課題を探求するとともに，高度な看護実践能力を育み，小児看護の充実と発展に寄与する人材の育成を教育目標としている。

平成28年度は，研究を主体とする課程の2年次1名，1年次2名の教育を行った。

院生の状況を配慮しつつ，ティーチングアシスタントとして，小児看護学の講義・演習・実習・セミナー等を補助し，教育方法について指導した。

１）小児看護学講義Ⅰ（1年次前期2単位）

子どもを理解するために，成長発達，生活，社会的・歴史的側面から，主要な看護理論や最近の知見について学ぶ。1年次1名と科目等履修生2名が履修した。横山が全講義を担当した。

２）小児看護学講義Ⅱ（1年次前期2単位）

子どもの健康レベルや状況に応じたケアについて考えを発展させるために，小児看護における重要な理論や最近の知見について学ぶ。1年次2名が履修した。横山が科目責任者として総括し，非常勤講師の小児看護専門看護師黒田・村山，朝野が分担者として担当した。

３）小児看護学演習Ⅰ（1年次後期2単位）

保健医療・福祉・教育との関連において小児看護を理解し，看護の役割・活動について学ぶ。1年次2名が履修した。横山が科目責任者として総括し，非常講師の朝野，小児看護専門看護師黒田が分担者として担当した。

４）小児看護学演習Ⅱ（1年次後期2単位）

専門的な小児看護実践に活用できるヘルスアセスメントの能力を修得する。1年次2名が履修した。横山が科目責任者として総括し，非常勤講師の医学部教員河野，熊谷が分担者として担当した。

５）小児看護学演習Ⅲ（1年次後期2単位）

事例を用いて小児看護実践における課題および高度実践看護師としての援助について検討する。事前学習として9月，10月に日光市を対象とした地区踏査および日光市民病院オリエンテーションを行った。演習のフィールドとして日光市民病院を使用した。1年次2名が履修した。横山が科目責任者として総括し，非常勤講師で小児看護専門看護師の黒田・村山・佐々木が分担者として担当した。

６）小児看護学演習Ⅳ（2年次前期2単位）

小児期に特有な疾患の診断と治療のプロセスについて学ぶ。2年次1名が履修した。横山が科目責任者として総括し，非常講師として医学部阿部2時間，河野2時間，南6時間，熊谷8時間，長嶋8時間，小児看護専門看護師の黒田2時間，村山2時間が分担者として担当した。

７）小児看護学特別演習（2年次前期4単位）

小児看護における現状を分析して課題を見出し，改善・改革の方法について明らかにする。2年次1名が履修した。横山が科目責任者として担当した。

８）実践看護学特別研究（2年次後期6単位）

実践看護学の対象となる人々へのケアの改善・改革に関連する研究課題を設定し，修士論文を作成する。2年次1名が履修し修士論文として提出した。研究指導教員として横山が担当した。

講義・演習・セミナーを通じて1年生2名が修士論文における研究課題を研究構想発表会において発表し，さらに検討を重ねた。

３．その他

博士前期課程の辻本，飯島，小西は横山とともに小山市立網戸小学校および日光市立日新中学校，日光市立小林中学校，足利市立久野小学校の学校保健委員会で児童，生徒を対象に健康教育を行った。

実践看護学分野「母性看護学」

教授　成田　　伸

１．スタッフ紹介

教　授　成田　　伸
教　授　野々山未希子
准教授　角川　志穂
（平成28年4月1日より平成29年3月31日まで
産前産後休暇及び育児休暇取得）

２．大学院教育の概要

１）専門科目に関する教育概要

平成28年度は，専門看護師教育課程を希望する1名について2年次の教育を行った。

鈴木は課題研究について，前年度に「切迫早産で入院した母親の妊娠期から出産後早期における母乳育児を通した体験」をテーマに定め，平成28年度に入って倫理審査を受診し許可を得，研究を開始することになった。

鈴木の母性看護専門看護実習ⅠおよびⅡについては，母性看護専門看護師の役割機能についての実習および研究テーマに沿った内容を実習として展開した。課題研究としては，実習記録に基づき分析した結果から，修士論文「切迫早産で入院した母親の母乳育児の意向を支える看護の検討－出産前から出産1か月までの継続的な母乳育児支援を通して－」を完成させた。

２）共通科目に関する教育概要

平成28年度は，看護実践研究論の第6－10回を野々山が担当し，専門看護師教育課程を希望する3名に対して，研究目的と研究方法についての教育を行った。看護実践研究にふさわしい研究目的および，目的を達成するための研究方法を選択するための文献検討・クリティークについて，講義及びプレゼンテーション・討議により学習した。

実践看護学分野
「クリティカルケア看護学」

教授　中村　美鈴

１．スタッフの紹介

教　授　中村　美鈴
准教授　佐藤　幹代

２．教育の概要

主として身体的な健康危機状態にある患者とその家族を全人的に捉え，苦悩・苦痛を緩和し，危機的状態からの健康の回復と生活への適応に向けて専門的に看護をするために，状況に応じた総合的な判断力と組織的な問題解決能力を備えた高度な看護実践者を育成する。

また，平成28年度は，高度実践看護師教育課程について，26単位から38単位に移行し２年目を迎え，1年次生２名，２年次１名が38単位の教育課程を履修している。

１）クリティカルケア看護学に関する教育概要
＜38単位教育課程の教育概要＞

⑴クリティカルケア看護学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修・選択）

中村が26時間，山勢博彰（山口大学大学院医学系研究科教授）4時間の講義を担当した。

⑵クリティカルケア看護学講義Ⅱ（1年次前学期2単位：必修・選択）

中村が4時間，竹内護非常勤講師，井上莊一郎非常勤講師（聖マリアンナ医科大学/大学病院・麻酔学　教授）が各2時間，布宮伸非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座講師）が12時間，三澤吉雄非常勤講師（本学医学部心臓血管外科部門教授）が4時間，斎藤修非常勤講師（本学医学部腎臓内科部門准教授）2時間，佐久間康成非常勤講師（本学医学部消化器外科学部門准教授）2時間，水田耕一（本学医学部移植外科学部門准教授）2時間の講義を担当した。

⑶クリティカルケア看護学講義Ⅲ（1年次後学期2単位：必修・選択）

中村が8時間，布宮伸非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座学内教授）が8時間，竹内護非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座教授）が4時間，鈴川正之非常勤講師（本学医学部・救急医学・教授）が４時間，多賀直行非常勤講師（とちぎ子ども医療センター准教授）が2時間，和田政彦非常勤講師（本学医学部麻酔科学・集中治療医学講座講師）が2時間，山下圭輔非常勤講師（本学医学部・救急医学・教授）が2時間の講義を担当した。

⑷クリティカルケア看護学演習Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

中村が32時間，佐藤が8時間，茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院CNS）が中村とともに20時間の講義・演習を担当した。

⑸クリティカルケア看護学演習Ⅱ（1年次前学期2単位：必修）

中村が48時間，井上莊一郎非常勤講師（聖マリアンナ医科大学/大学病院・麻酔学　教授）が4時間，木下佳子非常勤講師（NTT東日本関東病院看護副部長）が８時間の講義・演習を担当した。

⑹クリティカルケア看護学演習Ⅲ（1年次後学期2単位：必修）

中村が32時間，佐藤が12時間，古賀雄二非常勤講師（亀田医療大学看護学部看護学科 講師）が8時間，綿貫成明非常勤講師（国立看護大学校 教授）が8時間の講義・演習を担当した。

⑺クリティカルケア看護学演習Ⅳ（1年次後学期2単位：必修）

中村が6時間，佐藤が4時間，土蔵愛子非常勤講師（東京女子医科大学看護学部認定看護師センター）が4時間，谷島雅子非常勤講師（本学附属病院CNS），茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院CNS），上澤弘美非常勤講師（土浦協同病院CNS），渡邊好江非常勤講師（杏林大学医学部付属病院CNS）が中村とともにそれぞれ4時間ずつ講義・演習を担当した。

⑻クリティカルケア専門看護実習Ⅰ（1年次後学期2単位：選択必修）

高度医療施設において，2月22日～3月11日の期間に実施し，2名が履修した。2単位（中村が担当，佐藤は調整を担当）が開講された。また，朝野春美（本学付属病院看護部長・臨床教授），小谷妙子および渡辺芳江（本学学付属病院看護部副部長・臨床准教授）らは，実習の相談・調整をおこない，茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院・ICU看護師長・CNS・臨床講師），神山淳子（本学付属病院・ICU・臨床講師），谷島雅子（本学救急部・CNS・臨床助教）は，実践指導およびカンファレンスの指導に当たった。

⑼クリティカルケア専門看護実習Ⅱ（2年次前・後学期4単位：選択必修）

高度医療施設において，4月１日～6月27日の期間に実施し，2名が履修した。実習場所は，自治医科大学および日本医科大学（東京）で実施した。4単位（中村が担当，佐藤は調整を担当）が開講された。朝野春美（本学付属病院看護部長・臨床教授），小谷妙子および渡辺芳江（本学学付属病院看護部副部長・臨床准教授），内藤明子（日本医科大学附属病院看護副部長）らは，実習の相談・調整をおこない，茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院・ICU看護師長・CNS・臨床講師），神山淳子（本学付属病院・ICU・臨床講師），谷島雅子（本学救急部・CNS・臨床助教），背戸陽子（日本医科大学附属病院ICU師長）細萱順一，榊　由里（日本医科大学付属病院・CNS）らは，実践指導およびカンファレンスの指導に当たった。

⑽クリティカルケア専門看護実習Ⅲ（2年次前・後学期4単位：選択必修）

高度医療施設において，６月28日～８月３日の期間に実施し，２名が履修した。実習場所は，自治医科大学および日本医科大学（東京）で実施した。４単位（中村が担当，佐藤は調整を担当）開講された。また，朝野春美（本学付属病院看護部長・臨床教授），小谷妙子および渡辺芳江（本学付属病院看護部副部長・臨床准教授），内藤明子（日本医科大学附属病院看護副部長）らは，実習の相談・調整をおこない，茂呂悦子非常勤講師（本学附属病院・ICU看護師長・CNS・臨床講師），神山淳子（本学付属病院・ICU・臨床講師），谷島雅子（本学救急部・CNS・臨床助教），背戸陽子（日本医科大学附属病院ICU師長）細萱順一，榊　由里（日本医科大学付属病院・CNS）らは，実践指導およびカンファレンスの指導に当たった。

⑾クリティカルケア看護学課題研究（2年次前・後学期4単位：選択必修）

平成28年度は開講していない。

⑿クリティカルケア看護学特別演習（2年次前・後学期4単位：選択必修）

研究指導教員として中村が40時間，ゼミ形式で48時間，研究指導補助教員佐藤が28時間の講義・演習を担当した。

⒀実践看護学特別研究（2年次後学期6単位：選択必須）

２）その他

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発研究事業」（採択期間（平成25～平成29年度）に取り組んだ。

⑴地域ケア実践看護師の教育・支援システムの開発研究（e-ラーニング教材開発）と，スキルトレーニングプログラムを実施した。高齢者看看護１（急性期）および，高齢者看護４：演習（急性期）は中村が主担当となり，中野，古島，佐々木雅史らが分担した。

高齢者看護３（認知症）は佐藤が分担，また高齢者看護４：演習（認知症）は佐藤が主担当となり演習を担当した。

実践看護学分野「精神看護学」

教授　半澤　節子

１．スタッフの紹介

教　授　永井　優子
教　授　半澤　節子

２．教育の概要

精神看護学の教育活動は，主として精神的な健康危機状態について，人間の生涯にわたる精神的健康の増進から重度の精神障害者の支援まで多様な対象を守備範囲とし，上級の精神看護実践専門職として役割を果たし，実践状況を変革できる人材育成を目指している。

平成28年度に精神看護学に関する専門科目の履修登録した院生は1名であり，「健康危機看護学特別研究」（2年次後学期6単位：必修）を開講した。

「健康危機看護学特別研究」の授業目標は，実践的課題の中から，実践看護学の対象となる人々へのケアの改善・改革に関連する研究課題を設定し，個別指導や研究ゼミによって研究活動を推進し，修士論文を作成するものである。平成28年度は，院生1名に対して，修士論文の完成に向けて必要な指導助言を行うとともに，修了のための論文審査などの準備についても助言を行った。なお，当該院生は，修士論文として「退院および地域生活支援に関連する社会資源についての精神科看護職の経験」を完成させた。

実践看護学分野「がん看護学」

教教授　本田　芳香

１．スタッフの紹介

教　授　本田　芳香
教　授　小原　　泉

２．教育の概要

がん看護学領域は，平成19年度に文部科学省の「がんプロフェショナル養成プラン」において，本学の取り組みである「全人的ながん医療の実践者養成」が採択された。本学大学院看護学研究科において，平成20年度より高度専門看護職に求められる看護実践能力の育成強化を教育課程の特徴とする実践看護分野に，がんの急性期から終末期に至る様々な健康状態にある患者とその家族に対して，看護実践を提供するための実践理論とその方法を系統的に教授するがん看護学領域を開講した。本領域ではがん看護における専門的知識や研究課題を探究するとともに，がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し，苦痛や苦悩を緩和し，生活の質の向上を目指した高度な看護実践のできるがん看護のスペシャリストを育成する。平成22年に専門看護師教育課程（28単位）の認定を受け，平成26年には，博士前期課程の教育課程として改編し，38単位の専門看護師教育課程の認定を受けた。

１）がん看護学に関する教育概要

平成28年度は1名の学生を受け入れた。この1名は専門看護師教育課程の標準コースにて講義・演習を開始した。38単位認定に伴いがん看護専門科目は，演習科目2単位，専門実習4単位が追加となっている。

平成27年度入学者1名は，がん看護専門看護実習Ⅰ，がん看護専門看護実習Ⅱ及びがん看護学課題研究を受講した。

【がん看護学講義Ⅰ】（1年次前期科目）2単位

がんの分子生物学，病因，疫学と予防，遺伝学，病態生理学，診断，治療法に関する最新知見を深め，治療に応じた身体管理方法の概要を理解する。がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題を包括的にアセスメントする視点を修得し，最新のケア実践への適応を探求することを到達目標とした。がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題に対して，がんの疫学，病態，診断，治療法などの最新知見から包括的なアセスメントを行う視点を，学生によるプレゼンテーション，討議を通して最新のケア実践へ繋げる方策を考察した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原，非常勤講師7名が担当した。

【がん看護学講義Ⅱ】（1年次前期科目）2単位

がん患者とその家族が抱える複雑な健康問題を理解する基盤となる概念や理論を学び，看護モデルへの適応を探究することを到達目標とした。がん患者とその家族を理解するための基盤となる概念枠組みを理解するため，国内外の文献と討議をもとに，がん看護領域における基本的概念について考究した。またがん看護領域に関連するストレスコーピング理論，ケアリング理論，危機理論などの諸理論の理解についてプレゼンテーション，討議をし，それをもとにがん看護における本理論の適応を考究した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原，非常勤講師1名が担当した。

【がん看護学演習Ⅰ】（1年次前期科目）2単位

がん患者とその家族に生じる複雑な健康課題に対して，最新の知見に基づいた系統的なアセスメントを行い，患者とその家族の苦痛及び苦悩を包括的に理解する方法を学修することを到達目標とした。がん患者とその家族の健康問題を身体的，精神的，社会的，スピリチュアルな各側面から系統的に症状を捉える基本，診断期から終末期に至る各期におけるがん患者とその家族の症状アセスメントの分析を通して系統的に習得する方法を教授した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原が担当した。

【がん看護学演習Ⅱ】（1年次前期科目）2単位

がん看護の基盤となる概念や理論，および緩和医療の知識を活用した事例分析や看護介入モデルの展開を通して，緩和ケアを提供するための専門的な看護実践方法を学修することを到達目標とした。がん看護に関連する上記の諸理論を用いて実践事例を分析し，発表と討議を通して自己の看護

観を考究した。また実践事例が有する健康課題を的確に捉える視点を，がん看護に関連する理論や概念を用いて看護介入モデルを作成し，プレゼンテーション，討議を通して実践への適用を検証及び考察した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原，非常勤講師4名が担当した。

【がん看護学講義Ⅲ】（1年次後期科目）2単位
がん診断期から終末期に至る様々な健康課題を抱えるがん患者とその家族に対するグリーフケアを含め，緩和ケアを系統的かつ体系的システムとして提供するために有用な資源，および資源の活用も含めた専門的な看護援助方法を理解することを到達目標とした。各治療時期（周手術期，化学療法，放射線療法，遺伝性のがん看護，長期療養過程にある看護，終末期にある看護，グリーフケア，地域看護）の様々な健康課題を抱えるがん患者とその家族に緩和ケアを系統的かつ体系的システムとして提供する看護支援方法を，各専門領域の講師より最新知見の提供を受けた。またがん看護専門看護師が果たすべき役割機能として探求するため，実践事例に基づきプレゼンテーション，討議形式で系統的に習得できるように教授した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原，非常勤講師5名が担当した。

【がん看護学演習Ⅲ】（1年次後期科目）2単位
緩和ケアに関するキュアとケアの方法について実践事例や国内外の文献をレビューし，キュアとケアを統合しエビデンスに基づいた緩和ケアを提供するための専門的な看護実践方法を理解することを到達目標とした。様々な健康課題を抱えるがん患者・家族に緩和ケアを提供するための専門的な看護支援の実際を，CNSの6つの機能（実践，教育，相談，調整，倫理，研究）に基づき実践事例や国内外の文献を検討し，質の高い緩和ケア提供方法を探究するため，プレゼンテーション，討議を通して，がん看護や緩和ケアにおける課題や展望について考察した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原，非常勤講師2名が担当した。

【がん看護学演習Ⅳ】（1年次後期科目）2単位
がん診断期から終末期に至る複雑で困難な健康課題を抱えるがん患者とその家族に対して，緩和ケアを提供するための臨床推論・判断過程を理解する。またがん相談技法やがん患者教育的技法を模擬患者などのシミュレーション方法を活用し緩和ケアの包括的介入方法を理解することを到達目標とした。がん患者とその家族が抱える複雑で困難な健康課題に対してキュアとケアを統合するための臨床推論・判断過程を系統的かつ包括的に探究するため，緩和ケアに関連する実践事例の展開および症状アセスメント方法についてプレゼンテーション，討議形式で系統的に習得できるように教授した。評価方法は，プレゼンテーション，討議及び課題レポートで評価をおこなった。本田，小原が担当した。

【がん看護専門看護実習Ⅰ】（2年次前期）6単位
がん患者と家族に継続的かつ質の高い緩和ケアを提供する病棟，外来など様々な場において，専門看護師の役割・機能の実際，および高度な看護実践・教育・相談・調整・倫理調整の実際を通して，創造的ながん看護ケア開発の方法を理解することを到達目標とした。がん看護専門看護実習Ⅰは，緩和ケア専門実習，CNS役割開発実習，上級実践がん看護実習の３つに分けて科目目標を達成するためにがん看護専門看護師のスーパーバイズを受けながら実施するよう実習体制を組んだ。評価方法は，実習記録などを含むレポート評価および実習評価基準に基づき，自己評価，実習指導者による他者評価，教員による総合評価で評価をおこなった。本田，小原が担当した。

【がん看護専門看護実習Ⅱ】（2年次後期）4単位
がんの診断・治療に伴う臨床判断に基づいた身体管理方法の実際を通して，複雑な健康課題をもつがん患者およびその家族にキュアとケアを統合した看護ケア開発について理解することを到達目標とした。主に外来および病棟でがん化学療法を受け症状緩和のための身体管理を要する患者を複数担当し，医師による臨床判断の内容や身体管理の方法を学ぶとともにがん看護専門看護師のスーパーバイズを受けながら実施する実習体制を組んだ。
評価方法は，実習記録を含むレポート課題および実習評価基準に基づき自己評価，実習指導者に

よる他者評価，教員による総合評価にて評価を行った。小原，本田が担当した。

【がん看護学課題研究】（2年次後期）4単位
　がん看護学領域における新たな知見を探求するため，研究課題に沿い科学的根拠に基づいた研究方法を用いて研究論文を作成することを到達目標とした。院生は1年次より自治医科大学シンポジウム，合同研究セミナー等により研究課題を絞りこみ臨床実践に寄与するための研究論文を作成した。評価方法は，一連の研究プロセスおよび成果物を総合的に評価した。小原が担当した。

２）その他　看護学部教育に関連する教育概要
⑴がん看護学に関連する教育概要
　がん看護学（2年次後期科目1単位：選択）の科目責任者を小原が務めた。学習目的は，対象ががんを患う意味と，生命・生活への支障・影響を理解し，対象とその家族に必要な看護を学習することである。がんの特徴やがん治療の特徴，各健康時期（診断期から終末期に至るまで）のがん患者とその家族への看護の実際，がんに伴う症状（痛み，リンパ浮腫，倦怠感等）が生活・生命に与える影響と必要な緩和ケアについて，主に講義形式で授業をすすめた。またがん体験者によるがんと共に生きる患者の生活の理解についてがん体験者による講義も行った。授業は，科目責任者は小原，他本田，3名の非常勤講師，教育支援者1名が担当した。

⑵がん看護学以外の担当教育概要
　本田，小原は，基礎看護学関連科目（主に1年，2年次，4年次）11科目，他総合分野として，看護基礎セミナー（1年次前期科目1単位：必修）では，７～8名の学生を対象にセミナー形式ですすめていった。総合実習（4年次前期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後期科目6単位：必修）は，19名の学生を対象に前期の一部は全員にて文献検討をおこない，その後研究テーマ別に10名と9名のグループに分かれ，グループ指導および個別指導をおこなった。

地域看護管理学分野
「老年看護管理学」

教授　宮林　幸江

1．スタッフの紹介

教　授　宮林　幸江
准教授　浜端　賢次
准教授　川上　　勝

2．教育への概要

博士課程前期

1）老年看護管理学　講義Ⅰ（1年前期科目）2単位

高齢者看護の概念・高齢者の特徴，発達課題を踏まえての看護学から見た高齢者への健康生活の支援（宮林，川上），健康課題の問題，高齢者の意思決定と倫理問題（浜端），高齢者の家族と高齢者における現状と課題（宮林）等について教授し，院生は学修をした。また，評価は，今後の問題点を見据えつつ高齢者看護管理全般についての考察を含めて，課題レポートを課した。また，講義資料には，実際の研究論文を資料として提示した。

（担当　宮林，浜端，川上）

2）老年看護管理学　講義Ⅱ（1年後期科目）2単位

健康障害を持ちつつの高齢者の生活を支えることと実際の医療施策（宮林），高齢者の健康レベルと生活の場（宮林），認知症高齢者への援助の方法の変遷と最新のケアの実践・研究の動向（浜端），そして高齢者のソーシャルサポートと環境整備について（浜端）。また高齢者の最終の姿である弱体・衰退化（臨死）から死別へ老年期の発達最終過程にある姿と，多死社会に向けた最後のケアのあるべき援助の方法の変遷と最新のケアの実践・研究の動向を海外の文献を使用しつつ教授した（宮林）。

（担当　宮林，浜端）

3）老年看護管理学　演習Ⅰ（1年･2年前期科目）4単位

高齢者看護に関する分野別の研究を系統的に整理しつつ，重要かつ優れた文献をクリティークし，院生の研究課題のフォーカス化・研究についての学修講義とした。また実際のケア（喪失悲嘆に苦悩する人）の実践に参加し，実際の声を徴収し聴き入る実践により研究への導入とした。特に研究計画と倫理審査に向けた最終的文献の読み込みに時間をかけた

（担当　宮林）

博士課程後期

広域実践看護学特論Ⅲ（1年次科目　選択）2単位

悲嘆経験者のメンタルヘルスとグリーフケア及び遺族からの相談について，悲嘆の反応の悲嘆の正常・異常（複雑悲嘆）そしてグループ療法について講義をし，実際の事例を用いて，ケア・相談内容について理解を深めた。（宮林担当分）

（担当　半澤，宮林）

地域看護管理学分野
「地域看護管理学」

教授　春山　早苗

１．スタッフの紹介

教　授　春山　早苗
准教授　鈴木久美子
准教授　塚本　友栄

２．教育の概要

地域看護管理学の履修者は，1年生は2名，2年生は2名（2年目が1名，3年目以降が1名）で全員が長期在学制度を利用している。

地域看護管理学では，地域特性に応じた政策立案や地域資源づくり，地域ケア体制づくり，その他の地域看護管理に関わる知識や技術を教授し，地域ケアの現場において管理的・指導的役割を担い，地域のニーズに合った看護サービス提供システムを改善・改革・創出できる人材育成を目指した教育活動をしている。今年度の開講科目は「地域看護管理学講義Ⅰ」（2単位，春山担当），「地域看護管理学講義Ⅱ」（2単位，春山・鈴木担当），「地域看護管理方法Ⅰ」（2単位，春山・非常勤講師担当），「地域看護管理方法Ⅱ」（2単位，春山・鈴木担当），「地域看護管理学演習」（4単位，春山・鈴木・塚本担当）であった。

【地域看護管理学講義Ⅰ・Ⅱ】

講義Ⅰの授業目標は，文献検討や近年の地域看護活動の課題の検討を通して，地域看護管理に関係する主要概念，地域における看護活動体制づくりの理論と考え方，地域資源の評価と開発に関わる看護活動について学修することである。1年生2名が履修した。

講義Ⅱの授業目標は，文献抄読により，へき地に住む人々のヘルスニーズと地域診断の視点，へき地看護理論の基礎，へき地看護活動の展開方法と看護管理体制のあり方について学修することである。1年生2名が履修した。

【地域看護管理方法Ⅰ・Ⅱ】

方法Ⅰの授業目標は，実践事例や先行研究の知見から地域連携体制の構築や地域看護管理活動の展開方法，施策化に関わる看護専門職の役割と看護活動の展開方法について検討することである。1年生2名が履修した。

方法Ⅱの授業目標は，山間へき地や離島，豪雪地帯における実践事例や国内外の文献を検討し，へき地における看護活動発展のための方法を考えることである。1年生2名が履修した。

【地域看護管理学演習】

授業目標は，地域特性とヘルスニーズの分析から，地域における看護提供体制を評価検討し，看護管理に関する改善・改革の課題を明らかにすることである。1年生2名が履修した。授業目標に関連した目標を学生自身が立て，県内の1市，1保健所，訪問看護ステーション3か所並びに本学附属病院患者サポートセンター看護支援室において実習を実施した。

【地域看護管理学特別演習】

授業目標は，地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための研究的アプローチを検討し，研究を計画することである。2年生1名が履修した。文献検討，並びに，学生自身の研究テーマと関連させて，県内1市でフィールドワークを行い，ゼミと個別指導により，研究計画を精錬した。

【老年・地域看護管理学特別研究】

春山が2年生1名の研究指導を行い，塚本が研究指導を補助した。

修士論文のテーマは「二次予防対象高齢者の介護予防に果たす高齢者自主グループの機能」であった。

地域看護管理学分野
「看護技術開発学」

教授　村上　礼子

１．スタッフの紹介

教　授　村上　礼子
准教授　里光やよい
講　師　福田　順子
講　師　八木　街子（2016年4月1日着任）

取得資格：看護師，保健師
学歴：修士（看護学）山形大学大学院医学系研究科看護学専攻修了。熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻博士後期課程在籍。
職歴：慶應義塾大学病院等（看護師）の7.5年間勤務，非常勤講師，実習指導を約2.5年兼務。名古屋大学医学部看護学専攻基礎看護学講座助教3年，北里大学看護学部基礎看護学領域助教2年。

２．教育の概要

看護技術開発学の履修者は，1年生1名である。

看護技術開発学では，地域ケア・医療現場における特定行為を含めた看護技術の安全かつ有効な開発および，特定行為研修を含めた看護技術教育に必要な知識・技術を教授し，地域ケア・医療現場において管理的・指導的役割を担い，より質の高い看護ケアや看護サービスを提供するための看護技術を開発・改善できる人材を育成する。

１）看護技術開発学に関する教育概要

⑴看護技術開発学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

講義Ⅰでは，看護技術の概念および特徴，ならびに安全かつ有効な特定行為を含めた看護技術の開発に関する研究の動向を学修した。1年生1名が履修した。

村上が2時間，村上と里光が26時間の講義を担当した。

⑵看護技術開発学講義Ⅱ（1・2年次後期2単位：必須）

講義Ⅱは，特定行為研修を含めた看護技術教育の実際および理論的根拠に基づいた看護技術教育のあり方について学修した。1年生1名が履修した。

村上が2時間，村上と里光が26時間の講義を担当した。

⑶看護技術開発学演習Ⅰ（1年次前期4単位：必須）

演習Ⅰでは，看護技術開発のプロセスおよび看護技術開発研究における倫理的課題を明確にし，特定行為研修を含め看護技術開発に活かせる課題や特定行為研修後のフォローアップまでを見据えた看護技術教育上の課題を検討した。1年生1名が履修した。

村上が12時間，福田が2時間，村上，里光，福田，八木が46時間を担当した。

⑷看護技術開発学演習Ⅱ（1・2年次後期4単位：必須

演習Ⅱでは，看護技術開発で用いられるさまざまな研究方法を実践的に検討するとともに，看護技術開発研究における改善・改革に向けた研究方法上の課題を検討した。授業目標に関連した目標を学生自身が立て，県内1市において実習を実施した。1年生1名が履修した。

村上が24時間，八木が2時間，村上，里光，福田，八木が34時間を担当した。

⑸看護技術開発学特別演習（2年次前期4単位：必須）

28年度は開講していない。

⑹看護技術開発学特別研究（2年次後期6単位：必須）

28年度は開講していない。

３．研究の概要

４．その他

１）村上は，2016年10月に「平成28年度老人福祉施設看護職員研修会」（社会福祉法人　栃木県社会福祉協議会主催）において，講義・演習を4時間担当した。
２）村上，八木は，第36回日本看護科学学会学術集会にて実行委員を務めた。
３）村上は，日本ルーラルナーシング学会第5期評議委員に就任した。
４）村上は，茨城県専任教員養成講習会（茨城県立医療大学）において，「専門領域別看護論演習（成人看護学）」の講義2時間，演習12時間を担当した。
５）八木は，日本看護技術学会広報委員を務めた。
６）八木は，国立大学法人富山大学医学薬学研

究部・University of Hawaii, John A Burns School of Medicine部局間交流協定プログラムに参加した。

7）八木は，日本医療教授システム学会主催ARCS/ISDセミナーのスタッフを務めた。

共通科目

大学院看護学研究科　永井　優子

看護学研究科博士前期課程のカリキュラムでは，高度看護実践力の育成強化を中心に編成し，共通科目と専門科目を置いている。共通科目は，高度実践看護職として機能済めために，看護学領域を超えて共通に必要となる実践，教育，相談，研究，倫理，管理，並びに地域医療に関する学識を習得するために置かれている。配当年次はすべて1年次で，必修科目は「看護管理・政策論」（2単位）のみで，専門看護師教育課程共通科目の「看護管理論」「看護政策論」（各1単位）に相当する。

選択科目は全9科目（各2単位）である。専門看護師を目指す場合は，選択科目として専門看護師教育課程共通科目の「病態生理学特論」「フィジカルアセスメント特論」「臨床薬理学特論」の3科目，加えて「看護実践研究論」「コンサルテーション論」「看護倫理」「看護継続教育論」の3科目以上を選択して，計14単位以上を取得する必要がある。その他の選択科目として「地域調査法」「地域医療論」の2科目がある。

1．必修科目（　）内は科目責任者を示す

【看護管理・政策論】（春山早苗教授）

到達目標は，保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動や管理の組織化の方法，ならびに看護職の資質向上のための制度改革や政策決定に関する看護職の働きかけについて理解することである。保健医療福祉システムのなかで質の高いケアを提供するための高度実践看護職の機能と役割，医療チーム内の調整や関係者間の調整，管理的立場にある看護職との協働，制度改革への高度実践看護職の働きかけについて，担当教員1名と非常勤講師4名で教授した。履修学生数7名（科目等履修生3名を含む）

2．選択科目（　）内は科目責任者を示す

【病態生理学特論】（北田志郎准教授）

到達目標は，日常的によくみられる病態を系統的に理解し，より高度な看護実践に向け，エビデンスに基づいた病態生理学的状態を判断するために必要な知識と技術を習得することである。よく見られる主訴に関する事例演習を交えて担当教員3名と非常勤講師2名で教授した。履修学生数5名（科目等履修生3名を含む）

【フィジカルアセスメント特論】（村上礼子教授）

到達目標は，高度実践看護職として複雑な健康問題をもった対象の身体状況を査定し，臨床判断を行うために必要な知識と技術を修得することである。シミュレーター学習を取り入れ，フィジカルイグザミネーションと複雑な健康問題に対する臨床判断プロセスを磨く技能について担当教員3名と非常勤講師8名で教授した。履修学生数4名（科目等履修生3名を含む）

【臨床薬理学特論】（大塚公一郎教授）

到達目標は，薬剤の人体における作用機序，体内動態，有益な効果と有害な効果，薬剤使用の判断を理解し，投与後の患者のモニタリング，患者の服薬管理など専門看護師に実践について考えられることである。臨床薬理学の基礎知識と看護職による患者の服薬管理の向上を図るための薬剤調整に関する知識と技術を担当教員2名と非常勤講師12名で教授した。履修学生数6名（科目等履修生3名を含む）

【看護実践研究論】（半澤節子教授）

到達目標は，看護分野における研究の発展について理解し，自らの臨床経験を踏まえながら，先行研究におけるエビデンスをさらに発展させた看護研究課題を設定し，適切な研究方法とその展開方法について理解することである。看護研究の発展，研究倫理，研究方法等，研究計画書作成への基礎的知識について担当教員3名で教授した。履修学生数2名

【コンサルテーション論】（永井優子教授）

到達目標は，コンサルテーションに関する理論と倫理的側面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討し，コンサルテーションの実際について理解することである。ロールプレイやコンサルテーション体験に基づいて，高度実践看護職が必要とする技能と役割について担当教員1名と非常勤講師2名で教授した。履修学生数2名

【看護倫理】（小原泉教授）

到達目標は，医療現場における生命倫理の現実的な課題と看護職の倫理的行動，および看護場面での複雑な判断を要する倫理的課題について，関係職種間の調整，提言など看護専門職の立場から果たすべき機能について理解することである。倫理的行動と倫理的責任，倫理的分析と倫理的意思決定，ケアの倫理と生命倫理のパラダイム，倫理教育について担当教員1名と非常勤講師3名で教授した。履修学生数5名（科目等履修生2名を含む）

【看護継続教育論】（本田芳香教授）

到達目標は，看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的な働きかけとして，さまざまな学習形態をとる教育環境づくりの方策，基盤となる教育的かかわりの方策を理解することである。履修学生の所属組織の実際を踏まえて，関連する知識と技術について担当教員3名で教授した。履修学生数5名（科目等履修生2名を含む）

【地域医療論】（北田志郎准教授）

到達目標は，地域に根差した医療や保健を展開する方法を理解することである。地域ニーズのとらえ方，ニーズに即した医療の提供方法，地域の保健医療拓氏施設の有機的な連携，医療資源のアウトソーシングの実際について担当教員2名と非常勤講師3名で教授した。履修学生数5名

【地域調査法】（渡邉亮一教授）

到達目標は，地域における健康問題や健康ニーズを把握するための調査方法，収集した資料やデータの分析方法，結果の読み方などを理解することである。地域において効果的かつ効率的な看護・保健活動やその管理的活動を展開する上に必要な地域の健康問題・健康ニーズを把握するための調査方法を講義と演習をとおして担当教員3名で教授した。履修学生数6名（科目等履修生1名を含む）

博士後期課程
広域実践看護学分野

研究科長　春山　早苗

1．スタッフの紹介

教　授	春山　早苗	教　授	永井　優子
教　授	中村　美鈴	教　授	成田　　伸
教　授	野々山未希子	教　授	半澤　節子
教　授	本田　芳香	教　授	横山　由美
教　授	宮林　幸江	教　授	大塚公一郎
教　授	小原　　泉	教　授	村上　礼子
教　授	渡邉　亮一	准教授	角川　志穂
准教授	塚本　友栄	講　師	飯塚　秀樹

2．教育の概要

博士後期課程の学生は，1年生2名，2年生2名，3年生3名（3年目1名，4年目2名）で，6名が長期在学制度を利用している。

博士後期課程では，ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で，看護に関する問題の全体像と本質を捉え探究し，看護学を発展させることのできる教育研究者の育成を目指した教育活動をしている。今年度の専門科目の開講科目は「広域実践看護学特論Ⅰ」(2単位，必修)，「広域実践看護学特論Ⅱ」(2単位，選択)，「広域実践看護学演習」(2単位，必修)，「広域実践看護学特別研究」(6単位，必修，1～3年次）であった。専門関連科目の開講科目は「異文化精神医療論」(2単位，選択）であった。

【広域実践看護学特論Ⅰ（ヘルスケアシステム研究法）春山・成田担当】

本科目では，講義やプレゼンテーション，討議をとおして，看護ケアやヘルスケアシステムを効果・効率的に提供するためのヘルスケアシステム及び看護提供システムの構築・マネジメント，施策・政策化に関わる看護実践の開発に関する研究方法を探究する。1年生2名及び科目等履修生2名が履修した。

【広域実践看護学特論Ⅱ（クリニカルケア研究法）中村・横山担当】

本科目では，講義やプレゼンテーション，討議をとおして，看護現象の客観的な分析と分析結果を探究する研究方法論および方法について批判的に吟味し，クリニカルケアにおける新たな看護実践を創出するための研究方法を探求する。1年生2名が履修した。

【広域実践看護学演習】

本科目では，先行研究の知見の総括・評価を行い，その成果から研究課題を焦点化し，研究計画に反映できる学修となることを目指す。

システムに関するテーマについては，1年生1名が＜ヘルスケアシステム＞（春山・本田担当）を，1名が＜看護教育・看護管理＞（成田・塚本担当）を，看護ケアに関するテーマについては，1年生2名が＜クリニカルケア＞（中村・小原担当）を選択した。

【広域実践看護学特別研究】

研究指導教員を表に示す。

博士前期課程・博士後期課程合同研究セミナーは5月，9月，11月，1月に開催した。博士後期課程の学生は，セミナーで毎回，特に，11月，1月は【広域実践看護学演習】の結果も踏まえてプレゼンテーションを行い，研究課題の設定，研究対象の明確化，研究方法の検討等について，研究指導教員以外の教員にも助言を得たり，博士前期課程の学生とも討議したりできる機会とした。

表　研究指導教員

学年	学生	主研究指導教員	副研究指導教員
1	A	横山	大塚・春山
	B	中村	小原・成田
2	A	春山	大塚・半澤
	B	中村	春山・横山
	C	成田	永井・本田
3	A	中村	永井・本田
3 4年目	A	永井	春山・本田
	B	成田	半澤・本田

【異文化精神医療論　大塚・飯塚担当】

本科目では，講義や演習を通して，異文化精神医療に関する研究構想へ繋げるための基本的知識，精神医学的視点からみた異文化メンタルヘルス研究を教授した。さらに，人文・社会科学などの隣接科学における最近の異文化研究の知見や異文化コミュニケーションにおける言語の役割についても学修した。1年生1名が履修した。

研究業績録

注　1）掲載対象は2016年1月1日から同年12月31日までである。
　　2）ゴシック体の人名は対象年に本学に所属していた者である。

看護基礎科学

⑴　論文

１）**大塚公一郎**：病いのレジリアンスの経験から文化を考える．こころと文化15：6-12，2016.

⑵　学会発表

１）**大塚公一郎**：多文化間精神医学の外延の時代的変容－日本に居住する移住者や難民支援の過去・現在と未来－．シンポジウム62 グローバル化する世界をよむ－多文化間精神医学の広がりと深まり－．第112回精神神経学会，千葉市美浜区幕張．2016年7月4日．（総会抄録集；598，2016）

２）**大塚公一郎**：統合失調症とうわさ話．第39回日本精神病理学会，浜松市，2016年10月7日．（学会プログラム・抄録集；54，2016）

３）**北田志郎**：在宅医療を主とした内科診療所における精神疾患発症頻度と精神科医の関与．第35回日本社会精神医学会，シンポジウム「地域における一般科医療と精神科医療」，岡山，2016年1月29日．（第35回日本社会精神医学会プログラム・抄録集p52，2016）

４）**北田志郎**：在宅エンド・オブ・ライフケアを精神科サービスモデルに位置づける～「GP－精神科医－多職種訪問チームモデル」とその展開．第23回多文化間精神医学会学術総会，シンポジウム「高齢者の医療におけるターミナルケア」，宇都宮，2016年10月1日．（第23回多文化間精神医学会学術総会プログラム・抄録集p62，2016）

５）Atsushi Hirao, Koya Sasaki, Shoei Sugita：Presence of proliferating cell nuclear antigen（PCNA）positive cell clusters in the uropygial gland of the jungle crow *Corvus macrorhynchos* 17 th Asia Austria Animal Production Fukuoka 2016 Aug 23th

６）**平尾温司**，佐々木航弥，青山真人，杉田昭栄：ハシブトガラスCorvus macrorhynchosの尾腺で観察された増殖性細胞集団について．第159回日本獣医学会学術集会．藤沢．2016年9月

７）林　美沙，**平尾温司**，杉田昭栄：ハシブトガラス（Corvus macrorhynchos）の嘴における三叉神経枝の分布．第159回日本獣医学会学術集会．藤沢．2016年9月

８）林　美沙，**平尾温司**，青山真人，杉田昭栄：ハシブトガラスの嘴における神経走行および感覚機能の解明　日本鳥学会　北海道　2016年9月17日

９）川上　勝，鈴木美津江，三科志穂，清水みどり，福田順子，田村敦子，**平尾温司**，村上礼子，春山早苗：プラットフォーム型シミュレータに関する研究－瘻孔管理研修に用いて－第4回日本シミュレーション医療教育学会

⑶　著書・総説

１）**大塚公一郎**，加藤　敏：レジリアンスの概念．991－992．今日の精神疾患治療方針．第2版（樋口輝彦，市川宏伸，神庭重信，朝田　隆，中込和幸編集）医学書院　2016.

２）**渡邉亮一**：病院概論．「ホスピタルエンジニア認定のための講習会テキスト（第5版）」所収．pp.1-4，一般社団法人日本医療福祉設備協会，2016.

３）岡本悦司，小橋　元，坂田清美，佐藤敏彦，西浦　博，横山英世，岡田充史，尾島俊之，亀崎豊実，高橋美保子，富田敦子，山本秀樹，**渡邉亮一**：サブノートF第40版　保健医療論・公衆衛生学（2017年版）．Medic Media，2016.

４）**渡邉亮一**：医療専門職の責務．「医療情報（第5版）医学・医療編」所収．pp.45-50，篠原出版新社，2016.

５）**Kitada, S.**：Delirium. In:Textbook of Home Care Medicine Editorial Board（Eds）：Textbook of Home Care Medicine. The Yuumi Memorial Foundation for Home Health Care, Tokyo, p127-29, 2016（北田志郎：せん妄．在宅医療テキスト編集委員会編：在宅医療テキスト．公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団，東京，p.90-91，2015．の英訳）

６）**Kitada, S.**：Complementary and Alternative Medicine（CAM）. In:Textbook of Home Care Medicine Editorial Board（Eds）：Textbook of Home Care Medicine. The Yuumi Memorial Foundation for Home Health Care, Tokyo, p161-63, 2016（北田志郎：補完代替医療（CAM）．在宅医療テキスト編集委員会編：在宅医療テキスト．公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団，東京，p.114-15，2015．の英訳）

７）**Kitada, S.**：Home Medical Care of Mental Disorders. In:Textbook of Home Care Medicine Editorial Board（Eds）：Textbook of Home Care

Medicine. The Yuumi Memorial Foundation for Home Health Care, Tokyo, p198-202, 2016（北田志郎：精神疾患の在宅医療．在宅医療テキスト編集委員会編：在宅医療テキスト．公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団，東京，p.142-45, 2015．の英訳）

８）**北田志郎**，川越正平：GP－精神科医－多職種訪問チームモデル～在宅医療専門医のレシピ～．井階友貴編：もっと踏み込む認知症ケア．Gノート，3（増刊）：1144-46, 2016.

⑷　その他

１）**大塚公一郎**：書評『人はみな妄想する―ジャック・ラカンと鑑別診断の思想』．こころと文化15（1）：88, 2015.

２）**北田志郎**：在宅療養と悲嘆－看取りについて－．日本グリーフケア協会第13回日本グリーフケア・アドバイザー1級認定講座ランチョンセミナー，東京，2016年3月22日

３）**北田志郎**：在宅・介護領域で役立つ漢方治療．第70回会津漢方研究会，会津若松，2016年10月13日

４）**北田志郎**：在宅医療における精神科医の役割－隠れたニーズを掘り起こす－．第2回精神生理研究会，前橋，2016年12月3日

５）**北田志郎**：抑肝散とその仲間を使いこなす～子どもからお年寄りまで～．松戸漢方研究会，松戸，2016年1月22日

基礎看護学

⑴　論文

１）佐藤香奈，**本田芳香**，**小原　泉**：終末期の若年性がん患者に対する緩和ケア病棟看護師のケアリング，日本がん看護学会誌，30 (3)；40-46, 2016.

⑵　学会発表

１）横山由美，村上礼子，川上　勝，**里光やよい**，**福田順子**，**本田芳香**，春山早苗：へき地を含む地域で働く看護師のための地域ケアスキル・トレーニングプログラムの評価，日本地域看護学会，栃木，2016年8月26日.（日本地域看護学会第19回学術集会講演集；86，2016）

２）村上礼子，川上　勝，**里光やよい**，**福田順子**，横山由美，**本田芳香**，春山早苗：へき地を含む地域で働く看護師のための地域ケアスキル・トレーニングプログラムの検討，日本地域看護学会，栃木，2016年8月26日.（日本地域看護学会第19回学術集会講演集；85，2016）

３）弘田智香，**福田順子**，浜端賢次，大澤弘子，塩﨑純子，亀田美智子，中山鈴子，渡辺道子，大海佳子，小谷妙子：10か月間で3病棟をローテーションする新人看護師への効果的な支援の在り方，日本看護学会－看護管理－，石川，2016年9月27日.（第47回日本看護学会－看護管理－学術集会抄録集；178，2016）

４）**里光やよい**：模擬患者を用いた看護技術習得に関する研究．第81回民族衛生学会，東京．2016年11月26日，27日.（学会民族衛生（Vol.82）；152-153,（2016））

５）**里光やよい**，本田芳香，浜端賢次，清水みどり，湯山美杉，岡野朋子，大澤弘子：模擬患者を用いたアセスメント演習に参加した地域で活動する看護師の自己評価．日本ルーラルナーシング学会第11回学術集会，山梨．2016年9月3日.（日本ルーラルナーシング学会第11回学術集会抄録集；34，2016）

６）**飯塚由美子**，岩永麻衣子，樋山伸子，小室るみ，境野博子，渡辺芳江，竹野井さとみ，中塚麻美，**小原　泉**，**本田芳香**：終末期がん患者とその家族の意思決定支援に関するスキルアッププログラムの検討，第30回日本がん看護学会学術集会，千葉，2016年2月21日.（第30回日本がん看護学会学術集会抄録集；277，2016）

７）小島好子，**本田芳香**：実践アプローチから捉えたMSWの「行動規範」の検証－身体・精神合併疾患を抱えた診察・治療拒否の事例－．日本医療社会福祉学会学術集会，京都，2016年9月4日.（第26回日本医療社会福祉学会大会学術集会抄録集，26；48～49，2016.）

⑶　著書・総説

１）**本田芳香**：マインドマップを活用した看護過程演習の展開方法，看護人材育成6.7号；41-47, 2016

２）**小原　泉**：臨床試験・治験の動向と臨床看護師に求められる役割－十分な被験者ケアと試験データの質の担保－，看護管理，6 (5)；402-406, 2016.

３）**小原　泉**：臨床研究専門職に対する教育の現状と課題，薬理と臨床，44 (4)；501-504, 2016.

４）**小原　泉**（翻訳）：臨床研究看護：新しい実践領域，NIH臨床研究の基本 原書3版（井村裕夫監修），丸善出版；719-733 2016.

５）古橋洋子，今野葉月，**里光やよい**：看護診断を導く情報収集・アセスメント第5版；62-103, 162-172，2016.

⑷　その他

１）小原　泉：CRCが試験実施計画書の作成や審査に関わる意義とその実際．シンポジウム「実施だけではない，CRCができるクオリティへの貢献」，CRCと臨床試験のあり方を考える会議 in 大宮（2016年9月19日）.（第16回CRCと臨腫試験のあり方を考える会議2016 in 大宮 プログラム・抄録集　75, 2016）

２）**湯山美杉**，**本田芳香**，**小原　泉**，**里光やよい**，**福田順子**，**飯塚由美子**，中塚麻美，浜端賢次，野沢博子，亀田美智子，高久美子，安藤恵：対人関係スキル習得ための模擬患者導入による学習の有効性に関する研究，自治医科大学看護学ジャーナル，14巻；p44, 2016.

３）成田　伸，大塚公一郎，中村美鈴，横山由美，里光やよい，鈴木久美子，角川志穂，塚本友栄，浜端賢次，田村敦子，長谷川直人，平尾温司，**福田順子**：学生の学習状況・学習環境状況調査，自治医科大学看護学ジャーナル，13巻；p34, 2016.

４）春山早苗，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀崎豊実，波多野浩道，本多正幸，**本田芳香**，村上礼子：就労継続支援型の看護師の特定行為研修の実施にあたっての手引き，平成27年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」，2016.

５）春山早苗，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀崎豊実，波多野浩道，本多正幸，**本田芳香**，村上礼子：特定行為研修のICTを活用した教育例集，平成27年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「診療補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」，2016.

地域看護学

⑴　論文

１）大湾明美，石垣和子，山崎不二子，**春山早苗**，北村久美子，野口美和子：島しょ看護学教育内容の体系化に関する研究．日本ルーラルナーシング学会誌，11；61-72，2016.

２）舟迫　香，**春山早苗**：潜在性結核感染症の治療を受ける患者の体験．日本公衆衛生看護学会誌，5（3）；210-218，2016.

３）**春山早苗**：地域特性に応じた看護のマネジメントとリーダーシップ．日本地域看護学会誌，19（3）；79-87，2016.

４）**塚本友栄**，赤羽由妙，飯野直子，人見優子，谷田部佳代弥，齋藤由利子，宮崎照子，王麗華，福島道子，馬込公子，河野順子：自施設課題解決に向けたアクションプラン作成を組み込んだ退院支援研修会　成果とその要因の検討．日本看護学会論文集:看護管理，46；127-130，2016.

⑵　学会発表

１）**Shimada H, Sekiyama T, Tsukamoto T, Suzuki K, Haruyama S**: Health support activities for evacuee groups of the Great East Japan Earthquake. The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing, Seoul, KR. 2nd July 2016.（Future Directions: Disaster Preparedness and Nursing: Programme Book;75, 2016）

２）市川定子，**春山早苗**：地域ケアネットワーク構築後のネットワーク事業の進行管理における保健所保健師の活動．第4回日本公衆衛生看護学会学術集会，東京．2016年1月23日.（第4回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集；109，2016）

３）鈴木美津枝，村上礼子，**関山友子，江角伸吾**，川上　勝，飯塚秀樹，石井慎一郎，淺田義和，**春山早苗**：ICTを活用した遠隔教育の推進に向けた教育方法の検討－特定行為に係る看護師の研修制度の受講生の思いに注目して－．日本ルーラルナーシング学会第11回学術集会，中央（山梨）．2016年9月3日.（日本ルーラルナーシング学会第11回学術集会抄録集；29，2016）

４）宮﨑美砂子，奥田博子，**春山早苗**，上林美保子，安齋由貴子，高瀬佳苗，丸谷美紀，金谷泰宏，井口紗織：大規模災害時の地域保健活動拠点における支援人材活用等のマネジメント評価指標の検討．第75回日本公衆衛生学会総会，大阪．2016年10月26日.（第75回日本公衆衛生学会総会抄録集63（10）；579，2016）

５）森本典子，久佐賀眞理，福島富士子，平野かよ子，藤井広美，石川貴美子，山口佳子，**春山早苗**，小西かおる，大神あゆみ，尾島俊之，濱田由香里，稗圃砂千子：保健活動を評価する評価指標の標準化の検証　その１：母子保健活動．第75回日本公衆衛生学会総会，大阪．2016年10月28日.（第75回日本公衆衛生学会総会抄録集63（10）；672，2016）

６）藤井広美，石川貴美子，大神あゆみ，尾島俊之，久佐賀眞理，小西かおる，**春山早苗**，平野かよ子，福島富士子，森本典子，山口佳子：保健活動を評価する評価指標の標準化の検証　その２：健康づくり活動．第75回日本公衆衛生学会総会，大阪．2016年10月28日.（第75回日本公衆衛生学会総会抄録集63（10）；672，2016）

７）石川貴美子，大神あゆみ，尾島俊之，久佐賀眞理，小西かおる，**春山早苗**，平野かよ子，福島富士子，藤井広美，森本典子，山口佳子：保健活動を評価する評価指標の標準化の検証　その３：高齢者保健福祉活動．第75回日本公衆衛生学会総会，大阪．2016年10月28日.（第75回日本公衆衛生学会総会抄録集63（10）；673，2016）

８）山口佳子，石川貴美子，大神あゆみ，尾島俊之，小西かおる，**春山早苗**，藤井広美，久佐賀眞理，平野かよ子：保健活動を評価する評価指標の標準化の検証　その４：精神保健福祉活動．第75回日本公衆衛生学会総会，大阪．2016年10月28日.（第75回日本公衆衛生学会総会抄録集63（10）；673，2016）

９）**春山早苗**，石川貴美子，大神あゆみ，尾島俊之，久佐賀眞理，小西かおる，平野かよ子，福島富士子，藤井広美，森本典子，山口佳子：保健活動を評価する評価指標の標準化の検証　その５：感染症対策．第75回日本公衆衛生学会総会，大阪．2016年10月28日.（第75回日本公衆衛生学会総会抄録集63（10）；673，2016）

10）小西かおる，石川貴美子，大神あゆみ，久佐賀眞理，**春山早苗**，福島富士子，藤井広美，山口佳子，尾島俊之，平野かよ子：保健活動を評価する評価指標の標準化の検証　その６：難病保健活動．第75回日本公衆衛生学会総会，大阪．2016年

10月28日.（第75回日本公衆衛生学会総会抄録集63（10）；673，2016）
11）大神あゆみ，石川貴美子，尾島俊之，小西かおる，**春山早苗**，藤井広美，福島富士子，，山口佳子，久佐賀眞理，森本典子，平野かよ子：保健活動を評価する評価指標の標準化の検証　その７：産業保健活動．第75回日本公衆衛生学会総会，大阪．2016年10月28日.（第75回日本公衆衛生学会総会抄録集63（10）；674，2016）
12）村上礼子，川上　勝，里光やよい，福田順子，横山由美，本田芳香，**春山早苗**：へき地を含む地域で働く看護師のための地域ケアスキル・トレーニングプログラムの検討．日本地域看護学会第19回学術集会，下野（栃木）．2016年8月26日.（日本地域看護学会第19回学術集会講演集；85，2016）
13）横山由美，村上礼子，川上　勝，里光やよい，福田順子，本田芳香，**春山早苗**：へき地を含む地域で働く看護師のための地域ケアスキル・トレーニングプログラムの評価．日本地域看護学会第19回学術集会，下野（栃木）．2016年8月26日.（日本地域看護学会第19回学術集会講演集；86，2016）
14）市川定子，**春山早苗**：神経難病患者療養ネットワーク構築後の保健師活動のあり方．日本地域看護学会第19回学術集会，下野（栃木）．2016年8月27日.（日本地域看護学会第19回学術集会講演集；127，2016）
15）**青木さぎ里，鈴木久美子，塚本友栄，島田裕子，関山友子，春山早苗**：小規模町村での新任期保健師現任教育における事務職上司の役割認識．日本地域看護学会第19回学術集会，下野（栃木）．2016年8月27日.（日本地域看護学会第19回学術集会講演集；131，2016）
16）山縣千開，**春山早苗**：虐待ハイリスクケース対応における市町村児童福祉部署保健師の活動方法～一事例の分析から～．日本地域看護学会第19回学術集会，下野（栃木）．2016年8月27日.（日本地域看護学会第19回学術集会講演集；142，2016）

⑶　著書・総説
１）**鈴木久美子**：第1章　公衆衛生看護学概論　第Ⅱ節　公衆衛生看護の歴史　第1項　保健婦規則制定以前の地域における看護活動．最新公衆衛生看護学　第２版　2016年版　総論（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京），24-31，2016.
２）**春山早苗**：第1章　公衆衛生看護学概論　第Ⅱ節　公衆衛生看護の歴史　第2項　保健婦規則制定以後の保健婦活動　第3項　ヘルスニーズに対応した保健婦活動の確立．最新公衆衛生看護学　第２版　2016年版　総論（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京），31-70，2016.
３）**春山早苗**，平山朝子：第1章　公衆衛生看護学概論　第Ⅲ節　ヘルスケアシステムの中で機能する看護．第3章　公衆衛生看護活動の展開方法論　第Ⅳ節　地域ケア体制づくり　第1項～第3項の1．最新公衆衛生看護学　第２版　2016年版　総論（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京），73-104，299-325，2016.
４）**春山早苗**：第2章　健康課題の特性に応じた活動論　第Ⅳ節　感染症保健福祉活動　第1項～第5項．最新公衆衛生看護学　第２版　2016年版　各論１（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京），264-306，2016.
５）**春山早苗**：第2章　地域特性に応じた活動論　第Ⅰ節　へき地における公衆衛生看護活動　第1項　へき地における公衆衛生看護活動．最新公衆衛生看護学　第２版　2016年版　各論2（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京），150-164，2016.
６）塩ノ谷朱美，**春山早苗**：第2章　地域特性に応じた活動論　第Ⅰ節　へき地における公衆衛生看護活動　第3項　山村・豪雪地帯における公衆衛生看護活動．最新公衆衛生看護学　第２版　2016年版　各論2（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京），185-193，2016.
７）**青木さぎ里**：第2章　地域特性に応じた活動論　第Ⅰ節　へき地における公衆衛生看護活動　第2項　離島における公衆衛生看護活動　４）離島における保健師活動の実際：小規模離島村における活動．最新公衆衛生看護学　第２版　2016年版　各論2（宮﨑美砂子，北山三津子，春山早

苗，田村須賀子　編集）．日本看護協会出版会（東京），175-184，2016.

⑷　その他

１）梶井英治，前田隆浩，谷憲治，井口清太郎，今道英秋，澤田努，森田喜起，中澤勇一，角町正勝，**春山早苗**，瀬川正昭，神田健史，古城隆雄，中村剛史，原田昌範：都道府県へき地保健医療計画の検証ならびに次期策定支援に関する研究．厚生労働科学研究費補助金　地域医療基盤開発推進研究事業　平成27年度　総括研究報告書，全273ページ，2016.

２）梶井英治，前田隆浩，谷憲治，井口清太郎，今道英秋，澤田努，森田喜起，中澤勇一，角町正勝，**春山早苗**，瀬川正昭，神田健史，古城隆雄，中村剛史，原田昌範：都道府県へき地保健医療計画の検証ならびに次期策定支援に関する研究．厚生労働科学研究費補助金　地域医療基盤開発推進研究事業　平成26年度～平成27年度　総合研究報告書，全313ページ，2016.

３）**春山早苗**：感染症対策分野の評価指標の検証．厚生労働科学研究費補助金　政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）「保健師による保健活動の評価指標の検証に関する研究」総括・分担研究報告書，53-63，109-118，2016.

４）平野かよ子，久佐賀眞理，藤井広美，山口佳子，**春山早苗**，小西かおる，大神あゆみ，福島富士子，尾島俊之：保健師による保健活動の評価指標の検証に関する研究．厚生労働科学研究費補助金　政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）　平成25年度～平成27年度　総合研究報告書，全617ページ，2016.

５）**春山早苗**，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀﨑豊実，波多野浩道，本多正幸，本田芳香，村上礼子，飯塚由美子，**江角伸吾**：診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究．厚生労働科学研究費補助金　地域医療基盤開発推進研究事業　平成26年度～平成27年度　総合研究報告書，全179ページ，2016.

６）**春山早苗**，淺田義和，阿部幸恵，大湾明美，亀﨑豊実，波多野浩道，本多正幸，本田芳香，村上礼子，飯塚由美子，**江角伸吾**：診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究．厚生労働科学研究費補助金　地域医療基盤開発推進研究事業　平成27年度　総括研究報告書，全202ページ，2016.

７）宮﨑美砂子，奥田博子，**春山早苗**，上林美保子，安齋由貴子，高瀬佳苗，丸谷美紀，金谷泰宏，土屋厚子，丸山佳子，井口紗織，鈴木友子：大規模災害復興期等における地域保健活動拠点のマネジメント機能促進のための評価指標ツールの開発に関する研究．厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）平成27年度　総括・分担研究報告書，全113ページ，2016.

８）**春山早苗**：日本におけるへき地看護の実践と教育．日本ルーラルナーシング学会誌，11；89，2016.

９）**青木さぎ里，春山早苗，鈴木久美子，塚本友栄，島田裕子，関山友子，江角伸吾**，金子敬子：町村保健師への新任期現任教育における保健所保健師の役割．自治医科大学看護学ジャーナル　看護学部教員共同研究報告，13；27，2016.

10）**江角伸吾**，渡邊紀子，菅野一枝，**関山友子**：卒後2年目研修のあり方のための基礎的研究．自治医科大学看護学ジャーナル　看護学部教員共同研究報告，13；32，2016.

11）**春山早苗**，大柴幸子，前原多鶴子，戸田昌子：特定機能病院における入院高齢者の退院・在宅療養支援の実施状況の評価－電子カルテデータを用いた退院調整加算評価前後の比較－．自治医科大学看護学ジャーナル　看護学部教員共同研究報告，13；33，2016.

12）**春山早苗**：地域特性に応じた看護のマネジメントとリーダーシップ．日本地域看護学会第19回学術集会長講演，下野（栃木）．2016年8月26日．（日本地域看護学会第19回学術集会講演集，32，2016）

13）安斎由貴子，上野まり，牛尾裕子，奥田博子，澤井美奈子，**島田裕子，春山早苗**：地域看護職の災害に関わるマネジメント力及びコーディネート力を高める教育方法．日本地域看護学会第19回学術集会ワークショップ5，下野（栃木）．2016年8月27日．（日本地域看護学会第19回学術集会講演集，65，2016）

14）平野かよ子，久佐賀眞理，藤井広美，石川貴美子，山口佳子，**春山早苗**，小西かおる，大神あゆみ，森本典子：保健師による保健活動の評価～標準化した評価指標を用いて～．日本地域看護学会第19回学術集会ワークショップ3，下野（栃

木）．2016年8月26日．（日本地域看護学会第19回学術集会講演集，63，2016）

15）**青木さぎ里**，内山紋己，倉増比菜子，五藤幸根，櫻井純子，羽山悟未，美濃羽冴子：へき地の保健師の集い～へき地の保健師が「保健師として成長している」と実感できるようにするには～．日本地域看護学会第19回学術集会自由集会2，下野（栃木）．2016年8月26日．（日本地域看護学会第19回学術集会講演集，70，2016）

16）**春山早苗**，村上礼子：看護師特定行為研修の実際と地域医療における研修修了者への期待．第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会特別企画2，東京．2016年6月11日．（第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会プログラム・抄録集，183，2016）

17）荒木田美香子，安齋由貴子，池戸啓子，大谷喜美江，高橋佐和子，**春山早苗**，矢島陽子：公衆衛生看護学の体系化をめざして－学術実践開発委員会－．第4回日本公衆衛生看護学会学術集会ワークショップ10，東京．2016年1月24日．（第4回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集，303，2016）

18）**青木さぎ里**：離島新任期保健師の成長につながる経験．第81回臨床実践の現象学研究会，大阪．2016年7月9日．

精神看護学

⑴　論文

１）Ishii Shinichiro, Setoyama Miwa, Kuranari Yumi, Ookawachi Tetsuji, and Nakashima Fuyuko: Study on Involvement with others of nursing students in Vocational school - Involvement with faculty are promoted the reflection of students-. International Journal of Biomedical Soft Computing and Human Sciences, 20（2）; 7-14, 2016.

２）板橋直人，**石井慎一郎**，菊地　淳，中野博子：精神科看護師の患者に示す感情のあり方と仕事への充実感への関連－看護師の感情労働とワーク・エンゲイジメントに着目して－．看護教育研究学会誌, 8（1）; 15-22, 2016.

⑵　学会発表

１）長谷川高志，本多正幸，中島直樹，森田浩之，**永井優子**，齋藤勇一郎，郡　隆之，野口貴史，酒巻哲夫：遠隔診療の臨床研究デザインの研究 第20回日本遠隔医療学会学術大会in 米子2016，鳥取，2016年10月16日（抄録集）

２）小池　治，稲本淳子，小池純子，池田朋広，常岡俊昭，加藤邦彦，黒田　治，**半澤節子**，中谷陽二：触法精神障害者家族に対する効果的な支援の検討　医療観察法患者家族と措置入院患者家族の比較から，社会精神医学会学術集会，岡山，2016年1月28日

３）**石井慎一郎**，板橋直人：看護職の他者からの支援に関する研究．第6回日本看護評価学会学術集会，東京．2016年3月5日.（第6回日本看護評価学会学術集会プログラム集・講演集; 29, 2016）

４）**石井慎一郎**，板橋直人：精神科看護師の他者とのかかわりに関する研究 －年齢及び臨床経験年数とかかわり先との関連－．第６回日本看護評価学会学術集会，東京．2016年3月5日.（第6回日本看護評価学会学術集会プログラム集・講演集; 30, 2016）

５）**石井慎一郎**，中島富有子：精神科看護職の他者とのかかわりに関する研究－他者からの支援の内容の検討．第20回一般社団法人日本看護研究学会海地方会学術集会，神奈川．2016年3月19日.（第20回一般社団法人日本看護研究学会東海地方会学術集会抄録集; 55, 2016）

６）**石井慎一郎**，川野　豊，森　直美，杉田百合子，平尾光史，須田幸治，片山砂織，重富　勇，倉成由美，中島富有子：看護職の身体的拘束の見込みに関する研究．第11回日本統合失調症学会，群馬. 2016年3月26日.（第11回日本統合失調症学会プログラム・抄録集; 147, 2016）

７）**石井慎一郎**，川野　豊，森　直美，杉田百合子，平尾光史，須田幸治，片山砂織，倉成由美，重富勇，中島富有子：20代精神科看護職の感情と身体的拘束の見込みに関する研究－統合失調症のヴィネットを用いて－．第11回日本統合失調症学会，群馬. 2016年3月26日.（第11回日本統合失調症学会プログラム・抄録集; 148, 2016）

８）**石井慎一郎**，瀬戸山美和，倉成由美，中島富有子，大川内鉄二: 看護学生の統合失調症に対する社会的距離．第11回日本統合失調症学会，群馬 2016年3月26日.（第11回日本統合失調症学会プログラム・抄録集; 149, 2016）

９）荒川　麗，中島富有子，倉成由美，應戸麻美，**石井慎一郎**，阿部亜紀子，本多京子：精神科看護師の社会的スキルの習熟状況と看護の意識との関連．第41回日本精神科看護学術集会，岩手．2016年6月10日.（第41回日本精神科看護学術集会プログラム・抄録集；90，2016）

10）**石井慎一郎**：看護学生のEmotional Skills & Competence の実態調査．日本感情心理学会第24回年次学術大会，茨城．2016年6月18日.（日本感情心理学会第24回年次学術大会プログラム集 24（supplement）; 43, 2016）

11）**石井慎一郎**，板橋直人：精神科看護師の他者とのかかわりとエンパワメントに関する研究．日本精神保健看護学会第26回学術集会・総会，滋賀. 2016年7月2日.（日本精神保健看護学会プログラム・抄録集; 55, 2016）

12）鈴木美津枝，村上礼子，関山友子，江角伸吾，川上　勝，**石井慎一郎**，淺田義和，春山早苗：ICTを活用した遠隔教育の推進に向けた教育方法の検討 －特定行為に係る看護師の研修制度の受講生の思いに注目し－．日本ルーラルナーシング学会第11回学術集会，山梨．2016年9月3日.（日本ルーラルナーシング学会第11回学術集会抄録集; 29, 2016）

13）荒川　麗，中島富有子，倉成由美，應戸麻美，**石井慎一郎**，阿部亜紀子，本多京子：精神科看護職の社会的スキルと看護の意識．日本精神科

看護協会佐賀県支部平成28年度看護研究発表，佐賀.2016年10月3日.（日本精神科看護協会佐賀県支部平成28年度看護研究発表; ページ数印字なし・4頁，2016）

14）板橋直人，**石井慎一郎**，菊池　淳，中野博子：精神科看護師の仕事への充実感に及ぼす影響の検討．第10回看護教育研究学会学術集会，東京．2016年10月15日.（第10回看護教育研究学会学術集会抄録集; 8-9, 2016）

15）山下大樹，倉成由美，中島富有子，應戸麻美，荒川　麗，**石井慎一郎**，米倉智子，本多京子，小松和也：精神科看護職の自己表出及び他者意識．第23回日本精神科看護専門学術集会，新潟．2016年11月26日.（第23回日本精神科看護専門学術集会抄録集; 69，2016）

16）**石井慎一郎**，湯山美杉，路川達阿起，瀬戸山美和，大川内鉄二：看護学生の情緒的コンピテンスと他者とのかかわりに関する研究．日本情動学会第6回大会，兵庫．2016年12月10日.（日本情動学会第6回大会プログラム集; 34, 2016）

⑶　著書・総説

１）**半澤節子**（共編者）：序章　精神保健とはなに．精神看護学　精神保健　第4版，医歯薬出版株式会社 2016.

２）**半澤節子**（分担執筆）：第7章　精神障害をもつ人の地域における生活への支援，地域精神保健福祉と社会参加.岩崎弥生・渡邉博幸（編集）：新体系看護学全書　精神看護学２精神障害をもつ人の看護；368-372，メヂカルフレンド，2016.

３）**石井慎一郎**（分担執筆）：事例で学ぶ　身体疾患を合併している患者への看護Ｂ　肺炎．岩崎弥生・渡邉博幸（編集）：新体系看護学全書　精神看護学２精神障害をもつ人の看護；368-372，メヂカルフレンド，2016.

４）**石井慎一郎**（分担執筆）：事例で学ぶ　身体疾患を合併している患者への看護Ｃ　骨折．岩崎弥生・渡邉博幸（編集）：新体系看護学全書　精神看護学２精神障害をもつ人の看護；373-379，メヂカルフレンド，2016.

５）**石井慎一郎**（分担執筆）：統合失調症．中村美鈴（監修）：プチナース2016年10月号（別冊付録　疾患別病態関連図+観察ポイントとケアpart1）；42-47，照林社，2016.

⑷　資料

１）中島富有子，倉成由美，**石井慎一郎**，應戸麻美：外部講師による「精神科看護師のリーダー育成」の効果と課題．日本健康医学会雑誌，25（1）; 47-51, 2016.

⑸　その他

１）**石井慎一郎**，松島久美子：看護職の感情と省察に関する研究．自治医科大学看護学ジャーナル，14；84，2016.

２）山下大樹，倉成由美，中島富有子，應戸麻美，荒川　麗，**石井慎一郎**：精神科看護職の自己表出および他者意識．日本精神科看護学術集会誌，59（2）；143-146，2016.

３）千葉理恵，**永井優子**，岩沢秀治，鈴木恵子：地域で生活する精神疾患をもつ人々を対象とした，ベネフィット・ファインディングの関連要因の検討，自治医科大学看護学ジャーナル，14；39，2017.

母性看護学

⑴　論文

１）西岡啓子，**成田　伸**：子育てをしながら不妊治療を受ける女性の体験．日本母性看護学会誌，16 (1)；17-26, 2016.

２）**角川志穂**：初孫を育てる中で祖父母が抱く孫の両親との役割関係の葛藤の実態，母性衛生，56（4）, 531-538, 2016.

３）**成田　伸**，篠原有美子，**望月明見**，鈴江理恵，荒川さゆり，鈴木仁子，植木麻美，**角川志穂**，**野々山未希子**：支援者側からみた栃木県内における母乳育児の実態の10年後調査－開業助産師を中心とした分析結果から－．栃木母性衛生，42；5-8, 2016.

⑵　学会発表

１）K.Yamada，Y.Kawaguchi，K.Sasano，H.Mtsui, R.Kudo, Y.Kojima, K.Tachiki, M.Ohira, M.Matsubara, **S.Narita**：Fact-finding survey on support for pregnant/puerperal women with gestational diabetes and their neonates in perinatal care centers:A questionnaire survey for diabetes specialists and perinatal care center obstetricians/physicians. 19th East Asian Forum of Nursing Scolors in Chiba（千葉市），2016年3月15日.

２）K.Yamada，Y.Kawaguchi，H.Mtsui, K.Sasano, R.Kudo, Y.Kojima, K.Tachiki, M.Ohira, M.Matsubara, **S.Narita**：Fact-finding survey on support for pregnant/puerperal women with gestational diabetes and their neonates in perinatal care centers:A questionnaire survey for nurses in perinatal care center. 19th East Asian Forum of Nursing Scolors in Chiba（千葉市），2016年3月15日.

３）佐藤ひさ代，**成田　伸**：初めて妊娠糖尿病と診断された妊婦の自己管理上の課題と助産師の支援の検討．第18回日本母性看護学会学術集会（久留米），2016年6月18日.

４）小林由美，**成田　伸**：新助産外来立ち上げにおける調整機能の検討－リスクのある妊婦に対象を拡大して－．第18回日本母性看護学会学術集会（久留米），2016年6月18日.

５）北川良子，**成田　伸**：助産師の職業生活の変化と変化に影響する要因．第18回日本母性看護学会学術集会（久留米），2016年6月16日.

６）北川良子，**成田　伸**：出産子育てによる退職後ブランクを経て職業生活を再開した助産師の体験．第41回栃木県母性衛生学会学術集会（宇都宮），2016年6月25日.

７）小林由美，**成田　伸**：A病院における助産外来対象者拡大による受診妊婦状況の変化．第57回日本母性衛生学会学術集会（東京都），2016年10月14日.

８）**望月明見**，**成田　伸**：女子刑事施設内での避妊教育の必要性－女子受刑者に実施した調査から－．第57回日本母性衛生学会学術集会（東京都），2016年10月14日.

９）北川良子，**成田　伸**：助産師の職業生活の変化の様相．第57回日本母性衛生学会学術集会（東京都），2016年10月14日.

10）佐藤ひさ代，**成田　伸**：初めて妊娠糖尿病と診断された妊婦の妊娠中の困難と助産師の支援．第32回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会（岡山），2016年11月19日.

11）**野々山未希子**：女子中学生と母親の性に関する会話頻度と母から娘に伝えたい性情報．第35回日本思春期学会学術集会，東京．2016年8月28日.（第35回日本思春期学会総会・学術集会抄録集；94，2016）

12）**野々山未希子**：クラミジア感染症と母子の健康．日本性感染症学会第29回学術大会，岡山．2016年12月3日（日本性感染症学会誌　第27巻（第2号）；222，2016）

⑶　著書・総説

１）**成田　伸**，野口美和子：これからのへき地看護．日本ルーラルナーシング学会，11；90-97, 2016.

２）**野々山未希子**：性感染症予防と検査・受診しやすい環境整備．臨床と微生物，Vol.43（No.2）；009-014, 2016.

⑷　その他

１）**野々山未希子**：思春期の子どもたちへ　これだけは伝えたい．第51回東京思春期保健研究会，東京.2016年6月4日

小児看護学

⑴　学会発表

１）佐々木綾香，**横山由美**：小児血液腫瘍をもつ思春期の子どもの退院後の療養行動の継続に影響を与える要因と看護支援，東京，2016.12.17.（日本小児血液・がん学会雑誌，53 (4) , 452, 2016.）

⑵　資料

１）成田　伸，大塚公一郎，中村美鈴，**横山由美**，里光やよい，鈴木久美子，角川志穂，塚本友栄，浜端賢次，**田村敦子**，長谷川直人，平尾温司，福田順子：学生の学習状況・学習環境状況調査，自治医科大学看護学ジャーナル，13, 34, 2016.

２）**横山由美，田村敦子**，小西克恵，仙徳明美，相場雅代，黒田光恵，手塚園江，佐々木綾香，宗像　修，佐々木祥子：へき地における小児看護のあり方の検討　医療機関と学校との連携を焦点として，自治医科大学看護学ジャーナル，13, 23, 2016.

成人看護学

⑴　論文

１）**Ayaka Sasaki**, Naoko Sato, Naoki Suzuki, Michiko Kano, Yukari Tanaka, Motoyori Kanazawa, Masashi Aoki, Shin Fukudo: Associations between Single-Nucleotide Polymorphisms in Corticotropin-Releasing Hormone-Related Genes and Irritable Bowel Syndrome. PLoS One, 11 (2) ; e0149322, 2016.

２）牧　信行，小杉一江，永嶋智香，**中村美鈴**：終末期の延命治療に対する代理意思決定　高齢者の認識と課題．日本プライマリ・ケア連合学会誌，39 (3) ; 150-156. 2016.

３）小幡祐司，**中村美鈴**：重症患者における低活動型せん妄の早期発見のための看護実践．日本クリティカルケア看護学会誌，12 (1) ; 61-72, 2016.

４）町田真弓，**中村美鈴**：救急搬送された患者の入院後に到着した家族への関わりに対する熟練看護師の看護実践，日本クリティカルケア看護学会誌，12 (3) ; 11-23, 2016.

５）仲田みぎわ，城丸瑞恵，**佐藤幹代**，門林道子，水谷郷美，本間真理，いとうたけひこ：乳がん体験者の闘病記にみる病い体験による肯定的変化．死の臨床 39 (1) ; 185-191, 2016.

６）**長谷川直人**：働く2型糖尿病患者の社会生活を促進するための自己調整尺度の開発．2015年度東邦大学大学院看護学研究科看護学専攻博士論文，2016.

７）大池美也子，**長谷川直人**，道面千恵子，滝口成美，伊藤ひろみ，伊波早苗，安酸史子，河口てる子，下村裕子，小林貴子，井上智恵，横山悦子，東めぐみ，小田和美，近藤ふさえ，小長谷百絵，大澤栄実，岡美智代，林　優子，小平京子，太田美帆，恩幣宏美，下田ゆかり：「看護の教育的関わりモデル」を活用した教員とのアクションリサーチによる看護師の実践に対する認識の変化．日本看護科学学会誌，36；19－26，2016.

８）**古島幸江**：周術期における患者教育に関する一考察　－患者のempowermentを支え促進する－．日本手術医学会誌，4 (37) ; 250-253, 2016.

⑵　学会発表

１）Hiroaki Sato, **Misuzu Nakamura** :A Literature Review on Factors and Nursing Approaches Promoting the Recovery of Patients Receiving Critical Care, 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiba, Japan, 2016. 3.

２）**Mikiyo Sato**, Sakuma Sato, Rika, Yusuke Hama, Noriko Iba, Natsuko Takahasi: Benefit finding and professional identity: an analysis of narratives of healthcare professionals suffering from chronic pain. International Conference on Narratives of Health & Illness,Spain Tenerife,2016.2.（Video presentations; http://www.healthnarratives.org/wp-content/uploads/2016/02/Programa-Definitivo-as-091116.pdf）

３）Kadobayashi M, Migiwa Nakada, **Mikiyo Sato**, Mari Honma, Takehiko Ito, Mizue shiromaru: Clinical Application of Caring for Cancer Survivors through Writing to Originate a Sociological Study. Third ISA Forum of Sociology to be held in Vienna, Austria.2016,7.（https://isaconf.confex.com/isaconf/forum2016/webprogram/Paper77187.html）

４）Michiko Kadobayashi, Mizue Shiromaru, Migiwa Nakada, Mari Honma, **Mikiyo Sato**, Takehiko Ito: Evaluation of a Program for Cancer Survivors on Clinical Application of Writing. 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiba, Japan, 2016. 3.

５）**中村美鈴**，茂呂悦子，谷島雅子，佐藤博昭，宇都宮明美，細萱順一，榊　由里，**佐藤幹代**，内藤明子：38単位Advanced Practice Nursing教育課程における急性・重症患者看護専門看護師の実習展開の現状と課題．第36回日本看護科学学会学術集会，東京，2016年11月.（日本看護科学学会学術集会講演集，36; 192, 2016.）

６）細谷好則，斉藤　心，倉科憲太郎，去川俊二，**中村美鈴**，佐久間康成，堀江久永，アラン・レフォー，北山丈二，佐田尚宏：胃切除後の食道再建術式 食道切除後の血管吻合付加を伴う胸骨前Roux-en Y型空腸再建の検討．第71回日本消化器外科学会総会，徳島，2016年7月.（日本消化器外科学会総会抄録；1-4, 2016.）

７）宇都宮明美，**中村美鈴**：我が国におけるアドヒアランス研究の動向と心臓血管外科患者の周術期の課題に関する文献レビュー．第12回日本クリティカルケア看護学会，栃木，2016年6月.（日

本クリティカルケア看護学会誌，12（2）；228, 2016.）
８）町田真弓，**中村美鈴**，村上礼子：救急搬送された患者の入院後に到着した家族へ熟練看護師が今後実践したいと考える看護実践．第12回日本クリティカルケア看護学会，栃木，2016年6月.（日本クリティカルケア看護学会誌，12（2）;188, 2016.）
９）**中村美鈴**：急性・重症患者の回復を促す看護実践モデル構築に向けた取り組み．第12回日本クリティカルケア看護学会，栃木，2016年6月.（日本クリティカルケア看護学会誌，12（2）;39, 2016.）
10）村上礼子，川上　勝，関山友子，樅山定美，飯塚由美子，**中村美鈴**，早瀬行治，淺田義和，鈴木義彦，河野龍太郎：看護学生向けICLSコースにおける看護教員の役割　病棟急変場面における意図的な声かけの分析から．第4回日本シミュレーション医療教育学会，静岡，2016年9月.（日本シミュレーション医療教育学会雑誌，4;117-118. 2016.）
11）**佐藤幹代**，高橋奈津子，本間真理：慢性の痛みをもつ人とその家族の語りデータベースの構築．第45回　日本慢性疼痛学会，東京，2016年2月.（日本慢性疼痛学会抄録集，77, 2016.）
12）**佐藤幹代**，濱雄亮，佐藤（佐久間）りか，高橋奈津子，射場典子：慢性の痛みをもつ医療従事者の語りにみる病いの有益性.日本保健医療社会学会，東京，2016年5月.（日本保健医療社会学論文集27; 56, 2016.）
13）濱雄亮，**佐藤幹代**，高橋奈津子：慢性の痛みとともに生きる人の語りにみる「ストレス」．日本保健医療社会学会，東京，2016年5月.（日本保健医療社会学論集27; 39, 2016.）
14）門林道子，城丸瑞恵，仲田みぎわ，**佐藤幹代**：親密性の構築―「乳がん・婦人科がん体験者への『書く』ことでのケア臨床応用」を通して．第40回日本死の臨床研究会年次大会，東京，2016年10月.（日本死の臨床研究会抄録集 39（2）; 358, 2016.）
15）仲田みぎわ，城丸瑞恵，**佐藤幹代**，門林道子，水谷郷美：乳がん闘病記にみられる病い体験からの肯定的変化．第40回日本死の臨床研究会年次大会東京，2016年10月.（日本死の臨床研究会抄録集 39（2）; 368, 2016.）
16）森田夏実，射場典子，**佐藤幹代**，瀬戸山陽子，仙波美幸，和田恵美子，竹内登美子，高橋奈津子：患者の語り（ナラティブ）から何を学ぶか（Part 4）健康と病いの語り（DIPEx-Japan）を用いた医療者教育プログラム作成．日本看護学教育学会，東京，2016年8月.（日本看護学教育学会誌, 26; 133, 2016.）
17）射場典子，森田夏実，**佐藤幹代**，瀬戸山陽子，仙波美幸，和田恵美子，竹内登美子，高橋奈津子：患者の語り（ナラティブ）から何を学ぶか（Part 5）健康と病いの語り（DIPEx-Japan）の教育的活用の実際．日本看護学教育学会，東京，2016年8月.（日本看護学教育学会誌，26；135, 2016.）
18）森田夏実，射場典子，瀬戸山陽子，和田恵美子，**佐藤幹代**，仙波美幸：患者参画による患者の病い体験を尊重できる医療者教育プログラム作成:DIPEx‐Japan乳がんの語りを用いて.日本看護学教育学会，東京，2016年8月.（日本看護学教育学会誌，26; 147, 2016.）
19）**中野真理子, 佐々木雅史, 佐藤幹代, 中村美鈴**：ワールド･カフェ形式を取り入れた実習カンファレンスの教育効果－チーム医療を題材に－. 日本看護学教育学会第26回学術集会，東京，2016年8月23日.（日本看護学教育学会誌, 26; 138, 2016.）
20）城丸瑞恵，いとう たけひこ，門林道子，**佐藤幹代**，仲田みぎわ，水谷郷美：患者の語りに耳を傾けることの必要性と可能性　乳がん体験者（当事者）の語りに焦点を当てて．第36回日本看護科学学会学術集会，東京，2016年11月.（日本看護科学学会学術集会講演集　36回, P438, 2016年12月.
21）佐藤博昭，**中村美鈴，佐藤幹代**：術後期にある食道がん患者に対する痛み・苦悩緩和のための看護実践の文献検討．第12回日本クリティカルケア看護学会，栃木, 2016年6月.（日本クリティカルケア看護学会誌, 12（2）;209, 2016.）
22）**長谷川直人**，村岡宏子：働く2型糖尿病患者の社会生活を促進するための自己調整に影響する要因の検討．第21回日本糖尿病教育・看護学会学術集会，山梨，2016年9月18日.（第21回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集 20（特別号）；121, 2016）
23）小室葉月，佐藤菜保子，**佐々木彩加**，鈴木直輝，鹿野理子，田中由佳里，山口由美，金澤　素，割田　仁，青木正志，福土　審：コルチコトロピ

ン放出ホルモン受容体1，2遺伝子における一塩基多型と過敏性腸症候群との関連．心身医学会，仙台，2016年6月．（心身医学，56 (6) ; 636, 2016.）
24）村椿智彦，鹿野理子，石垣　泰，関口　敦，澤田正二郎，近藤敬一，事崎由佳，**佐々木彩加**，森下　城，金澤　素，片桐秀樹，川島隆太，福土　審：肥満症患者の灰白質容量とBMI，糖代謝指標との関係．心身医学会，仙台，2016年6月．（心身医学，56 (6) ;628, 2016.）
25）遠藤由香，佐藤康弘，**佐々木彩加**，庄司知隆，田村太作，町田知美，町田貴胤，菅井千奈美，福土　審：摂食障害に対する医療従事者の意識と行動．心身医学会，仙台，2016年6月．（心身医学, 56 (6) ;603, 2016.）
26）**佐々木彩加**，佐藤菜保子，鈴木直輝，金澤　素，青木正志，福土　審：過敏性腸症候群における副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン関連遺伝子．心身医学会，仙台，2016年3月．（心身医学, 56 (3) ;279, 2016.）

⑶　著書・総説

１）鶴見幸代，**中村美鈴**：【疾患別　病態関連図+観察ポイントとケア（Part2）】糖尿病（解説/特集）．プチナース，25 (12) ;22-27. 2016.
２）山本伊都子，**中村美鈴**：【疾患別　病態関連図+観察ポイントとケア（Part2）】肝硬変（解説/特集）．プチナース，25 (12) ;16-21. 2016.
３）**中村美鈴**：【疾患別　病態関連図+観察ポイントとケア（Part1）】子宮がん（解説/特集）．プチナース，25 (12) ;34-41. 2016.
４）佐藤博昭，**中村美鈴**：【疾患別　病態関連図+観察ポイントとケア（Part1）】クモ膜下出血（解説/特集）．プチナース，25 (12) ;16-21. 2016.
５）阿久津美代，**中村美鈴**：【疾患別　病態関連図+観察ポイントとケア（Part1）】狭心症/心筋梗塞（解説/特集）．プチナース，25 (12) ;10-15. 2016.
６）**佐藤幹代**：【疾患別　病態関連図+観察ポイントとケア（Part2）】網膜剥離．プチナース 25 (12) ;38-43, 2016.
７）**佐藤幹代**：【連載】患者の語りから学ぶ　看護ケア 第25回　手術後の痛みを慢性化させないために，ナースができることとは？．ナース専科;https://nursepress.jp/224104,2016.
８）**佐藤幹代**：【連載】患者の語りから学ぶ　看護ケア　第28回　抗がん剤による脱毛体験の意味を理解する．ナース専科; https://nursepress.jp/224364,2016.
９）**中野真理子**：【疾患別　病態関連図+観察ポイントとケア（Part 2）】肺がん．プチナース，25 (12) ;4-9, 2016.
10）**中野真理子**：【疾患別　病態関連図+観察ポイントとケア（Part 2）】前立腺がん．プチナース，25 (12) ;28-33, 2016.
11）**古島幸江**，**中村美鈴**：【疾患別　病態関連図+観察ポイントとケア（Part 1）】ネフローゼ症候群．プチナース，25 (11) 別冊付録 ; 22-27, 2016.
12）**古島幸江**：【器械出しの見つめ直しとスキルアップ！器械出しにおける看護・アセスメントと教育】エキスパートナースが実践している器械出し看護．手術看護エキスパート，10 (3) ;33-37, 2016.
13）**古島幸江**，伊藤敬子，小成　聡，佐伯智之，中村あんず，三淵未央：【目指せ！手術看護のエキスパート!!】手術看護認定看護師というキャリアを考える．手術ナーシング, 3 (1) ;64-71, 2016.
14）小田原直美，**古島幸江**：【目指せ！手術看護のエキスパート!!】手術室看護師としてのキャリアを考えてみませんか？．手術ナーシング，3 (1) ; 7-11, 2016.

⑷　資料

１）成田　伸，大塚公一郎，**中村美鈴**，横山由美，里光やよい，鈴木久美子，角川志穂，塚本友栄，浜端賢次，田村敦子，**長谷川直人**，平尾温司，福田順子：学生の学習状況・学習環境状況調査．自治医科大学看護学ジャーナル，13;34, 2016.
２）村上礼子，**中村美鈴**，川上　勝，関山友子，飯塚由美子，樅山定美，渡邉美智子，河野龍太郎，鈴木義彦，淺田義和：看護学生向けICLSコースにおける看護教員の役割　病棟急変場面における意図的な声かけ．自治医科大学看護学ジャーナル，13;31, 2016.

⑸　その他

１）鶴見幸代，**中村美鈴**：我が国における植込み型除細動器・両室ペーシング機能付き植込み除細動器に関連した看護研究の動向．第15回自治医科大学シンポジウム，栃木，2016年9月16日．
２）Itsuko Yamamoto, **Misuzu Nakamura**:

Difficulties of nursing practice for critical care nurses: A Literature Review: 第15回自治医科大学シンポジウム，栃木，2016年9月16日.

３）**佐々木彩加，佐藤幹代，中村美鈴，長谷川直人**，佐々木雅史，**中野真理子**：Effectiveness of Didactics and Learning through Visual Impairment Simulations. 第15回自治医科大学シンポジウム，栃木，2016年9月16日.

老年看護学

⑴　論文

１）**宮林幸江**，遺族期に起こる：“スピリチュアルペイン”－配偶者喪失遺族の生きる意味・生活の張り（生活充実感）の喪失－．日本ホスピス・在宅ケア研究会，24 (2) ;56-65, 2016.

２）**浜端賢次**，安藤　恵，宮林幸江：文献から見る認知症告知の現状と課題．川崎医療福祉学会誌，26 (1) ;121-127, 2016.

３）髙野倉雅人，三宅将文，松井正之，**川上　勝**，筧宗徳，滝　聖子，山田哲男：介護老人福祉施設における介護業務の調査方法と作業改善に関する事例研究．日本設備管理学会誌，28巻（2号）;86-93, 2016.

⑵　学会発表

１）**浜端賢次**，**宮林幸江**，簗瀬順子，石川裕子，福原江美，増渕美幸，水野百子，押久保絵美，高田沙織，松浦　徹：神経内科病棟における安全帯解除基準案（第2案）の検討．第57回日本神経学会学術集会，神戸市（兵庫県）．2016年5月20日（臨床神経学，56（別冊）;384, 2016）

２）福原江美，増渕美幸，水野百子，押久保絵美，高田沙織，簗瀬順子，**浜端賢次**，松浦　徹：安全帯解除基準の安全性の検証　安全帯を使用した退院患者の分析から．第57回日本神経学会学術集会，神戸市（兵庫県）．2016年5年20日（臨床神経学，56（別冊）;392, 2016）

３）**浜端賢次**，小池純子，**宮林幸江**：BPSDを伴う認知症高齢者の地域生活支援．第58回日本老年社会科学会学術集会，松山市（愛媛県）．2016年6月11日（老年社会科学，38 (2) ;210, 2016.）

４）**宮林幸江**，**浜端賢次**：高齢遺族における抑うつと不健康・健康．第21回日本老年看護学会学術集会，さいたま市（埼玉県）．2016年7月23日（日本老年看護学会第21回学術集会抄録集;147, 2016.）

５）**清水みどり**：重度の摂食・嚥下障害を有する特養入所者の経口摂取に向けた看護職の役割行動－看護-介護連携に着目して－．日本老年看護学会第21回学術集会，さいたま市（埼玉県）．2016年7月24日.（日本老年看護学会第21回学術集会抄録集，2016）

６）**宮林幸江**：多様化しつつある悲嘆反応－特異的な配偶者喪失の3事例－．第23回日本家族看護学会，山形県（山形市）．2016年8月27日.（日本家族看護学会　第23回学術集会抄録集;178, 2016）

７）里光やよい，本田芳香，**浜端賢次**，**清水みどり**，湯山美杉，岡野朋子，大澤弘子：模擬患者を用いたアセスメント演習に参加した地域で活動する看護師の自己評価．第11回日本ルーラルナーシング学会学術集会，中央市（山梨県）．2016年9月3日.

８）**川上　勝**，鈴木美津枝，三科志穂，清水みどり，福田順子，田村敦子，平尾温司，村上礼子，春山早苗：プラットフォーム型シミュレータに関する研究－瘻孔管理研修に用いて－．第4回日本シミュレーション医療教育学会，浜松市，2016年9月24日，（第4回日本シミュレーション医療教育学会抄録集;53, 2016）

９）弘田智香，福田順子，**浜端賢次**，大澤弘子，塩崎純子，亀田美智子，中山鈴子，渡辺道子，大海佳子，小谷妙子：10か月間で3病棟をローテーションする新人看護師への効果的な支援の在り方．第47回日本看護学会（看護管理）学術集会，金沢市（石川県）．2016年9月27日（第47回日本看護学会－看護管理－学術集会 抄録集;178, 2016）

10）**宮林幸江**：日本人の「悲嘆尺度」－信頼性と妥当性の検討－．第40回日本死の臨床研究会，札幌市（北海道）．2016年10月9日.（死の臨床 39 (2) ;439, 2016）

⑶　著者・総説

１）**宮林幸江**：家族の死．婦人公論，101 (16) ; 24-27, 2016.

⑷　資料

１）上野千鶴子，**宮林幸江**：Studies in Japanese Grief, Religion and Disaster(1): Literature Review. 自治医科大学看護学ジャーナル，14;53, 2016.

２）**川上　勝**，戸田浩司，塚本浩章，若林宣江：誤嚥予防用装着型食具の開発．自治医科大学看護学ジャーナル, 14;41, 2016.

⑸　その他

１）上野千鶴子，**宮林幸江**：Studies in Japanese Grief, Religion and Disaster（1）: Literature Review. 第15回自治医科大学シンポジウム　ポ

スターセッション，下野市（栃木）．2016年9月16日.（自治医科大学看護学ジャーナル，14;53,2016）

看護技術開発学

⑴　論文

１）**八木(佐伯)街子**：eラーニングによる事前学習を用いたフィジカルアセスメントトレーニングに関する評価．日本ルーラルナーシング学会誌，11；15-25　2016

２）**八木(佐伯)街子**，山内豊明：患者情報の収集を目的としたシミュレーションの開発と比較・評価．日本シミュレーション医療教育学会雑誌，4；1-9，2016.

⑵　学会発表

１）**Yagi MS**，Yamauchi T，Honda I.: Development and evaluation of simulation training for patient information gathering and Assessment. The International Meeting on Simulation in Healthcare 2016, San Diego. January 17, 2016.

２）**Yagi MS**, Kumagai N, Funakoshi C, Masuda M.: Development of e-learning material for sophomore nursing students to simulate clinical practice. The Association for Medical Education in Europe, Barcelona. August 29.（Proceeding of The Association for Medical Education in Europe 2016, 270;#4JJ16（126905）, 2016.）

３）Masuda M, Matsumoto K, Sugiyama F, Shogaki J, Yamamoto M, **Yagi MS**：3rd Asia-Pacific Meeting on Simulation in Healthcare 2016, Singapore. November 15-16.　Proceedings of the 3rd Asia-Pacific Meeting on Simulation in Healthcare 2016; 98-99. 2016）

４）**Yagi MS**, Shibata Y, Hada T.: Development and improvement of story-type e-learning materials for medical use. 3rd Asia-Pacific Meeting on Simulation in Healthcare 2016, Singapore. November 15-16.（Proceedings of the 3rd Asia-Pacific Meeting on Simulation in Healthcare 2016; 86-87, 2016）

５）**Yagi MS**, Asada Y, Hiroe T, Mishina S.:The Society of Medical Education for the Next Generation: 2016 Update. The 48th Annual Meeting of the Japan Society for Medical Education, International Session, Osaka. July 29, 2016.

６）**村上礼子**：看護師特定能力事業への期待と展望　自治医科大学看護師特定行為研修修了生への期待と展望．第66回日本救急医学会関東地方会，東京．2016年2月6日．（日本救急医学会関東地方会雑誌，37 (1)；86, 2016.）

７）**村上礼子**：特定行為に係る看護師の研修制度の実際と課題　自治医科大学看護師特定行為研修センターの取り組み．第43回日本集中治療医学会学術集会，神戸市．2016年2月11～14日．（日本集中治療医学会雑誌，23 (Suppl)；259, 2016）

８）町田真弓（前橋赤十字病院），中村美鈴，**村上礼子**：救急搬送された患者の入院後に到着した家族へ熟練看護師が今後実践したいと考える看護実践．第12回日本クリティカルケア看護学会学術集会，下野市．2016年6月4～5日．（日本クリティカルケア看護学会誌，12 (2)；188, 2016.）

９）**村上礼子**，春山早苗，岩澤和子：国民の暮らしを支えるための看護のさらなる専門性の発揮　指定研修機関の取組と研修修了者の活躍，第36回日本看護科学学会学術集会，東京．2016年12月10～11日．（第36回日本看護科学学会学術集会講演集，188, 2016.）

10）遠藤沙希，矢部友理，土屋留美，**村上礼子**，讃井將満，飯塚悠祐，八木橋智子，草浦理恵，春山早苗，簑田清次：呼吸器関連　看護師特定行為研修を終えて．第38回日本呼吸療法医学会学術集会，名古屋市．2016年7月16～17日．

11）**村上礼子**，春山早苗：看護師特定行為研修の実際と地域医療における研修修了者への期待（特別企画）．第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，東京．2016年6月12日

12）**村上礼子**：特定行為研修の現状～指定研修機関の取り組み～（特別講演Ⅱ）．日本看護歴史学会第30回学術集会，松戸市．2016年8月21日．

13）鈴木美津枝，**村上礼子**，関山友子，江角慎吾，川上勝，飯塚秀樹，石井慎一郎，淺田義和，春山早苗：ICTを活用した遠隔教育の推進に向けた教育方法の検討－特定行為に係る看護師の研修制度の受講生の思いに注目して－．日本ルーラルナーシング学会第11回学術集会，中央市．2016年9月3日．（日本ルーラルナーシング学会第11回学術集会抄録集；29，2016）

14）**村上礼子**，鈴木美津枝，三科志穂，関山友子，江角慎吾：ICTを活用した演習からシミュレーション実習へ繋ぐ企画の評価と今後の課題．第4

回シミュレーション医療教育学会学術大会，浜松市．2016年9月24日．
15）川上　勝，鈴木美津枝，三科志穂，清水みどり，福田順子，田村敦子，平尾厚司，**村上礼子**，春山早苗：プラットフォーム型シミュレータの開発．第4回シミュレーション医療教育学会学術大会，浜松市．2016年9月24日．
16）熊谷奈穂，**八木(佐伯)街子**，舩越千佳.：心拍動下冠動脈バイパス手術における器械出し看護eラーニング教材の開発．第10回医療系e-ラーニング全国交流会，大阪．2016年1月30日．
17）**八木(佐伯)街子**：eラーニング・eポートフォリオを用いた教育実践ショーケース．第8回医療教授システム学会総会，東京．2016年3月3日．（第8回日本医療教授システム学会総会プログラム・抄録集；35，2016）
18）**八木(佐伯)街子**，柴田喜幸，波田哲朗，池上敬一：医療用ストーリー型eラーニング教材の試用調査後の改善案－あずさプロジェクト報告－．第8回日本医療教授システム学会総会，東京．2016年3月3日．（第8回日本医療教授システム学会総会プログラム・抄録集；103-104，2016）
19）**八木(佐伯)街子**，熊谷奈穂，舩越（鰍澤）千佳：解剖画像システムを用いた授業デザイン方法に関する実践報告．第8回日本医療教授システム学会総会，東京．2016年3月3日．（第8回日本医療教授システム学会総会プログラム・抄録集；134-136，2016）
20）**八木(佐伯)街子，村上礼子**，鈴木美津枝，淺田義和，三科志穂，関山友子，川上　勝：特定行為に係る看護師の研修におけるフォーラム機能の利用状況と改善方法．日本教育工学会第32回全国大会，大阪．2016年9月17日．（日本教育工学会第32回全国大会プログラム集；405-406，2016）
21）沼野井翔太，**八木(佐伯)街子**，廣江貴則，熊谷奈穂：看護学生のシミュレーターを用いた自己学習の阻害因子と促進方法の提案．第4回日本シミュレーション医療教育学会学術大会，浜松市．2016年9月24日．

⑶　その他

１）**村上礼子**：看護師の特定行為研修の実際－指定研修機関委おける研修の実際－．平成28年度第1回看護師の特定行為研修に係る説明会（関東信越厚生局主催），さいたま市．2016.
２）**村上礼子**：特定行為研修について．群馬縣看護師長協議会平成28年度研修会，前橋市．2016年11月17日．
３）**村上礼子**：特定行為を学び，看護実践に活かすということ．第1回滋賀医科大学特定行為フォーラム，草津市．2017年2月19日．

資　　料

2016年度（平成28年度）看護学部学年暦

○前学期

４月１日（金）	ガイダンス（2・3・4年）
４月４日（月）	授業開始（2・3・4年）
４月６日（水）～７日（木）	オリエンテーション（1年）
４月８日（金）	入学式，オリエンテーション（1年）
４月11日（月）	授業開始（1年）
４月29日（金）～５月５日（木）	春季休業
５月９日（月）～６月３日（金） ６月13日（月）～７月22日（金）	前学期実習（3年）
５月14日（土）	創立記念日
６月６日（月）～６月10日（金）	対象の理解実習（1年）
７月14日（木）～７月15日（金）	定期試験（4年）
７月25日（月）～８月５日（金）	総合実習（4年）
７月19日（火）～７月26日（火）	定期試験（1・2年）
８月３日（水）～９月25日（日）	夏季休業
９月５日（月）～９月７日（水）	再試験

○後学期

９月26日（月）	授業開始
８月29日（月）～10月21日（金）	助産学実習（4年）
９月23日（金）～10月６日（木）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
10月７日（金）～10月９日（日）	学園祭
10月11日（火）～10月24日（月）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
11月21日（月）～12月22日（木） １月10日（火）～２月17日（金）	後学期実習（3年）
12月23日（金）～１月３日（火）	冬季休業
２月６日（月）～２月10日（金）	定期試験（1・2年）
２月24日（金）～２月27日（月）	再試験
３月３日（金）	卒業式
３月18日（土）～	学年末休業

自治医科大学看護学部の概況（平成29年3月31日現在）

1．教　員　数	40名
2．学　生　数	416名
4年生（平成25年4月1日入学）	104名
3年生（平成26年4月1日入学）	102名
2年生（平成27年4月1日入学）	105名
1年生（平成28年4月1日入学）	105名

看護学部教職員名簿

1．教員

職　名	氏　名	主要担当科目
教　授	春　山　早　苗	地　域　看　護　学
教　授	大　塚　公一郎	看　護　基　礎　科　学
教　授	小　原　　泉	基　礎　看　護　学
教　授	永　井　優　子	精　神　看　護　学
教　授	中　村　美　鈴	成　人　看　護　学
教　授	成　田　　伸	母　性　看　護　学
教　授	野々山　未希子	母　性　看　護　学
教　授	半　澤　節　子	精　神　看　護　学
教　授	本　田　芳　香	基　礎　看　護　学
教　授	宮　林　幸　江	老　年　看　護　学
教　授	横　山　由　美	小　児　看　護　学
教　授	渡　邉　亮　一	看　護　基　礎　科　学
教　授	村　上　礼　子	
（兼）		
准教授	川　上　　勝	老　年　看　護　学
准教授	北　田　志　郎	看　護　基　礎　科　学
准教授	佐　藤　幹　代	成　人　看　護　学
准教授	里　光　やよい	基　礎　看　護　学
准教授	鈴　木　久美子	地　域　看　護　学
准教授	角　川　志　穂	母　性　看　護　学
准教授	塚　本　友　栄	地　域　看　護　学
准教授	浜　端　賢　次	老　年　看　護　学
講　師	飯　塚　秀　樹	看　護　基　礎　科　学
講　師	飯　塚　由美子	基　礎　看　護　学
講　師	佐々木　雅　史	成　人　看　護　学
講　師	島　田　裕　子	地　域　看　護　学
講　師	清　水　みどり	老　年　看　護　学
講　師	関　山　友　子	地　域　看　護　学
講　師	田　村　敦　子	小　児　看　護　学
講　師	中　野　真理子	成　人　看　護　学
講　師	長谷川　直　人	成　人　看　護　学
講　師	平　尾　温　司	看　護　基　礎　科　学
講　師	福　田　順　子	基　礎　看　護　学
講　師	八　木　街　子	基　礎　看　護　学
助　教	青　木　さぎ里	地　域　看　護　学
助　教	石　井　慎一郎	精　神　看　護　学
助　教	江　角　伸　吾	地　域　看　護　学
助　教	岡　野　朋　子	基　礎　看　護　学
助　教	近　藤　まゆみ	母　性　看　護　学
助　教	佐々木　彩　加	成　人　看　護　学
助　教	古　島　幸　江	成　人　看　護　学
助　教	路　川　達阿起	精　神　看　護　学
助　教	宗　像　　修	小　児　看　護　学
助　教	望　月　明　見	母　性　看　護　学
助　教	湯　山　美　杉	基　礎　看　護　学

※平成28年4月1日～平成29年3月31日在職者
（各職階ごとの50音順）

2．事務部

職　名	氏　名
大学事務部長	飯　山　尚　人
大学事務副部長	松　下　正　弘
（看護学部担当）	

（看護総務課）

職　名	氏　名
課　　長	塙　　建　夫
課長補佐（兼）係長	飯　村　久　恵
主任主事	直　井　賢　治
主　　事	森　下　寿美子
主　　事	津久井　仁　美

（看護学務課）

職　名	氏　名
課　　長	安　島　幸　子
参　　事	三　上　博　史
課長補佐（兼）係長	湯　浅　芳　恵
主任主事	佐　藤　美　里
主　　事	渡　辺　慎　吾
主　　事	野　口　大　輔
嘱　　託	髙　槻　祥　子
嘱　　託	中　村　里　子

2016年度（平成28年度）大学院看護学研究科学年暦

○前期

４月７日（木）	入学式
	オリエンテーション，授業開始
４月14日（木）	履修計画の提出締切
５月14日（土）	創立記念日

○後期

10月３日（月）	授業開始
11月７日（月）	研究構想発表会
12月19日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切
１月23日（月）～１月27日（金）	論文審査・口頭試問
２月13日（月）	学位論文発表会（最終試験）
２月27日（月）	学位論文（保存用）最終締切
３月21日（火）	修了式（学位授与式）

大学院看護学研究科の概況（平成29年3月31日現在）

１．教　員　数　　23名

２．学　生　数　　23名

2年生（長期履修制度利用者）※博士前期	10（3）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士前期	7（5）名
3年生（長期履修生度利用者）※博士後期	3（3）名
2年生（長期履修制度利用者）※博士後期	3（3）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（1）名

大学院看護学研究科教職員名簿

1．教員

職　名	氏　名	主要担当科目
教　授	春　山　早　苗	地域看護管理学
教　授	大　塚　公一郎	共　通　科　目
教　授	小　原　　泉	が　ん　看　護　学
教　授	永　井　優　子	精　神　看　護　学
教　授	中　村　美　鈴	クリティカルケア看護学
教　授	成　田　　伸	母　性　看　護　学
教　授	野々山　未希子	母　性　看　護　学
教　授	半　澤　節　子	精　神　看　護　学
教　授	本　田　芳　香	が　ん　看　護　学
教　授	宮　林　幸　江	老年看護管理学
教　授	横　山　由　美	小　児　看　護　学
教　授	渡　邉　亮　一	共　通　科　目
教　授	村　上　礼　子	看護技術開発学
（兼）		
准教授	川　上　　勝	老年看護管理学
准教授	北　田　志　郎	共　通　科　目
准教授	佐　藤　幹　代	クリティカルケア看護学
准教授	里　光　やよい	看護技術開発学
准教授	鈴　木　久美子	地域看護管理学
准教授	角　川　志　穂	母　性　看　護　学
准教授	塚　本　友　栄	地域看護管理学
准教授	浜　端　賢　次	老年看護管理学
講　師	福　田　順　子	看護技術開発学
講　師	八　木　街　子	看護技術開発学

※平成28年4月1日～平成29年3月31日在職者
（各職階ごとの50音順）

2．事務部

職　名	氏　名
大学事務部長	飯　山　尚　人
大学事務副部長	松　下　正　弘
（看護学部担当）	

（看護総務課）

職　名	氏　名
課　　長	塙　　建　夫
課長補佐（兼）係長	飯　村　久　恵
主任主事	直　井　賢　治
主　　事	森　下　寿美子
主　　事	津久井　仁　美

（看護学務課）

職　名	氏　名
課　　長	安　島　幸　子
参　　事	三　上　博　史
課長補佐（兼）係長	湯　浅　芳　恵
主任主事	佐　藤　美　里
主　　事	渡　辺　慎　吾
主　　事	野　口　大　輔
嘱　　託	髙　槻　祥　子
嘱　　託	中　村　里　子

編　集　後　記

本号上梓で，やっぱりホッとする編集委員です。

上梓の為に御協力頂きました皆様有り難うございました。

記録という形の大事さを思い，出来上がった内容には，看護学部の未来そしてひいては看護という分野全体に向って，広がる形の第一歩であると感じています。

学部と大学院の教育の様子が詳細に記載され，委員会活動としてや，大学の教育部分以外の部分で，学生を始め教員らの個々をも支持・保護し，看護学部全体への流れが理解できます。

教育分野別の報告では，授業に学会・研究にと大学人としてバランスよく努力を続ける先生方の教育・研究活動がわかります。

編集に関し何かとお世話になって居ります事務方にも心より感謝申し上げます。

（平成30年3月　編集委員会　副委員長　宮林　幸江）

編集委員会

自治医科大学看護学部

委 員 長	村上　礼子
副委員長	宮林　幸江
委　　員	小原　　泉
	角川　志穂
	鹿野　浩子
	八木　街子
編集担当	看護総務課
	森下寿美子

自 治 医 科 大 学 看 護 学 部 年 報（第15号）
自治医科大学大学院看護学研究科年報（第11号）

平成30年３月31日発行

発　行　者	学部長（研究科長）	春　山　早　苗
編集責任者	編集委員会委員長	村　上　礼　子
発　行　所	自治医科大学看護学部 栃木県下野市薬師寺3311－159 電話　0285（58）7409	
印　刷　所	㈱松井ピ・テ・オ・印刷 栃木県宇都宮市陽東5－9－21 電話　028（662）2511㈹	